船橋市飛ノ台貝塚

― 海神県営住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―

平成23年３月

千　葉　県　県　土　整　備　部

財団法人　千葉県教育振興財団

船橋市飛ノ台貝塚

— 海神県営住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

第４ブロック
玉髄
玉髄
玉髄
安山岩１
安山岩３
安山岩６
凝灰岩
頁岩
第３ブロック
頁岩
玉髄
玉髄
安山岩１
安山岩３
安山岩３
第２ブロック
玉髄
玉髄
玉髄
チャート
玉髄
玉髄
玉髄
玉髄
玉髄
玉髄
玉髄
玉髄
安山岩１
安山岩２
安山岩１
安山岩１
安山岩４
安山岩１
安山岩２
安山岩４
安山岩１
安山岩１
安山岩６
頁岩
頁岩
安山岩
安山岩
石英斑岩
チャート
砂岩
第１ブロック
黒曜石
IIc
III
IV
V
VI
VII
IXa
IXb
IXc
Xa
Xb
Xc

序　　文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県教育振興財団調査報告第656集として、海神県営住宅建設に伴って実施した船橋市飛ノ台貝塚の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器群、縄文時代早期の土坑・炉穴、古墳時代の竪穴住居跡が検出され、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成23年３月

財団法人　千葉県教育振興財団
理事長　赤　羽　良　明

凡　　例

1　本書は、千葉県県土整備部住宅課による海神県営住宅建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は、千葉県船橋市海神３丁目1210-３ほかに所在する飛ノ台貝塚（７）・(10)・(11)（遺跡コード204-014）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第１章に記載した。

5　本書の執筆は、第２章第１節・第３章第１節を上席研究員落合章雄、第２章第３節・第３章第２節を副部長兼整理課長西川博孝が担当し、その他を上席研究員木原高弘が担当した。

6　本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　1/25,000地形図「船橋」(NI-54-25-2-2)

第４図　船橋市発行　1/2,500地形図（船橋市27）

7　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。測量については、日本測地系に基づいている。

8　周辺地形の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

9　第２章第１節に掲載した石器組成表は、横項目を器種、縦項目を石材として点数、重量について集計した。各セルの上段が点数、下段が重量である。また、縦横合計と共に、組成比の項目をパーセント表示にて明記している。

10　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県県土整備部住宅課、船橋市教育委員会の御指導、御協力を得た。

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　1　調査の経緯と経過……1
　　2　調査の方法……3
　第２節　遺跡の位置と周辺の環境……9
　　1　位置と自然環境……9
　　2　歴史的環境……10
第２章　遺構と遺物……12
　第１節　旧石器時代……12
　　1　概要……12
　　2　遺構と遺物……15
　第２節　縄文時代……48
　　1　概要……48
　　2　土坑・炉穴……48
　　3　遺構外出土遺物……65
　第３節　古墳時代……72
　　1　概要……72
　　2　竪穴住居跡……72
　第４節　中・近世……80
　　1　概要……80
　　2　溝状遺構……80
　　3　土坑……83
　　4　遺構外出土遺物……83
第３章　まとめ……85
　第１節　旧石器時代……85
　第２節　縄文時代……85
　　1　飛ノ台貝塚の広がり……85
　　2　炉穴について……86
　　3　包含層出土土器について……86
　第３節　古墳時代……87
　　1　竪穴住居跡と出土土器の様相……87

報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置と地形……2
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡……2
第３図　グリッド名称例……3
第４図　飛ノ台貝塚調査地点……4
第５図　上層確認トレンチ及び本調査範囲……5
第６図　下層確認グリッド及び本調査範囲……6
第７図　上層遺構分布図……7
第８図　下層出土状況図……8
第９図　土層柱状図……12
第10図　第１ブロック器種別遺物分布……13
第11図　第１ブロック石材別遺物分布……14
第12図　第１ブロック出土石器……14
第13図　第２・第３ブロック器種別遺物分布　16
第14図　第２・第３・第４ブロック石器接合状況……17
第15図　第２・第３ブロック石材別遺物分布　18
第16図　第２ブロック礫分布……19
第17図　第２・第３ブロック出土石器形状比　20
第18図　第２ブロック出土石器（１）……22
第19図　第２ブロック出土石器（２）……23
第20図　第２ブロック出土石器（３）……24
第21図　第２ブロック出土石器（４）……25
第22図　第２ブロック出土石器（５）……26
第23図　第２ブロック出土石器（６）……27
第24図　第２ブロック出土石器（７）……28
第25図　第２ブロック出土石器（８）……29
第26図　第２ブロック出土石器（９）……30
第27図　第２ブロック出土石器（10）……31
第28図　第２ブロック出土石器（11）……32
第29図　第２ブロック出土石器（12）……33
第30図　第２ブロック出土石器（13）……34
第31図　第３ブロック出土石器……36
第32図　第４ブロック器種別遺物分布……37
第33図　第４ブロック石材別遺物分布……38
第34図　第４ブロック出土石器（１）……39
第35図　第４ブロック出土石器（２）……40
第36図　単独出土石器……41
第37図　SK006・SK008……48
第38図　SK009……49
第39図　SK010・SK011……52
第40図　SK012・SK015（１）……53
第41図　SK012・SK015（２）……54
第42図　SK013・SK017……55
第43図　SK014・SK016……56
第44図　SK018・SK019……57
第45図　SK020……59
第46図　SK021・SK022・SK023……60
第47図　SK025・SK026……61
第48図　SK027・SK028・SK029……63
第49図　SK030・SK031……64
第50図　遺構外出土縄文土器（１）……66
第51図　遺構外出土縄文土器（２）……67
第52図　遺構外出土縄文土器（３）……68
第53図　遺構外出土縄文土器（４）……69
第54図　縄文時代石器……71
第55図　SI001……73
第56図　SI002……74
第57図　SI003……76
第58図　SI004(1)……77
第59図　SI004(2)……78
第60図　SD001・SD002・SK007……81
第61図　SD003・SD004・SD005……82

表 目 次

第１表　遺構番号対照表……9
第２表　周辺遺跡一覧表……11
第３表　第１ブロック石器組成表……14
第４表　第２ブロック石器組成表……20
第５表　第３ブロック石器組成表……35
第６表　第４ブロック石器組成表……37
第７表　旧石器時代石器属性表……42
第８表　古墳時代土器観察表……79
第９表　古墳時代土製品・石製品計測表……79
第10表　中・近世陶磁器・土器計測表……84
第11表　中・近世土製品・石製品・銭貨・瓦計測表……84

図版目次

巻頭図版
図版１　飛ノ台貝塚周辺航空写真
図版２　調査区近景
旧石器時代調査区空中写真
図版３　第２・３ブロック遺物出土状況
第２ブロック遺物出土状況
第４ブロック遺物出土状況
図版４　SK006、SK007
SK008、SK009
SK009、SK010
SK011、SK012
SK013・014、SK015
図版５　SK016、SK017
SK018、SK019
SK020
SK021、SK022
SK023、SK025
図版６　SK026、SK027
SK028、SK029
SK030、SK031
SD001、SD002
SD003、SD004、SD005
図版７　SI001、SI001カマド
SI001
SI002、SI002遺物出土状況
図版８　SI002、SI003、SI004
図版９　旧石器時代石器（１）
図版10　旧石器時代石器（２）
図版11　旧石器時代石器（３）
図版12　旧石器時代石器（４）
図版13　旧石器時代石器（５）
図版14　旧石器時代石器（６）
図版15　旧石器時代石器（７）
図版16　旧石器時代石器（８）
図版17　旧石器時代石器（９）
図版18　旧石器時代石器（10）
図版19　旧石器時代石器（11）
図版20　旧石器時代石器（12）
図版21　遺構出土縄文土器（１）
図版22　遺構出土縄文土器（２）
図版23　遺構出土縄文土器（３）
遺構外出土縄文土器（１）
図版24　遺構外出土縄文土器（２）
図版25　遺構外出土縄文土器（３）
図版26　縄文時代石器
古墳時代住居跡出土土器（１）
図版27　古墳時代住居跡出土土器（２）
古墳時代住居跡出土土製品・石製品
図版28　中・近世陶磁器・土器
中・近世土製品・石製品・銭貨・瓦

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

千葉県県土整備部住宅課は、船橋市海神県営住宅の建て替え建設事業を計画した。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地である飛ノ台貝塚の東端に位置していたため、遺跡の取り扱いについて千葉県教育委員会と協議した。その結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなり、調査は財団法人千葉県教育振興財団に委託されることとなった。

発掘調査は、建て替え工事の工事計画に基づいて事業地内を３区に分けて、事業地の北側から調査を実施した。平成15年度は事業地内の北側に位置する調査対象面積3,999㎡の範囲を調査した。調査の結果、旧石器時代遺物集中地点４か所、単独出土地点２か所、縄文時代の炉穴10基、土坑２基、近世道路状遺構１条、溝状遺構２条を検出した。平成18年度は平成15年度の南に隣接した中央の調査対象面積3,305㎡の範囲を調査した。検出遺構は旧石器時代単独出土地点１か所、縄文時代炉穴10基、土坑３基、古墳時代竪穴住居跡１軒であった。平成21年度は平成18年度の調査区の南側に隣接する南端の調査対象面積2,400㎡の範囲を調査した。検出遺構は縄文時代炉穴２基、古墳時代竪穴住居跡４軒で、そのうち１軒は平成18年度調査の住居跡と連続する同一のものであった。なお、以下の遺跡名の末尾に付した括弧内の数字は船橋市で登録している飛ノ台貝塚における調査次数を示し、当財団が実施した調査の調査次数とは異なるものである。

整理作業は発掘調査終了直後の平成15年度から開始し、平成22年度まで断続的に実施し、報告書刊行の運びとなった。

発掘調査・整理作業に係わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は以下のとおりである。

（１）発掘調査

平成15年度　飛ノ台貝塚（７）

期　　間　　平成15年５月１日～平成15年８月15日

組　　織　　調査部長　斎木　勝　北部調査事務所長　古内　茂

担当職員　上席研究員　矢本節朗

内　　容　　確認調査　上層 600㎡、下層 191㎡（調査対象面積 3,999㎡）

本 調 査　上層 552㎡、下層 123㎡

平成18年度　飛ノ台貝塚（10）

期　　間　　平成18年９月18日～平成18年12月28日

組　　織　　調査部長　矢戸三男　西部調査事務所長　田坂　浩

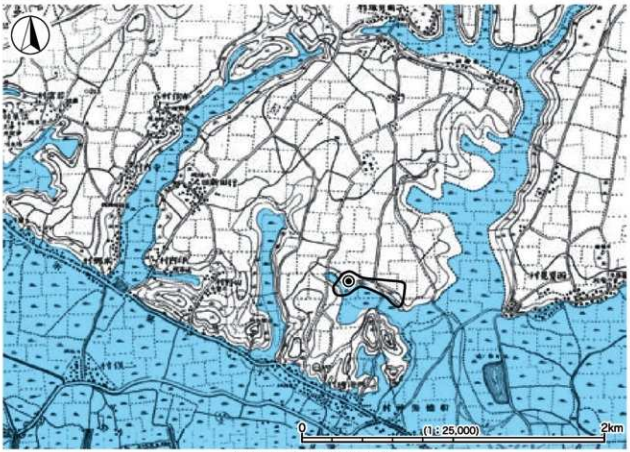
担当職員　上席研究員　豊田秀治

内　　容　　確認調査　上層 701㎡、下層 164㎡（調査対象面積 3,305㎡）

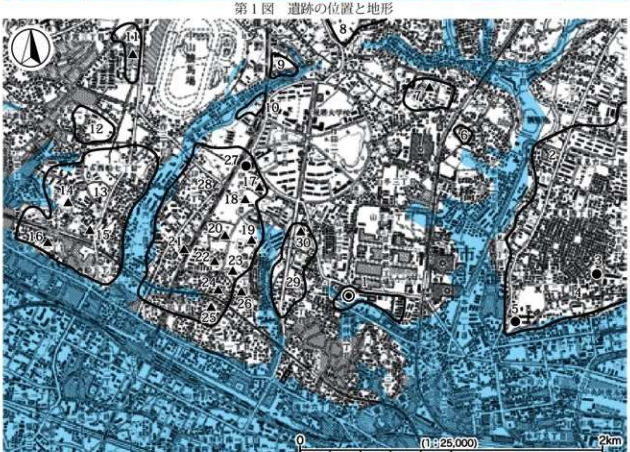
本 調 査　上層 1,118㎡、下層０㎡

平成21年度　飛ノ台貝塚（11）

期　　間　　平成22年２月１日～平成22年３月25日



第１図　遺跡の位置と地形



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

組　織　　調査研究部長　及川淳一　西部調査事務所長　橋本勝雄
　　担当職員　上席研究員　柴田龍司
内　容　　確認調査　上層 300㎡、下層 48㎡（調査対象面積 2,400㎡）
　　本 調 査　上層 434㎡、下層０㎡

（２）整理作業

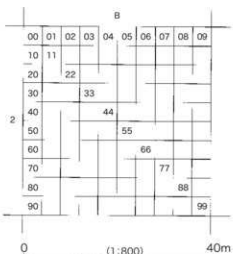
平成15年度　飛ノ台貝塚（７）
期　間　　平成15年８月16日～９月30日
　　平成16年１月15日～３月23日
組　織　　調査部長　斎木　勝　北部調査事務所長　古内　茂
　　担当職員　副所長兼主席研究員　岡田誠造、上席研究員　西口　徹・石川　誠・
　　矢本節朗、研究員　立和名明美
内　容　　記録整理から実測の一部

平成18年度　飛ノ台貝塚（７・10）
期　間　　平成19年１月４日～平成19年３月23日
組　織　　調査研究部長　矢戸三男　整理課長　郷田良一
　　担当職員　主席研究員　今泉　潔　上席研究員　落合章雄
内　容　　記録整理から実測の一部

平成22年度　飛ノ台貝塚（７）（10）（11）
期　間　　平成22年７月１日～平成22年10月29日
組　織　　調査研究部長　及川淳一　副部長兼整理課長　西川博孝
　　担当職員　上席研究員　木原高弘
内　容　　水洗・注記から報告書刊行

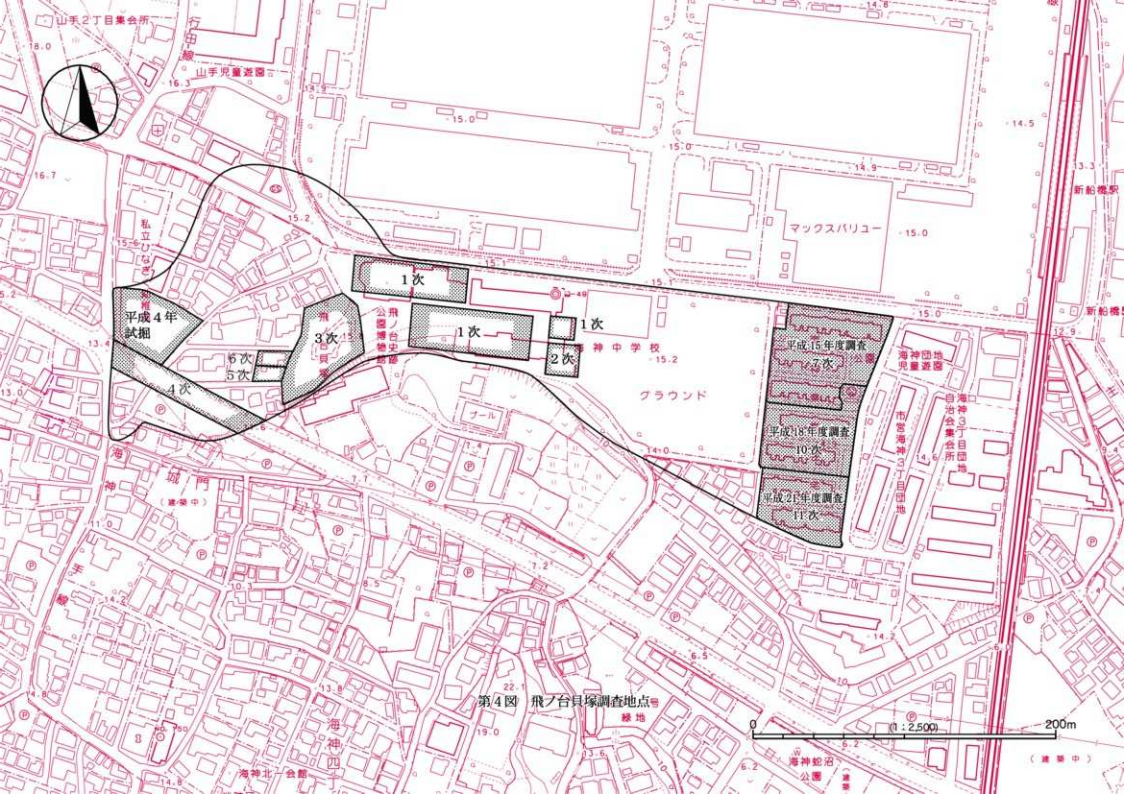
２　調査の方法（第３・５・６図）

調査にあたっては事業対象範囲全体を覆うように、北西隅を基点として方眼網を第９座標系（日本測地系）の公共座標に合わせて設定した。方眼網は40m×40mの区画を大グリッドとし、大グリッドの呼称法は、基点をA0とし、南へは算用数字、東へはアルファベットを付し、これを組み合わせて大グリッド名とした。大グリッドの中はさらに４m×４mごとに分割し、北西隅を基点に00、01、02……として南東隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、B2-34グリッドのように表示した（第１図）。

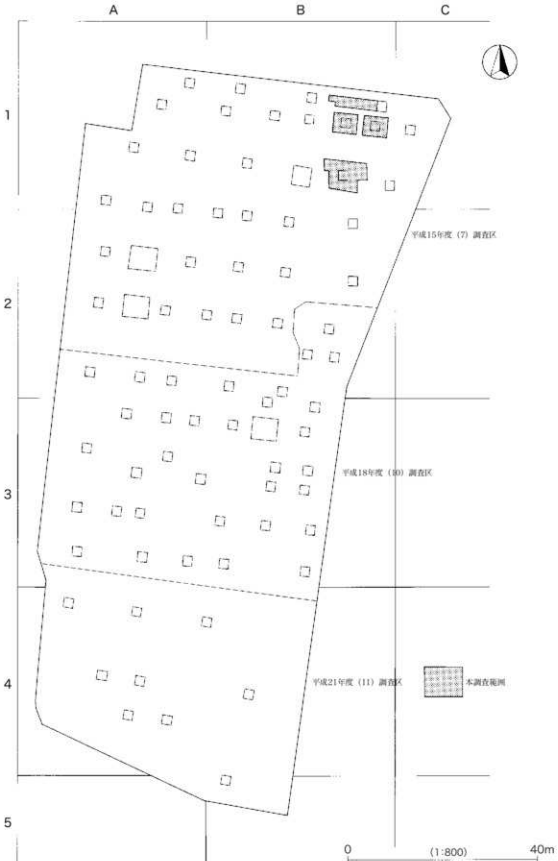


第３図　グリッド名称例

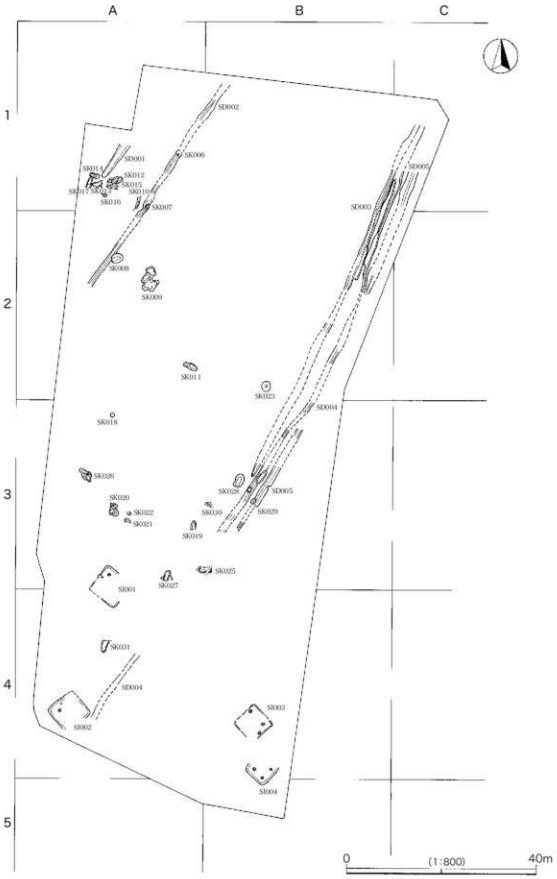
上層の確認調査については、住宅の基礎が残っている部分を除き、調査対象地区の約15％を目安にトレンチによる確認調査を実施した。下層については、基本的には上層の確認ト


山手2丁目集会所
行田線
山手児童遊園
マックスバリュー
新船橋駅
私立ひなぎく
平成4年
試掘
1次
1次
1次
2次
3次
4次
5次
6次
平成15年度調査
7次
平成18年度調査
10次
平成21年度調査
11次
公園
飛ノ台中央幼稚園
飛ノ台
海神中学校
グラウンド
プール
海神団地
海児童遊園
市営海神3丁目団地
自治会集会所
海神3丁目団地
海城門
（建築中）
手線
海神
海神北一会館
海神蛇沼公園
（建築中）
第4図　飛ノ台貝塚調査地点
緑地
0
200m
(1：2,500)

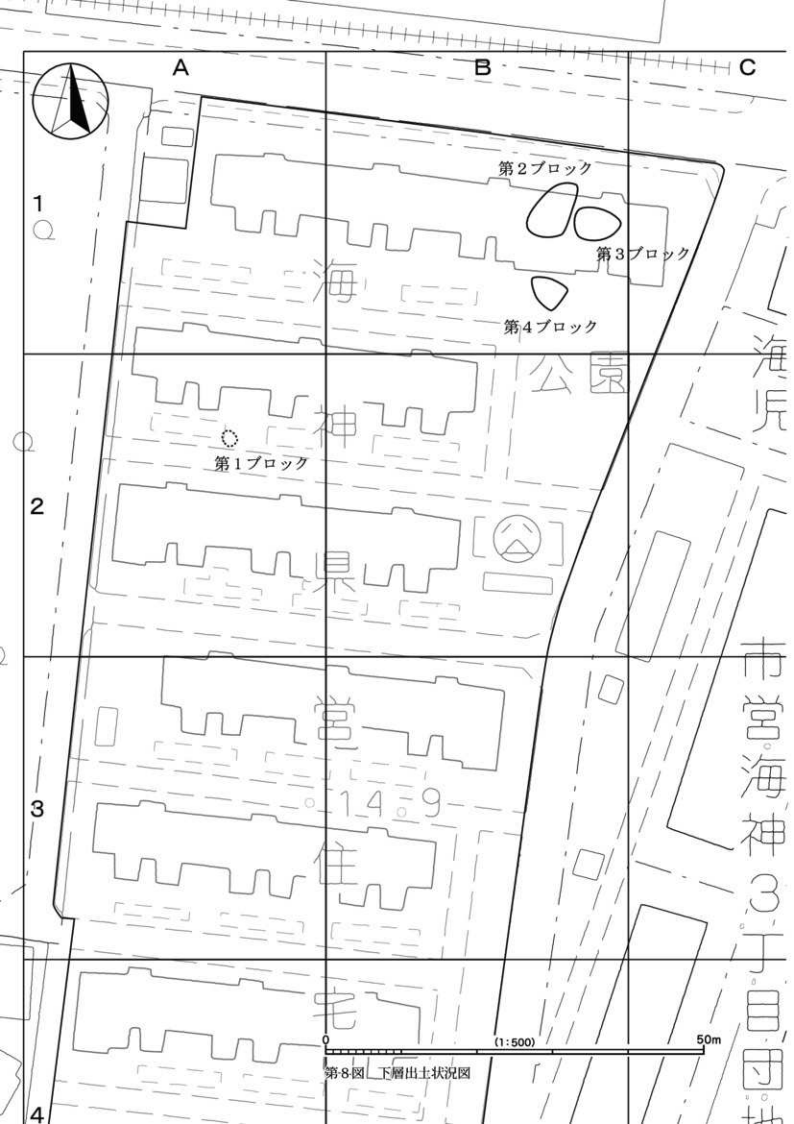
第５図　上層確認トレンチ及び本調査範囲



第6図　下層確認グリッド及び本調査範囲


A
B
C
1
2
3
4
5
SD002
SK006
SD001
SK014
SK012
SK015
SK017
SK013
SK016
SK010
SK007
SD003
SD006
SK008
SK009
SK011
SK023
SD004
SK018
SK026
SK020
SK022
SK021
SK029
SD005
SK030
SK028
SK019
SK025
SK027
SI001
SK031
SD004
SI003
SI002
SI004
0
(1:800)
40m

第７図　上層遺構分布図


A
B
C
1
2
3
4
第2ブロック
第3ブロック
第4ブロック
第1ブロック
海
神
県
営
住
宅
公園
海兵
市営海神3丁目団地
14.9
0
(1:500)
50m

第8図　下層出土状況図

レンチ内に、２m四方のグリッドを設定し、調査対象地区の約４％について遺物の確認を行った。遺物を検出したトレンチ・グリッドは、周囲を拡張して遺物の出土状況を把握し、さらに周辺に広がる様相があった地点については、本調査を実施した。

記録類や遺物の注記に使用した遺跡コードの末尾には、前述した船橋市登録の調査次数を括弧を付して表記した。

遺構番号は、平成15年度調査（７）・平成18年度調査（10）については、001から順次３桁数字の通し番号を調査工程に従って付した。平成21年度調査（11）については、遺構の種別ごとに略号と001から３桁の番号を付した。本書では番号の整合性を図るために遺構の種別を表す略号として土坑・炉穴にはSK、竪穴住居にはSI、溝状遺構もしくは道路状遺構についてはSDを遺構番号の前に付した。なお、調査時の遺構番号が重複するもの、調査年次の異なる隣接した調査区で一つの遺構に別の番号を付しているものは、本書では統一もしくは新たな番号で呼称している。新旧番号の対照については第１表を参照されたい。

第１表　遺構番号対照表

新番号	調査次数	旧番号	種別	時期	新番号	調査次数	旧番号	種別	時期
SD001	(7)	001	溝	中・近世	SK019	(10)	019	炉穴	縄文（早）
SD002	(7)	002	溝	中・近世	SK020	(10)	020	炉穴	縄文（早）
SD003	(7)	003	溝	中・近世	SK021	(10)	021	炉穴	縄文（早）
SD004	(7)	004	溝	中・近世	SK022	(10)	022	炉穴	縄文（早）
SD005	(7)	005	溝	中・近世	SK023	(10)	023	土坑	縄文（早）
SK006	(7)	006	土坑	縄文（早）	SK025	(10)	025	炉穴	縄文（早）
SK007	(7)	007	土坑	中・近世	SK026	(10)	026	炉穴	縄文（早）
SK008	(7)	008	土坑	縄文（早）	SK027	(10)	027	炉穴	縄文（早）
SK009	(7)	009	炉穴	縄文（早）	SK028	(10)	028	炉穴	縄文（早）
SK010	(7)	010	炉穴	縄文（早）	SK029	(10)	029	炉穴	縄文（早）
SK011	(7) (10)	011	炉穴	縄文（早）	SK030	(10)	030	土坑	縄文（早）
SK012	(7)	012	炉穴	縄文（早）	SK031	(11)	SK001	炉穴	縄文（早）
SK013	(7)	013	炉穴	縄文（早）			SK002		
SK014	(7)	5	炉穴	縄文（早）	SI001	(10)	024	竪穴住居	古墳（後）
SK015	(7)	6	炉穴	縄文（早）		(11)	SI001		
SK016	(7)	7	炉穴	縄文（早）	SI002	(11)	SI002	竪穴住居	古墳（後）
SK017	(7)	8	炉穴	縄文（早）	SI003	(11)	SI003	竪穴住居	古墳（後）
SK018	(10)	9	土坑	縄文（早）	SI004	(11)	SI004	竪穴住居	古墳（後）

第２節　遺跡の位置と周辺の環境（第１・２図・第２表）

１　位置と自然環境

飛ノ台貝塚は千葉県西部の船橋市海神３丁目に所在する。今回報告する調査地点は遺跡の東端に位置する。ＪＲ船橋駅から北西に1.3km、東武野田線新船橋駅からは0.3kmほどの距離である。周辺は近年の開発が進み、北側は大規模な工場、西側は市立中学校、南側は生活道路、東側は今回の調査原因ともなっている住宅団地が建設され、原始・古代の景観を留める場所はほんのわずかしか残っていない。

地形的に見てみると、千葉県北部に広がる下総台地の南西端にあたり、海老川の支流、長津川と城門川に挟まれた、東西に標高14～15mの舌状台地上に位置する（第１・２図）。海老川は、調査地から南東に1.5kmほど離れるが、周辺を流れる長津川と城門川の本流であり、長津川の合流点から南へ約1.0kmほどで東京湾に注いでいる。

その昔、下総台地に降り注いだ水の流れは徐々に台地を浸食し、これらの川によって浸食谷が形成され、広大な台地を狭小な樹枝状台地に変えていった。これらの樹枝状台地の間には、狭小な谷津が発達してい

る。そして、この谷津には、縄文海進（今から約9,000年前に始まり5,500年～7,000年前に最盛期となる）時に海水が進入し、海退したのちは干潟となり、最終的には湿地に変化していったと推測される。

飛ノ台に貝塚が形成される早期末はこの海進期に当たり、夏見台・船橋台・海神台に囲まれた船橋北裏と呼ばれる広い低地も浅い海となり、飛ノ台の台地下の谷には小規模な干潟が生まれ、絶好の貝の生息域になったと思われる。夏見台の台地南端が直線的であるのは、この海進による浸食作用の証拠であろう。その後、船橋北裏低地の海神台寄りには砂嘴が形成され、さらに時代が下ると砂嘴の東側に接して海岸低地との間に砂丘が形成されていった。上代の頃にはこの砂嘴と砂丘に囲まれた船橋北裏低地に、小規模な潟湖が存在していたとされている。このため、この地域に奈良・平安時代の頃の貝塚が多いことも頷ける。

このようなことから、北側は緑豊かで肥沃な下総台地から山の幸を、また台地下では古東京湾の豊富な海の幸を得ることができ、この豊かな生活環境を背景として飛ノ台の地に縄文人のムラが営まれ、その後も、地形的条件のよさから、連綿と人々が住み続けていったのであろう。

2　歴史的環境

飛ノ台貝塚は昭和７年に最初に発掘調査されて以来、小規模な調査を含めると20数次の調査が行われている。調査・研究史については、佐藤武雄・白井太郎氏により概要がまとめられているので参照されたいが、昭和13年の調査では、初めて炉穴が発見されるなど、考古学史上でも著名な遺跡であり、縄文時代早期の重要な遺跡として注目されてきた。これまで調査された縄文時代早期・前期の遺構は、野島式・鵜ガ島台式を主とする住居跡25軒、炉穴約400基、貝塚約40地点にのぼり、他の時代では旧石器時代、古墳時代、奈良時代の遺構・遺物が検出されている。平成５年に行われた公民館建設に伴う第３次調査では、男女２体が埋葬された土坑墓が発見された。平成９年には船橋市の市指定史跡となり、史跡公園博物館として整備され、平成12年に開館した。

周辺に目を向けると、各時代の遺跡が形成されている。第２表には各遺跡の種別・時代等を示した。発掘調査された主な遺跡としては、弥生時代後期から奈良・平安時代の集落跡が検出された夏見台遺跡群（２～５）、縄文時代前・中・後期の住居跡等が検出された前貝塚堀米貝塚(7)、旧石器時代の石器・礫ブロック、縄文時代前期の住居跡等が検出された向遺跡（10）、縄文時代後期の馬蹄形貝塚である古作貝塚(11)、古墳時代後期の住居跡・方形区画墓群等が検出された海神台西遺跡（29）、古墳時代後期から奈良平安時代の集落跡、中世の台地整形区画等が検出された東中山台遺跡群（13～16）・印内台遺跡群（17～28）が挙げられる。

参考文献

佐藤武雄・白井太郎　2004「飛ノ台貝塚調査・研究史」『飛ノ台史跡公園博物館紀要』創刊号　船橋市飛ノ台史跡公園博物館

(財)千葉県文化財センター　1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)－東葛飾・印旛地区（改訂版）－』千葉県教育委員会

船橋市史編纂委員会　1987『船橋市の遺跡（船橋市史資料（二））』船橋市

白井太郎　2001『海神台西遺跡第７次』船橋市遺跡調査会

白井太郎・高岡実　2006『向遺跡』船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター

第２表　周辺遺跡一覧表

	遺　跡　名	所　在　地	種　　別	時　　代	立地／現状
1	飛ノ台貝塚	海神４丁目	包蔵地、貝塚、集落跡	旧石器、縄文(早)、古墳	台地上／畑、宅地、校庭
	夏見台遺跡群	夏見台	包蔵地、集落跡、古墳、城館跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良・平安、近世	台地上／畑、宅地、荒地、神社寺院、校庭
2	夏見台西遺跡	夏見台３丁目	包蔵地	縄文（早・前）	台地上／畑、宅地
3	夏見古墳	夏見台２丁目	古墳	古墳	台地上／神社
4	夏見大塚	夏見台２丁目	集落跡	弥生(後)、古墳(後)、奈良・平安	台地上／畑、宅地
5	花輪塚古墳	夏見台２丁目	古墳	古墳	台地上／校庭
6	北本町２丁目遺跡	北本町２丁目	包蔵地	旧石器、縄文(中)	台地／宅地、荒蕪地
7	前貝塚堀米貝塚	前貝塚字堀米	貝塚、集落跡	縄文(前・中・後)	台地上／畑、校庭、道路
8	西之広遺跡	上山町字西之広	包蔵地	縄文（中）	台地上／畑、宅地
9	古作中台遺跡	古作１丁目	包蔵地	旧石器、奈良・平安	台地／宅地、荒地
10	向遺跡	行田３丁目	包蔵地	旧石器、縄文（前）	台地／畑、宅地
11	古作貝塚	古作２丁目	貝塚、集落跡	縄文（後）	台地上／競馬場、宅地、荒地
12	若宮八幡遺跡	市川市若宮２丁目	集落跡	古墳(後)、奈良・平安	台地上／畑、宅地、寺院
	東中山台遺跡群	東中山、本中山、西船	包蔵地、貝塚、集落跡	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安、中・近世	台地上／畑、宅地、荒蕪地
13	本郷台遺跡	西船６丁目	包蔵地、集落跡	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安、中・近世	台地／畑、宅地、荒蕪地
14	荒屋敷貝塚	東中山２丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
15	上戸貝塚	西船６丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑、宅地
16	荒屋敷南貝塚	東中山１丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
	印内台遺跡群	印内、西船、印内町権現台	貝塚、集落跡、古墳	古墳、奈良・平安、中世	台地上／畑、宅地、荒地
17	東前貝塚	西船２丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
18	御臼の前東貝塚	印内３丁目	貝塚		台地上／畑
19	権現台貝塚	印内町権現台	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
20	御臼の前貝塚	印内３丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
21	上ボチ貝塚	印内２丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
22	竹の内貝塚	西船３丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／畑
23	押堀貝塚	西船２丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／宅地
24	境海道東貝塚	西船３丁目	貝塚	奈良・平安	台地上／宅地
25	境海道貝塚	西船４丁目	集落跡	古墳(後)、奈良・平安	台地上／畑
26	駒形前貝塚	西船２丁目	貝塚	古墳(後)、奈良・平安	台地上／畑
27	印内古墳	印内３丁目	古墳	古墳	台地上／荒地
28	印内遺跡	印内２丁目	集落跡	古墳、奈良・平安	線路
29	海神台西遺跡	海神字西海神台	集落跡	旧石器、古墳(後)、奈良	台地上／畑、宅地
30	行田貝塚	海神５丁目	貝塚、集落跡	縄文(中・後)	台地上／畑、宅地

第２章　遺構と遺物

第１節　旧石器時代

１　概要

飛ノ台貝塚の調査では、計４地点のブロックが検出された。以前の飛ノ台貝塚の調査では単独出土の旧石器時代石器が確認されているが、石器群としての検出例はなく、今回の調査で旧石器時代の一様相が把握できることとなった。また、立川ローム層の堆積状態も今回の調査で明確となるため、各ブロックの記載をする前に立川ローム層について詳細を述べたい。

下総台地は、更新世中期から後期の海成砂層（下総層群）を主体とし、その上位を風成層である関東ローム層が覆っている。下総層群の最上部には、常総粘土層と呼称される下末吉ローム起因の凝灰質粘土層が堆積している。

下総台地の地形面は、海水・汽水・淡水に起因する浸食・堆積作用がなくなる離水期により、古い段階から下末吉面（下総上位面）、武蔵野面（下総下位面）、立川面（千葉面）と区分される。飛ノ台貝塚は古東京湾から進入する支谷に開析された台地縁辺部に位置するが、離水の段階は早く、下総上位面に比定される。このため常総粘土層の状態の確認が、古東京湾に面した台地上に展開する遺跡の発掘調査では必要であると感じる。飛ノ台貝塚の発掘調査では、立川ローム層の一部のみを確認するに止まり、残念ながら常総粘土層の深度を把握することができなかった。まずは飛ノ台貝塚における各層の特徴を記述しておきたい。

Ⅰa層：盛土（上部は砕石、下部はロームブロックが混在する）

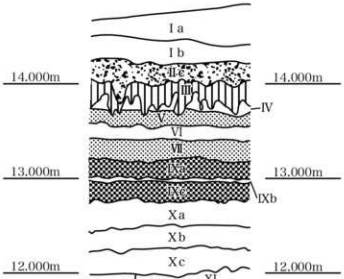
Ⅰb層：盛土。暗褐色土（全体に砂、貝、砂利ロームブロックが混在する）

Ⅱc層：暗褐色土。中位から下位にかけて縄文時代早期条痕文系土器の出土が認められる。粘性・しまりがあり、ローム粒が混入する。

Ⅲ層：黄褐色ローム層：ソフトローム層。粘性はあるがしまりが弱い。赤色スコリアが微量に混入する。

Ⅳ層：黄褐色ローム層：硬質ローム層。粘性・しまり共に弱い。赤色スコリアが微量に混入する。下位には白色パミスが微量に混入。

Ⅴ層：暗黄褐色ローム層：硬質ローム層。粘性・しまりに富む。１mm～３mm程の



第９図　土層柱状図

黒色・赤色スコリアが混入する。

Ⅵ層：黄褐色ローム層：硬質ローム層。粘性・しまりに富む。ガラス質パミスが多量に混入する。１mm～３mm程の黒色・赤色スコリアが混入する。

Ⅶ層：暗黄褐色ローム層：第２黒色帯上部に相当。粘性・しまりに富む。黒色・赤色スコリアが微量に混入する。

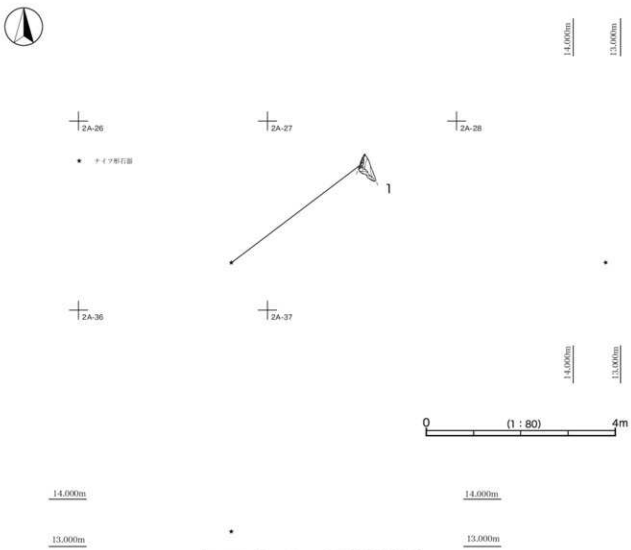
Ⅸa層：暗黄褐色ローム層。第２黒色帯下部に相当。粘性・しまりに富む。黒色・赤色スコリア多く混入する。

Ⅸb層：黄褐色ローム層。第２黒色帯に帯状に認められ、部分的にブロック状となる。橙色・灰色スコリアが多く混入する。

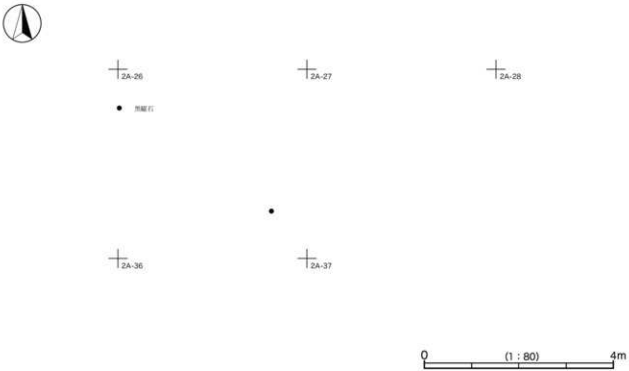
Ⅸc層：暗黄褐色ローム層。第２黒色帯下部。粘性・しまり強く、色調はⅨa層より暗い。上位を中心に黒色・赤色スコリアが多く混入する。

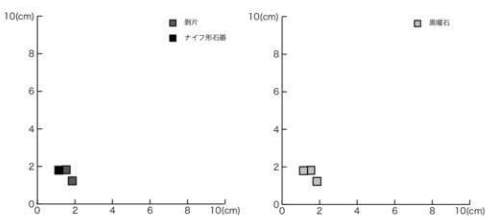
Ⅹa層：明褐色ローム層。粘性・しまり強い。黒色スコリアを微量に含む。

Ⅹb層：黄褐色ローム層。Ⅸa層・Ⅸc層と比較すると色調は暗い。粘性・しまり強い。極小の黒色・赤色



第10図　第１ブロック器種別遺物分布

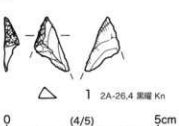




第11図　第１ブロック石材別遺物分布

第３表　第１ブロック石器組成表

	ナイフ形石器	剥　片	合　計
黒曜石	1 0.36	2 1.48	3 1.84
合　計	1 0.36	2 1.48	3 1.84
組成比	33.33 19.57	66.67 80.43	100.00 100.00



第12図　第１ブロック出土石器

スコリアを含む。
Xc層：黄褐色ローム層。粘性・しまり強い。極小の黒色・赤色スコリアを含む。
ＸⅠ層：褐色粘土質ローム層。非常に粘性が強い。極小の黒色・赤色スコリアを含む。

第９図は飛ノ台貝塚の土層柱状図である。表土層のⅠａ・Ⅰｂ層は建造物建設の際に削平後盛られた層であり、削平は新規テフラ下まで及んでいる。以下の層は標高15m程の台地上の層序としては、下総台地基本層序に批准できる良好な堆積状態といえる。なお、ＸⅠ層については粘土質ローム層として分層し、武蔵野ローム層としているが、ローム層の粘土質化は離水の時期に大きく左右され、かつ、ＸⅠ層中に黒色・赤色スコリアが含まれることから、武蔵野ローム層とするのは疑問が残る。

２　遺構と遺物

（１）第１ブロック（第10～12図、第３表、図版９）

分布

2A-26グリッドから検出された。下層確認調査の際に２点が出土し、出土地点付近を拡張して調査を行ったところナイフ形石器１点のみが出土した。このため総計３点のうちの２点については明確な出土地点、出土レベルは不明である。

調査時の記述では出土層位はⅨ層とあるが、石器の出土レベルを付近の土層柱状図と比較するとX層のうち上部のXa層に該当すると考えられる。

器種・石材

計３点のうち２点が剥片で、１点はナイフ形石器である。すべて黒曜石製である。黒曜石の石質は、透明感に欠けるものの夾雑物の混入は少なく、器表面は平滑である。

１の黒曜石製のナイフ形石器は先端部のみ遺存する。素材剥片の末端部を先端部とし、左側縁に腹面側からの調整を施す。

（２）第２ブロック（第13～30図、第４表、図版９～18）

分布

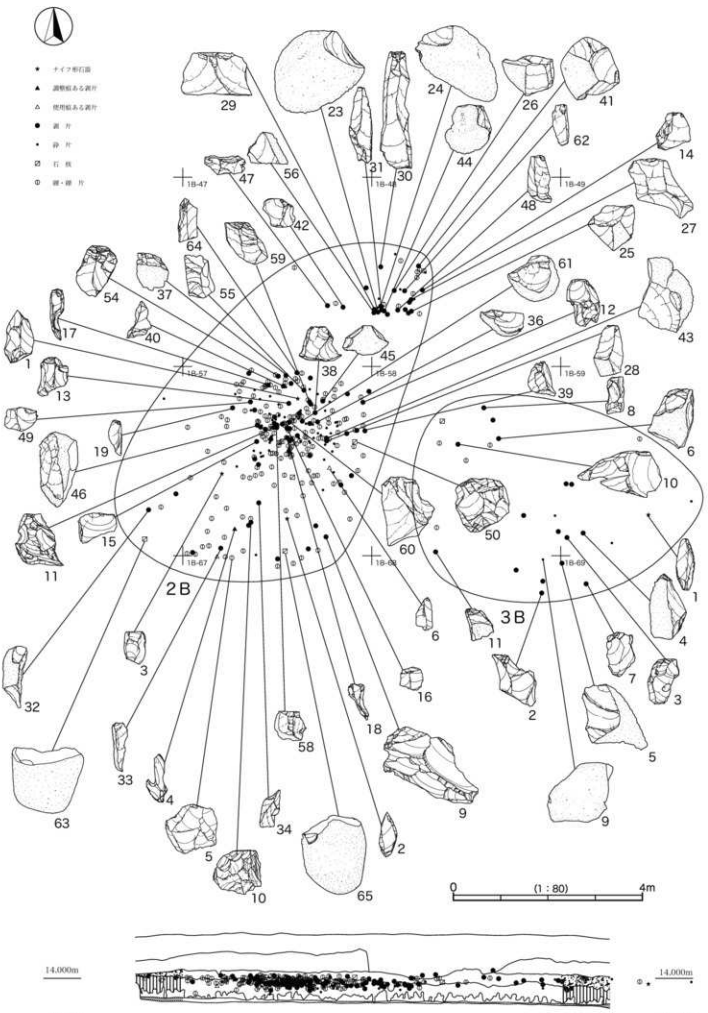
1B-47グリッドから1B-67グリッドにかけて検出された。分布は長径７ｍ、短径４ｍの楕円形状を呈する。1B-47グリッド南端の建造物基礎部分により分断されている。分布範囲中の1B-57グリッド北部に集中箇所が認められる。

Ⅱc層下部からⅢ層にかけて分布が認められるが、ヒストグラムではⅢ層の上部に最大値がみられ、Ⅲ層上部に所属すると考えられる。石器の出土レベルの最大値は14.077m、最小値は13.675m、平均は13.921mである。

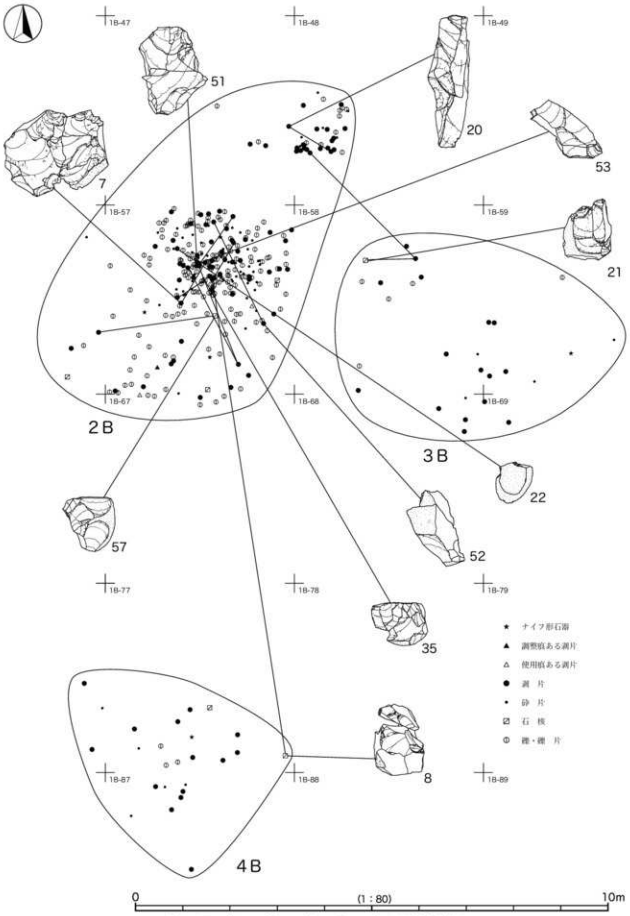
器種・石材

第２ブロックを構成する石器は、剥片石器154点、礫171点の計325点である。定型的な石器はナイフ形石器３点を数え、他は使用痕ある剥片３点、剥片82点、砕片61点、石核５点で構成される。礫は全て被熱し、原礫の形状を留めているものはない。

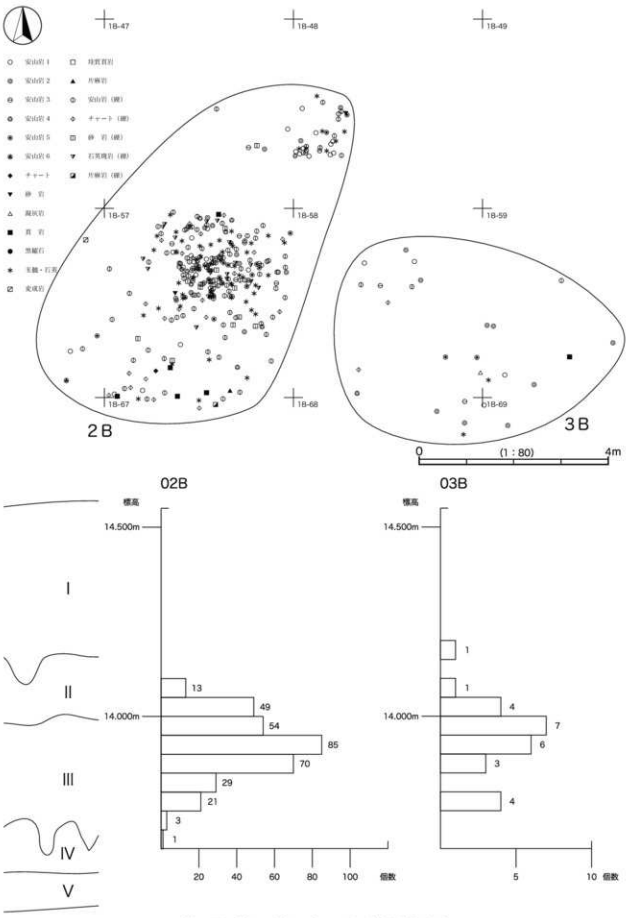
剥片石器に使用される石材は、安山岩が点数比で57.79％、重量比で70.48％を占め、第２ブロック石



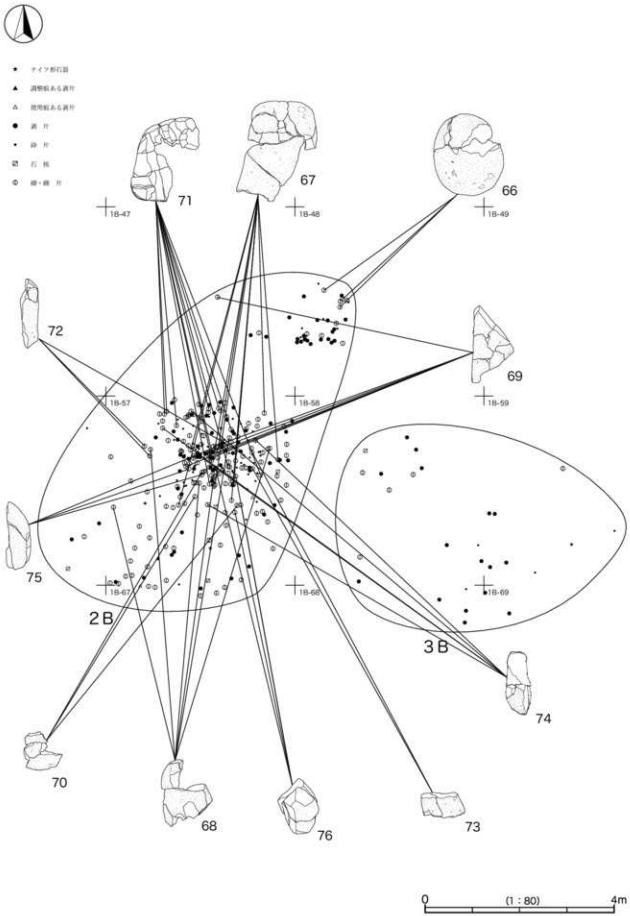
第13図　第２・第３ブロック器種別遺物分布



第14図　第２・第３・第４ブロック石器接合状況

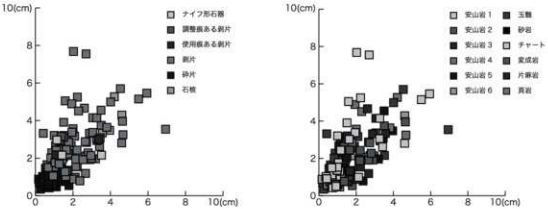


第15図　第２・第３ブロック石材別遺物分布

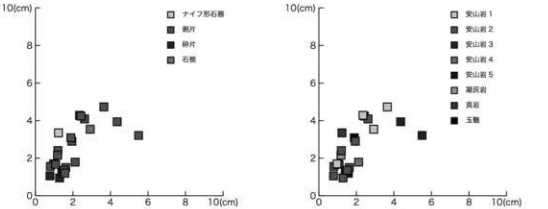


第16図　第２ブロック礫分布

第２ブロック



第３ブロック



第17図　第２・第３ブロック出土石器形状比

第４表　第２ブロック石器組成表

	ナイフ形石器	使用痕ある剥片	剥　片	砕　片	石　核	礫	合　計	組成比
安山岩			58 412.17	27 5.37	4 153.36		89 570.9	57.79 70.48
チャート		1 1.42					1 1.42	0.65 0.17
玉　髄	3 6.80	2 10.06	22 107.92	31 6.93			58 131.71	37.66 16.26
頁　岩			1 3.24	1 0.20	1 73.66		3 77.10	1.95 9.52
砂　岩				1 0.02			1 0.02	0.65 0.01
変成岩				1 0.49			1 0.49	0.65 0.06
片麻岩			1 28.35				1 28.35	0.65 3.50
合　計	3 6.80	3 11.48	82 551.68	61 13.01	5 227.02		154 809.99	100.00 100.00
組成比	1.95 0.84	1.95 1.42	53.25 68.10	39.61 1.61	3.24 28.03		100.00 100.00	
安山岩						112 1303.22	112 1303.22	65.5 67.37
チャート						24 116.77	24 116.77	14.04 6.04
頁　岩						1 17.61	1 17.61	0.58 0.91
砂　岩						15 234.75	15 234.75	8.77 12.13
石英斑岩						18 244.4	18 244.4	10.53 12.64
片麻岩						1 17.59	1 17.59	0.58 0.91
合　計						171 1934.34	171 1934.34	100.00 100.00
組成比							100.00 100.00	

器組成の主体となる。またナイフ形石器3点を含む玉髄製の石器は点数比では37.66％であるが、重量比では16.26％に止まる。他の石材は頁岩、砂岩、変成岩、片麻岩がみられるが、点数比、重量比でも客体的である。

礫の石材は安山岩が点数比65.5％、重量比67.37％と全体の３分の２を占める。砂岩、石英斑岩は点数的に少数であるが、重量比では12％を上回るため、大型礫の搬入が考えられる。他のチャート、頁岩、片麻岩は客体的である。

剥片石器の形状比は、１：0.8を軸に縦長となる傾向があり、特に安山岩、チャートに１：0.5の偏差が認められる。横長剥片の領域は分散傾向であり、軸となる系統はみられない。

１から３は玉髄製のナイフ形石器である。１は不定形剥片、２・３は縦長剥片を素材とし、調整は片側縁の先端部付近を中心に基部の一部に施される。２については腹面側にも調整が施される。

４から６は調整痕・使用痕の認められる剥片である。いずれも不定形剥片であり、４は打面部および末端部、５は末端部、６は片側縁に調整痕・使用痕が認められる。

７から19は玉髄製の剥片類である。７は剥片２点の接合資料である。打面を共有し、連続的に作出される。両者の背面構成から、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行っていることが窺える。８は剥片２点、石核１点の接合資料である。直方体に近い形状であり、打面再生（８－１）後に剥片（８－２）を作出している。８－３の石核は第４ブロックから出土している。９から19は剥片である。大小の差はあるが、概して器厚は薄い。背面構成は多方向からの剥離で構成されるものがほとんどである。

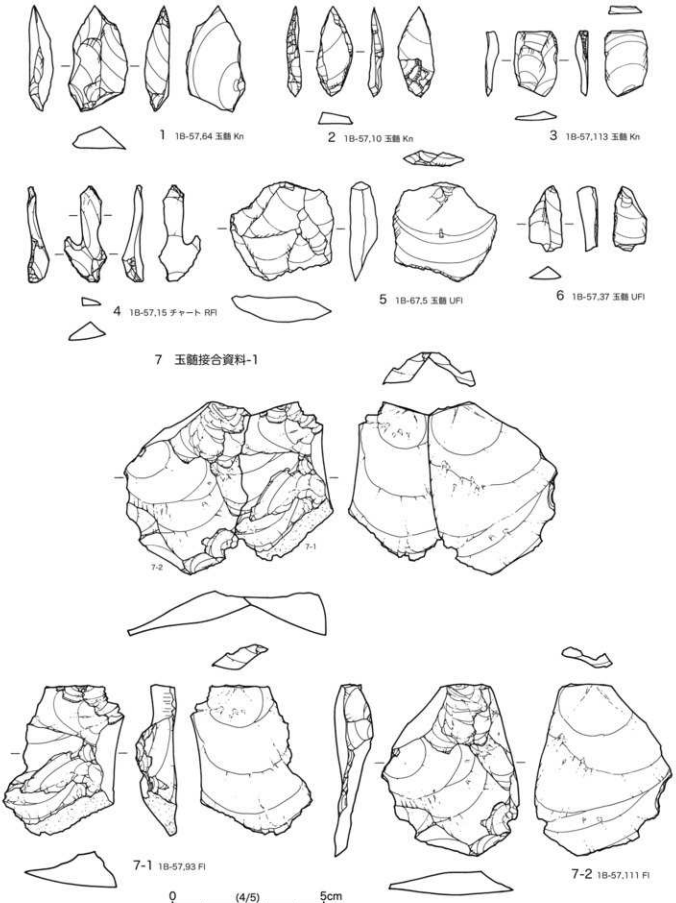
20から63は安山岩製の石器である。器表面の色調、岩石を構成する斑状組織の違いから６種の母岩分類を行った。

20から34は安山岩１製の剥片類である。20は連続的に作出された剥片同士の接合資料である。両者の背面構成は打面方向もしくは末端方向からの剥離が主であり、縦長剥片の作出意図が強く窺える。21は剥片２点と石核１点の接合資料である。21－１作出後に打面再生を行い、21－２を作出している。その後さらに打面再生、剥片剥離を行った痕跡が21－３の石核の右側面に認められる。22は連続的に作出された剥片同士の接合資料である。背面は原礫面で構成される。23から34は剥片である。23から29のような不定形剥片がみられるが、30・31の縦長剥片作出意図が明瞭に認められる剥片もあり、20の接合資料例と同様、第２ブロックでの剥片剥離技術の一端が窺える。

35から43は安山岩２製の剥片類である。35は剥片と石核の接合資料である。35－１は打面を広く設定して作出されており、石核整形の意図が強く窺える。35－２の器表面は多方向からの剥離で構成される。36から43は剥片である。36から40・42は小型の不定形剥片である。器厚は概して薄い。背面は不定方向からの剥離により構成される。41・43は部厚な大型剥片である。背面は原礫面と不定方向からの剥離で構成される。

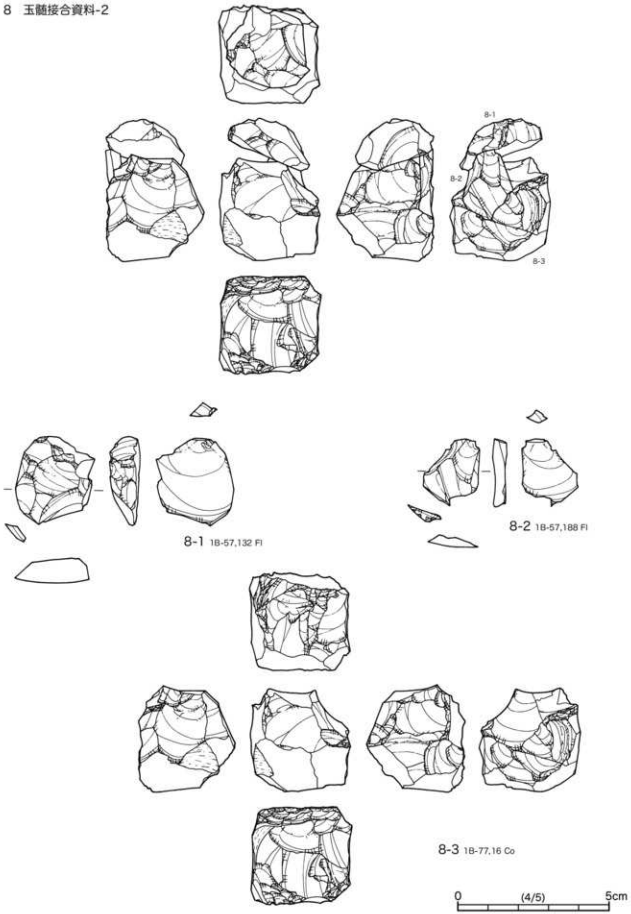
44から50は安山岩３製の剥片類である。44から49は不定形剥片で、背面も多方向からの剥離により構成される。50の石核の器表面からは、打面転移を行いながら剥片剥離を作出している痕跡が明瞭に理解される。

51から56は安山岩４製の剥片類である。51は剥片３点の接合資料である。51－１作出後、打面再生が行われ、51－２の剥片が作出される。この後に打面転移を行い、51－３を作出している。打面再生と打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行っていることは、同じ安山岩４製の52・53の接合資料から窺い知

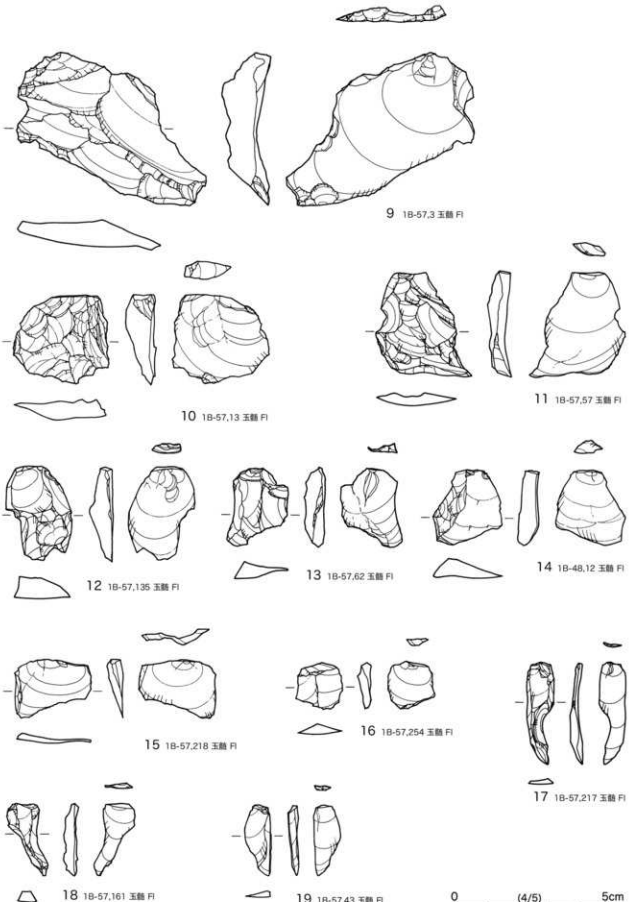


第18図　第２ブロック出土石器（1）

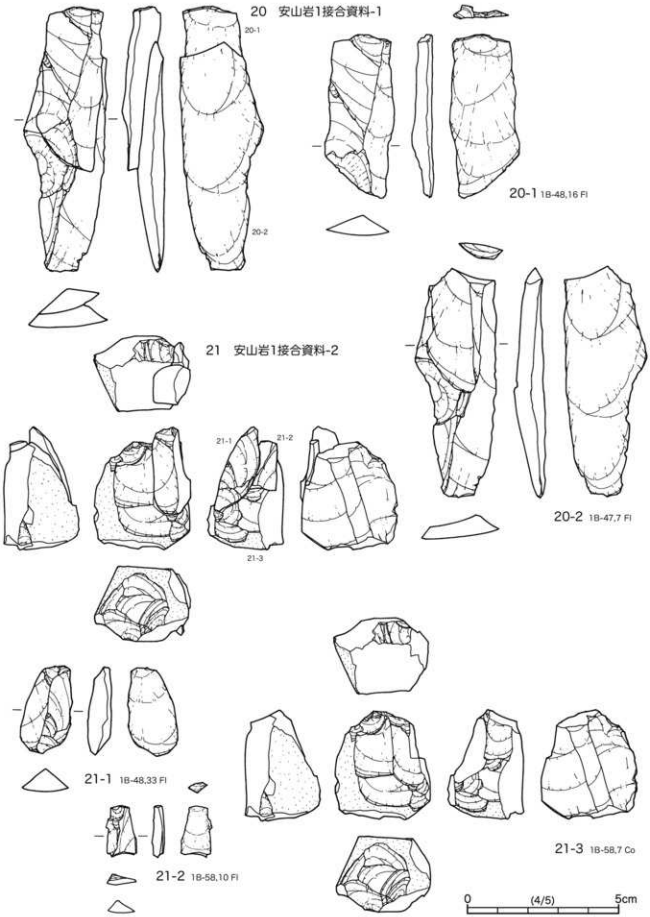
8　玉髄接合資料-2



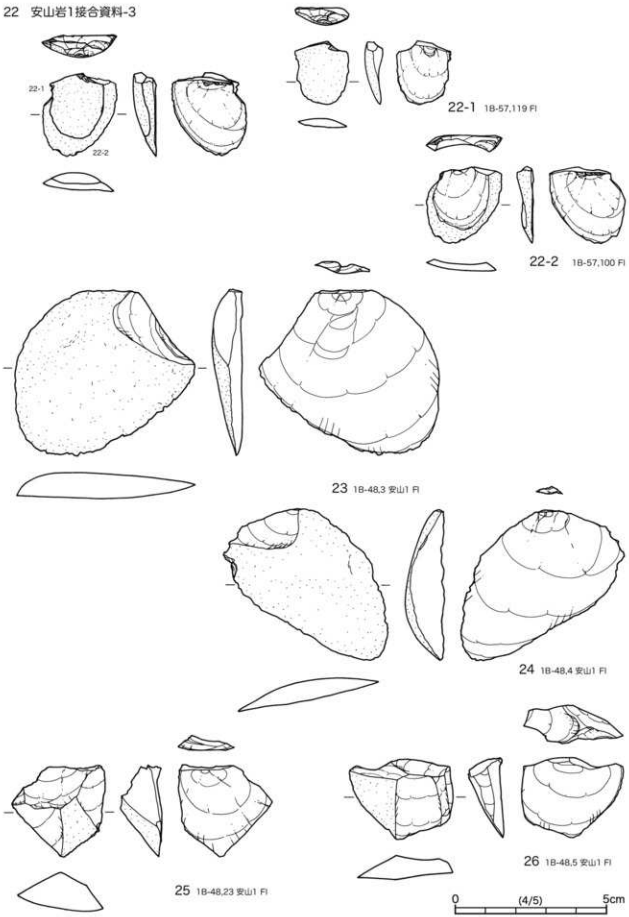
第19図　第２ブロック出土石器（2）



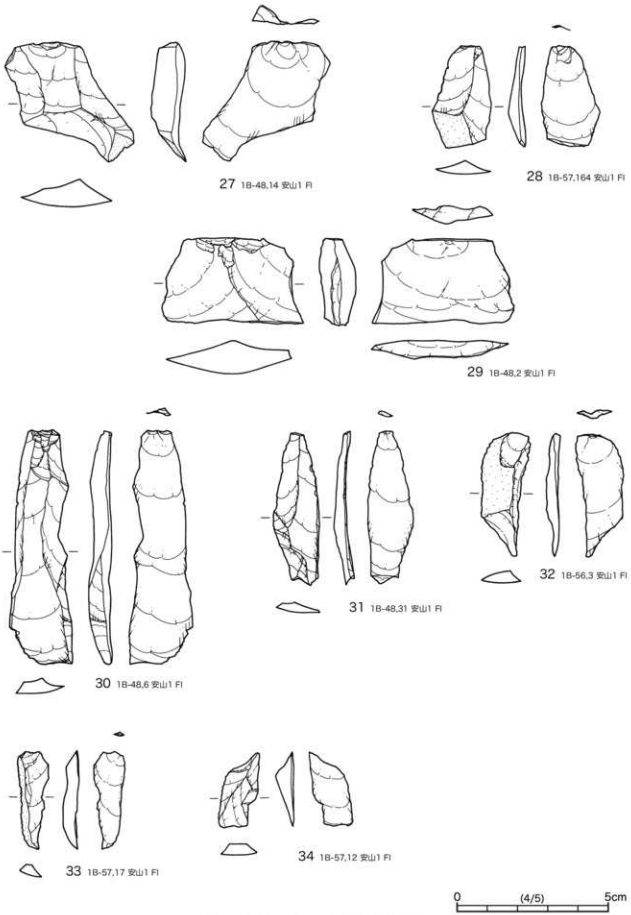
第20図　第２ブロック出土石器（3）



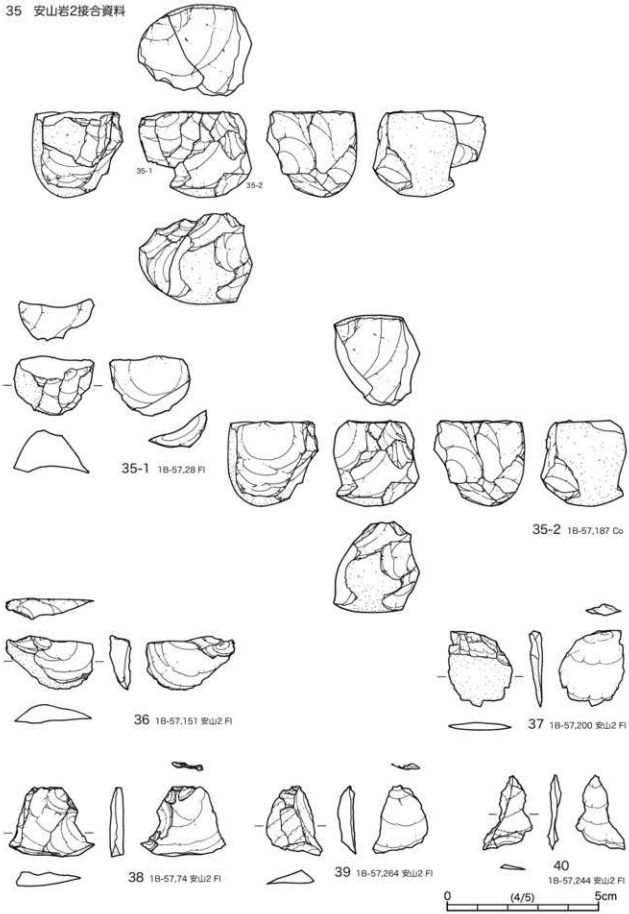
第21図　第２ブロック出土石器（4）



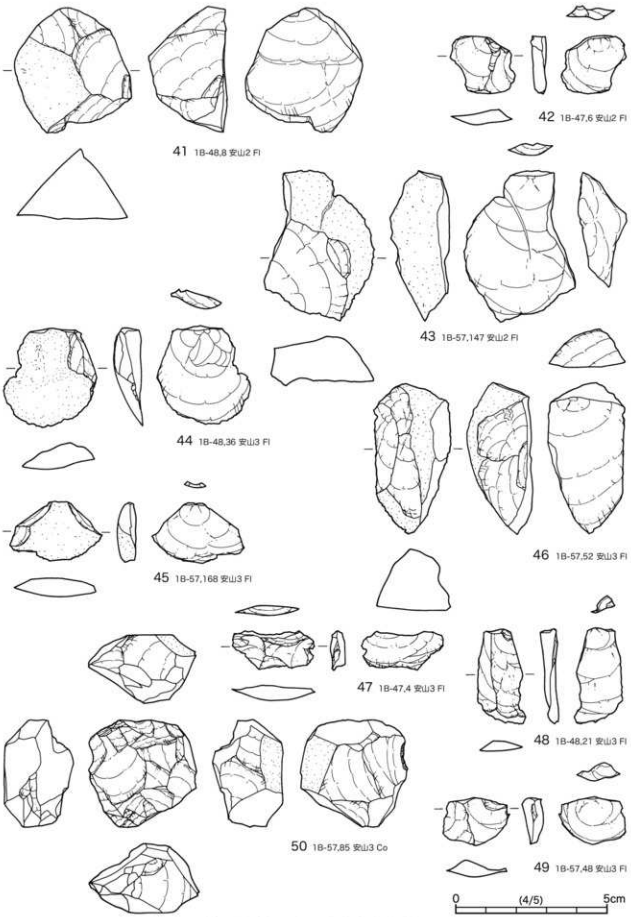
第22図　第２ブロック出土石器（5）



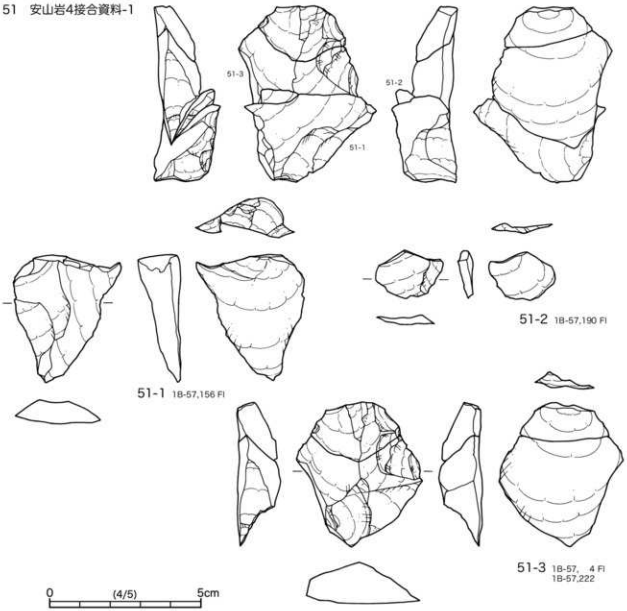
第23図　第２ブロック出土石器（6）



第24図　第２ブロック出土石器（7）



第25図　第２ブロック出土石器（8）



第26図　第２ブロック出土石器（9）

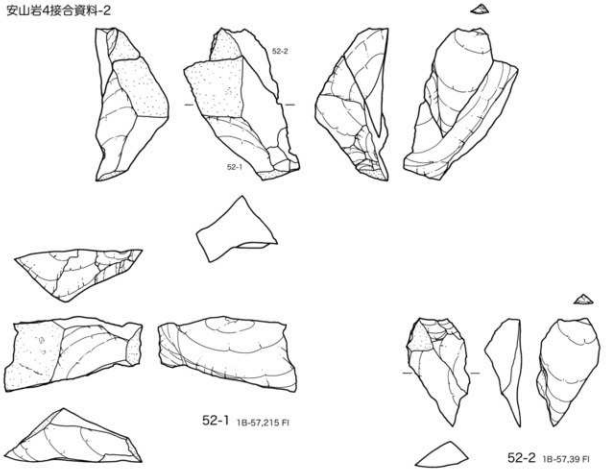
ることができ、それぞれの剥片の背面は多方向からの剥離により構成される。54から56は剥片である。いずれも不定形剥片であり、断面形状も薄いもの（56）と多面形を呈するもの（55）と多様である。

57から62は安山岩５製の剥片類である。57は剥片と石核の接合資料であり、57－１の剥片作出で剥片剥離作業を終了している。57－２の器表面の剥離の状態から、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行っていることが窺える。58から62は不定形剥片である。背面は多方向からの剥離により構成される。

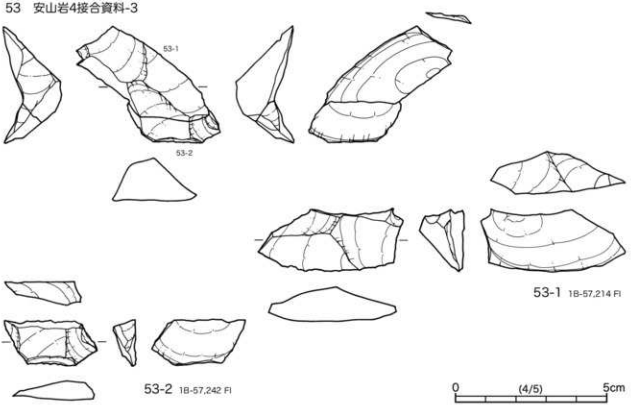
63は安山岩６製の石核である。正面には原礫面が大きく遺存し、上面に位置する打面から連続的に剥片を作出している。現状では打面転移の痕跡は認められない。

64・65は頁岩である。64は不定形剥片で、背面、左側面にみられる剥離痕から、打面転移を繰り返しながら作出された剥片であることが理解できる。65の石核は、上面に位置する打面から連続的に剥片を作出しており、打面再生を繰り返しながらも打面の位置関係は変化していない。

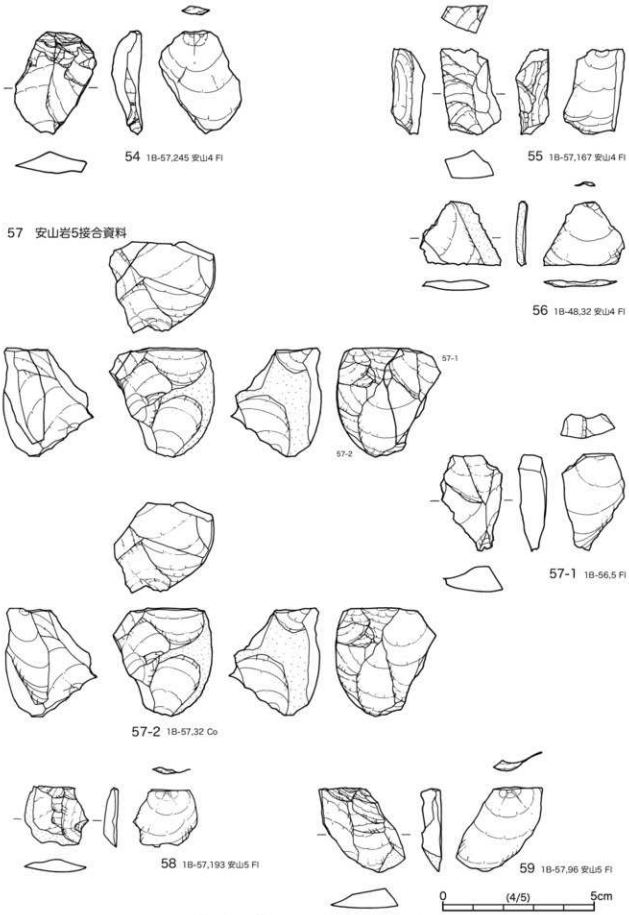
52　安山岩4接合資料-2



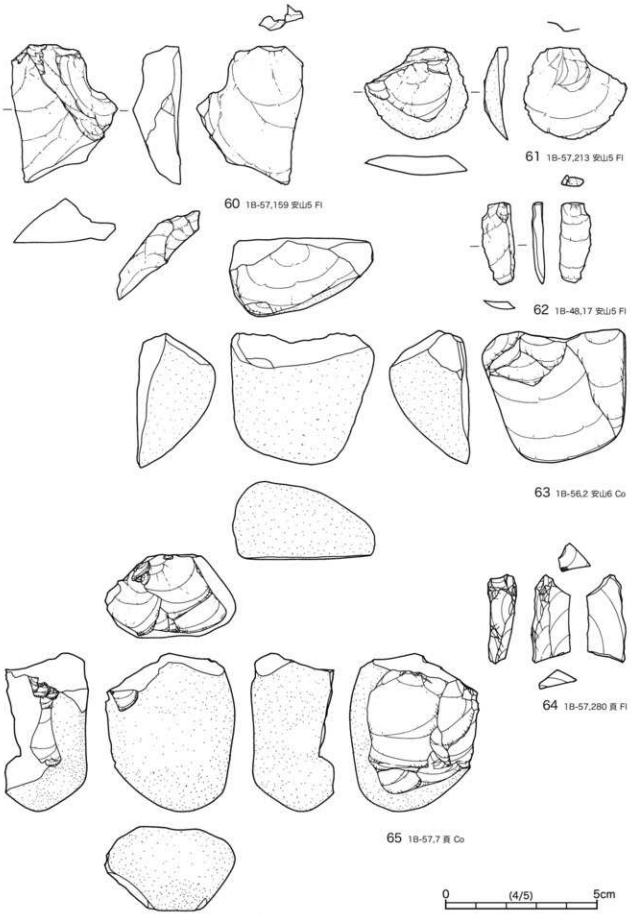
53　安山岩4接合資料-3



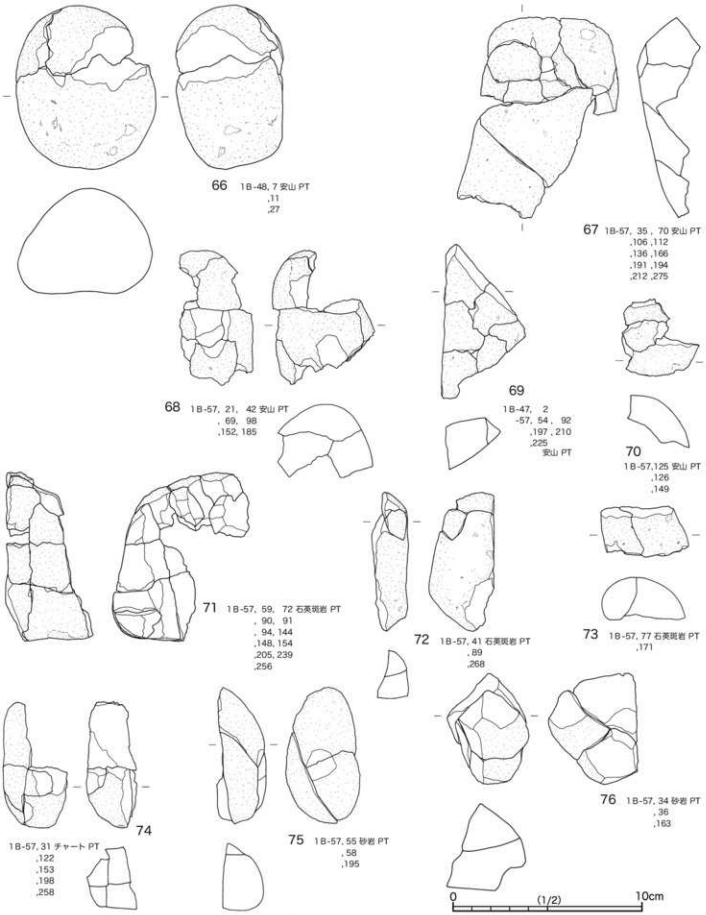
第27図　第２ブロック出土石器（10）



第28図　第２ブロック出土石器（11）



第29図　第２ブロック出土石器（12）



第30図　第２ブロック出土石器（13）

66から76は礫の接合資料である。原礫の形状を比較的留めている66は長さ8.6㎝、重量419.84ｇを計り、第２ブロックを構成する礫の平均的な数値と考えられる。重量比から安山岩製、石英斑岩製の礫は数個体あるが、チャート、砂岩については単体かもしくは２～３個体と考えられる。

（３）第３ブロック（第13～15・17・31図、第５表、図版19）

分布

1B-58グリッドから1B-69グリッドにかけて検出された。石器の平面分布は長軸６ｍ、短軸４ｍの楕円形を呈する。

垂直分布のヒストグラムはⅢ層上面に最大値が認められ、隣接する第２ブロックと比較するとやや上方に偏る。石器出土レベルの最大値は14.170m、最小値は13.750mと差が大きい。平均は13.937mである。

器種・石材

剥片石器は合計22点出土している。うち18点が安山岩であり、点数比で81.81％、重量比で87.83％を占める。他の石材は凝灰岩、玉髄、頁岩が使用される。定型的な石器は頁岩製のナイフ形石器１点が認められるが、他は剥片・砕片・石核であり、いずれも調整痕・使用痕は認められない。

剥片の形状はやや縦長に偏る傾向があり、縦横比１：0.6の系統がグラフ中に認められる。

礫はいずれも破砕礫で、安山岩、チャートが出土するが、点数的、重量的にも少数である。

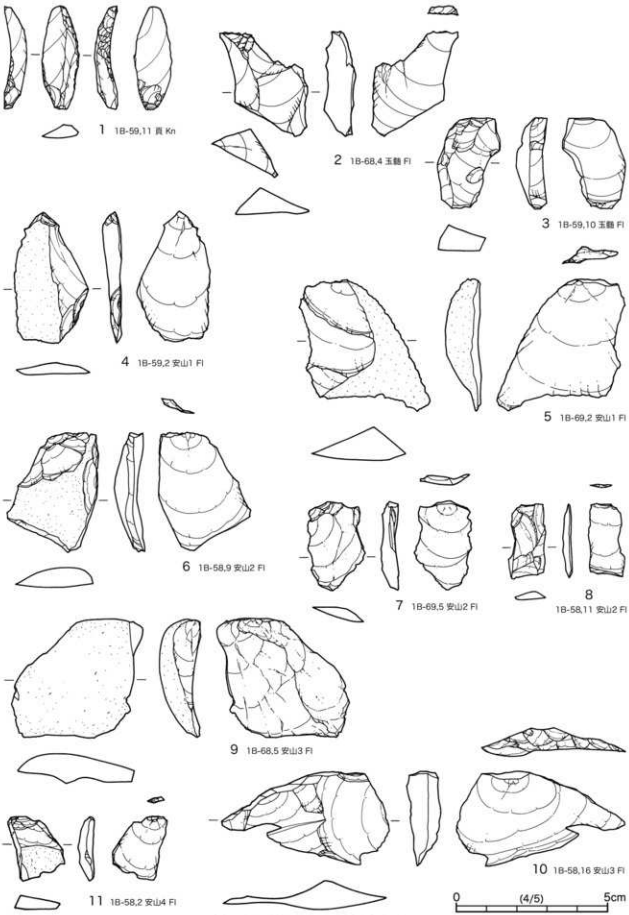
第５表　第３ブロック石器組成表

	ナイフ形石器	剥片	砕片	石核	礫	合計	組成比
安山岩		14 71.32	3 1.05	1 33.96		18 106.33	81.81 87.83
凝灰岩		1 0.96				1 0.96	4.55 0.79
玉髄		2 11.41				2 11.41	9.09 9.43
頁岩	1 2.36					1 2.36	4.55 1.95
合計	1 2.36	17 83.69	3 1.05	1 33.96		22 121.06	100.00 100.00
組成比	4.55 1.95	77.27 69.13	13.63 0.87	4.55 28.05		100.00 100.00	
安山岩					3 15.26	3 15.26	60.00 85.92
チャート					2 2.50	2 2.50	40.00 14.08
合計					5 17.76	5 17.76	100.00 100.00
組成比						100.00 100.00	

１は頁岩製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面側が先端部となる。調整は腹面・背面の両面に施されるが、腹面側の調整は基部付近のみ、背面側の調整は基部付近を除く右側縁および基部付近の左側縁に施される。

２・３は玉髄製の剥片である。いずれも不定形剥片であり、背面を構成する剥離の方向も一定しない。やや部厚な感のある剥片である。

４から11は安山岩製の剥片である。第２ブロックの母岩分類基準に則し、４種の母岩に分類できた。４・５は安山岩１製の不定形剥片である。両者とも背面には原礫面が遺存する。４は打面転移の痕跡が認められるが、５は同一方向に位置する打面から連続的に作出された剥片であることが理解できる。６から８は安山岩２製の不定形剥片である。背面を構成する剥離の方向から、打面を転移しながら作出された剥片であることが理解できる。９・10は安山岩３製の大型剥片である。９は原礫面を打面として作出された剥片であり、右側面にみられる剥離痕から、打面を作出せずに数回の剥片剥離を行っていることが理解できる。10は末端部がヒンジ・フラクチュアとなる。背面を構成する一部の剥離が階段状剥離となっていることから、打面を広く設定し剥片を連続的に作出していることが窺える。11は安山岩４製の小型不定形剥片である。背面は打面側からの剥離および原礫面で構成される。



第31図　第３ブロック出土石器

（4）第４ブロック（第32～35図、第６表、図版19・20）

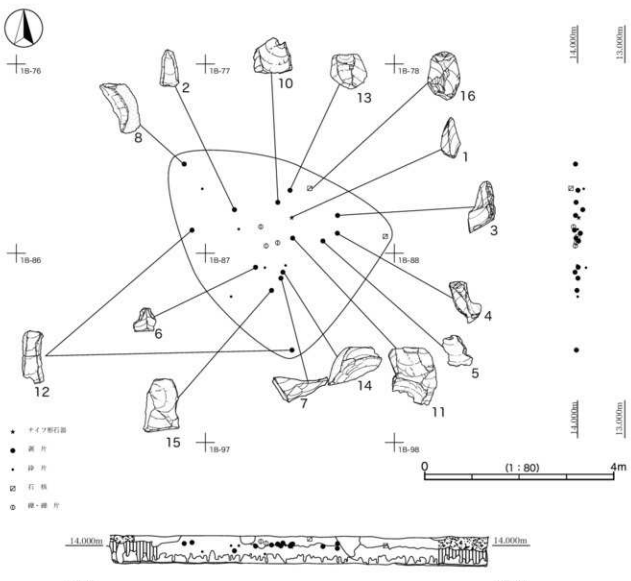
分布

1B-76グリッドから1B-87グリッドにかけて検出された。石器の平面分布はほぼ径４ｍの範囲で収束し、北西側に向かい突出した正三角形に近い形状を呈する。特に集中する箇所はみられず、均一に分布する感がある。

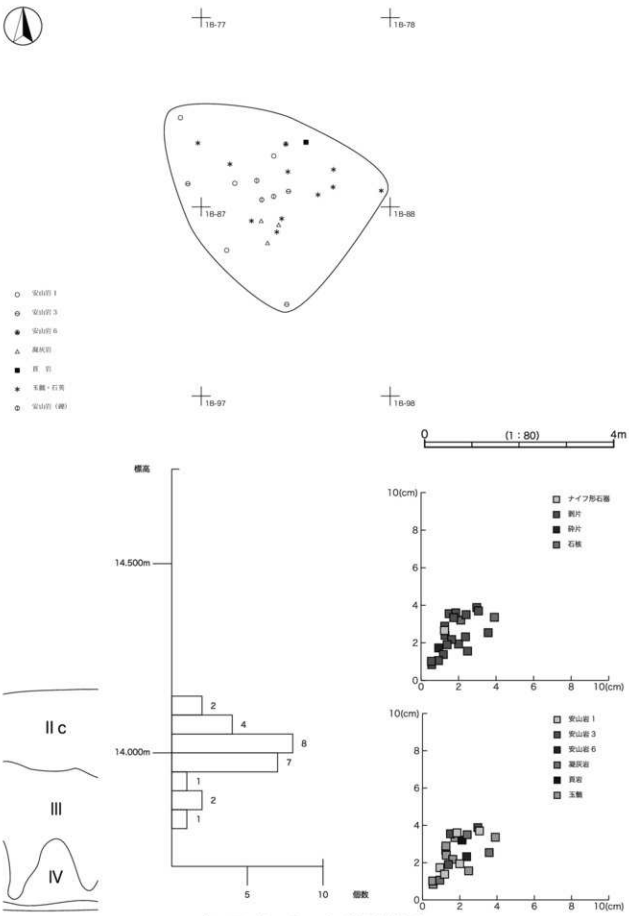
石器の出土層位はⅡｃ層からⅢ層にかけてであり、ヒストグラムのピークはⅡｃ層下部に認められる。石器出土レベルの最大値は14.140m、

第６表　第４ブロック石器組成表

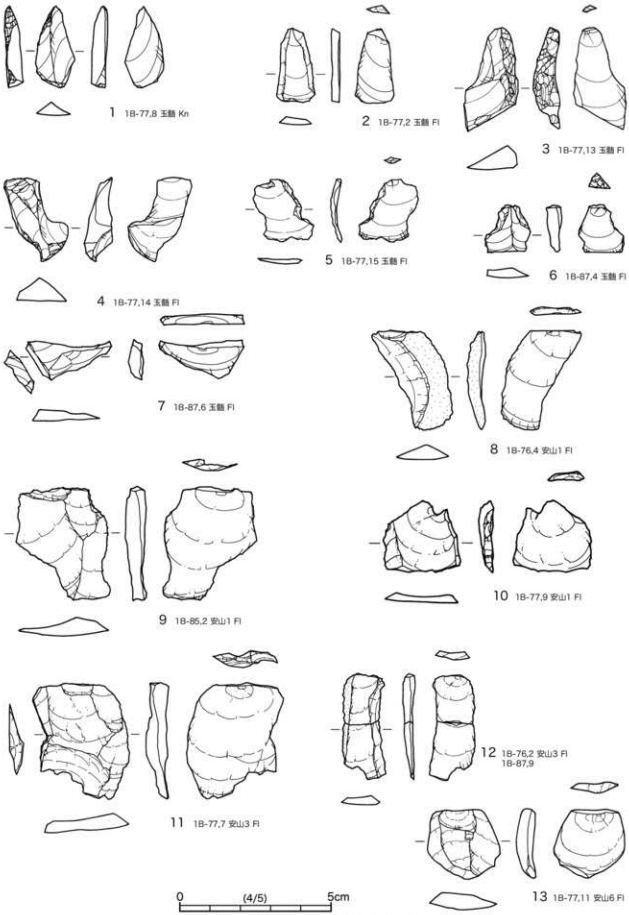
	ナイフ形石器	剥片	砕片	石核	礫	合計	組成比
安山岩		7 23.49	2 1.07			9 24.56	40.91 22.83
凝灰岩		2 12.75	1 0.35			3 13.10	13.63 12.18
玉髄	1 1.46	5 9.06	2 0.34	1 49.03		9 59.89	40.91 55.68
頁岩				1 10.01		1 10.01	4.55 9.31
合計	1 1.46	14 45.30	5 1.76	2 59.04		22 107.56	100.00 100.00
組成比	4.55 1.36	63.63 42.11	22.73 1.64	9.09 54.89		100.00 100.00	
安山岩					3 28.85	3 28.85	



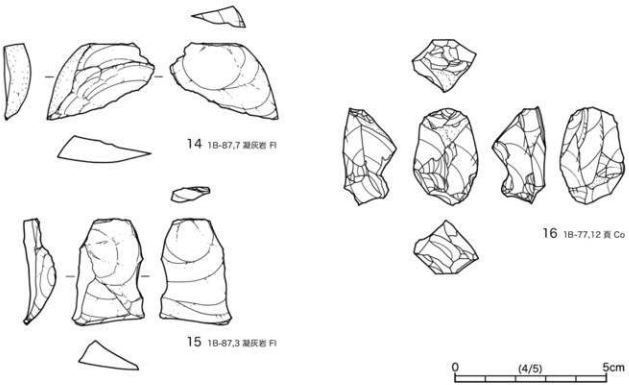
第32図　第４ブロック器種別遺物分布



第33図　第４ブロック石材別遺物分布



第34図　第４ブロック出土石器（1）



第35図　第４ブロック出土石器（2）

最小値は13.822m、平均は14.008mである。

器種・石材

剥片石器22点、礫３点の合計25点で構成される。

剥片石器については、定型的な石器はナイフ形石器１点のみであり、他は剥片、砕片、石核である。調整痕・使用痕の認められる剥片は含まれない。点数的には安山岩、玉髄が９点と同数であるが、重量比では玉髄が55.68％と半数以上を上回り、安山岩は22.83％に止まる。これは第１ブロックで記述した玉髄製の接合資料に含まれる石核の存在が大きい。他には凝灰岩、頁岩が認められるが、点数的、重量的にも客体的である。

石器の縦横比は、縦長に偏る傾向が認められるものの、グラフ上の分布は分散しており、系統を明確にすることは難しい。

１は玉髄製のナイフ形石器である。基部が欠損しているため明確ではないが、左側面に施される調整は部分的であり、第２・第３ブロック出土のナイフ形石器同様、先端部付近と末端部付近のみに調整が施されるものと考えられる。

２から７は玉髄製の不定形剥片である。安山岩製の剥片と比較すると概して小型である。背面構成は打面側もしくは打面側、末端側からの剥離痕を有する個体が多い。３は左側縁にかけて微細な剥離痕が見られるが、頭部調整によるものと考えられる。よって石核整形剥片である可能性が高い。

８から13は安山岩製の剥片である。第２ブロックの母岩分類基準に則し、３種の母岩に分類できた。８から10は安山岩１製、11・12は安山岩３製、13は安山岩６製である。すべて不定形剥片であるが、背面構成は打面側もしくは打面側、末端部側からの剥離痕を有する個体が多く、側縁側からの剥離痕を有す

る個体は、８や12のように背面構成に原礫面が加わる個体のみである。

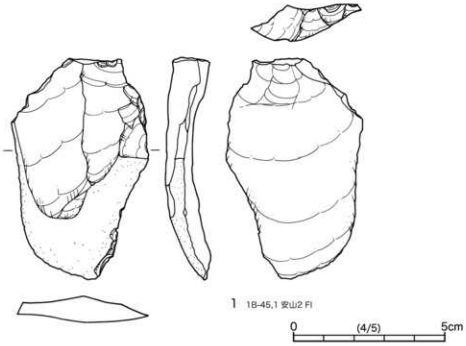
14・15は凝灰岩製の剥片である。部厚な不定形剥片であり、背面構成は多方向からの剥離により構成される。

16は頁岩製の石核である。表裏面の一部に原礫面が存在することから、母岩は径４㎝程の扁平礫と考えられる。器表面は多方向からの剥離により構成され、規格性が感じられない。最終剥離面は上端にみられる一連の剥離痕である。

（５）単独出土石器（第36図、図版20）

安山岩製の大型剥片が1B-45グリッドから出土している。出土地点は第２ブロックに近接し、石質も第２ブロックから出土した安山岩に酷似することから、同一文化層に属する石器と考えられる。

背面には原礫面が認められ、他の背面を構成する剥離の方向は打面側もしくは右側縁方向からである。調整痕・使用痕は認められない。



第36図　単独出土石器

第７表　旧石器時代石器属性表

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器　種	母岩番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	標高 m
第1文化層	01B		2A-26	2	剥片	黒曜石	1.82	1.53	0.33	0.78	
第1文化層	01B	12図1	2A-26	4	ナイフ形石器	黒曜石	1.80	1.14	0.49	0.36	13.320
第1文化層	01B		2A-55・56	1	剥片	黒曜石	1.23	1.86	0.32	0.70	
第2文化層	02B	30図69	1B-47	2	礫	安山岩	2.63	1.93	1.50	7.39	13.929
第2文化層	02B	25図47	1B-47	4	剥片	安山岩　3	1.19	2.67	0.55	1.90	13.927
第2文化層	02B		1B-47	5	礫	砂岩	2.05	2.03	1.07	4.32	13.919
第2文化層	02B	25図42	1B-47	6	剥片	安山岩　2	1.88	2.20	0.51	2.18	13.911
第2文化層	02B	21図20-2	1B-47	7	剥片	安山岩　1	7.55	2.70	0.87	16.55	13.909
第2文化層	02B	23図29	1B-48	2	剥片	安山岩　1	2.81	4.60	1.21	16.31	13.943
第2文化層	02B	22図23	1B-48	3	剥片	安山岩　1	5.46	5.94	0.91	32.15	13.902
第2文化層	02B	22図24	1B-48	4	剥片	安山岩　1	5.15	5.50	0.68	19.15	13.934
第2文化層	02B	22図26	1B-48	5	剥片	安山岩　1	2.62	3.42	1.30	7.92	13.938
第2文化層	02B	23図30	1B-48	6	剥片	安山岩　1	7.68	2.03	0.54	9.60	13.968
第2文化層	02B	30図66	1B-48	7	礫	安山岩				67.74	13.885
第2文化層	02B	25図41	1B-48	8	剥片	安山岩　2	3.75	3.51	2.41	32.76	13.884
第2文化層	02B		1B-48	9	礫	安山岩				21.00	14.000
第2文化層	02B		1B-48	10	砕片	安山岩　5	1.50	1.34	0.25	0.56	13.931
第2文化層	02B	30図66	1B-48	11	礫	安山岩				43.49	13.909
第2文化層	02B	20図14	1B-48	12	剥片	玉髄	2.15	2.74	0.74	2.94	14.065
第2文化層	02B		1B-48	13	礫	安山岩				0.32	14.001
第2文化層	02B	23図27	1B-48	14	剥片	安山岩　1	4.15	3.27	0.99	10.58	14.008
第2文化層	02B		1B-48	15	礫	安山岩				5.39	13.887
第2文化層	02B	21図20-1	1B-48	16	剥片	安山岩　1	5.25	2.24	0.74	8.71	13.846
第2文化層	02B	29図62	1B-48	17	剥片	安山岩　5	2.67	1.07	0.39	1.09	13.884
第2文化層	02B		1B-48	18	砕片	安山岩　2	1.35	0.90	0.33	0.36	13.786
第2文化層	02B		1B-48	19	砕片	玉髄	1.43	1.41	0.31	0.59	13.909
第2文化層	02B		1B-48	20	砕片	玉髄	1.34	1.39	0.23	0.50	13.896
第2文化層	02B	25図48	1B-48	21	剥片	安山岩　3	3.21	1.52	0.55	2.20	13.865
第2文化層	02B		1B-48	22	剥片	玉髄	1.19	1.68	0.16	0.51	13.858
第2文化層	02B	22図25	1B-48	23	剥片	安山岩　1	3.06	3.26	1.64	8.69	13.835
第2文化層	02B		1B-48	24	礫	安山岩				2.42	13.801
第2文化層	02B		1B-48	25	砕片	玉髄	1.26	1.45	0.32	0.55	14.004
第2文化層	02B		1B-48	26	礫	砂岩				2.74	13.922
第2文化層	02B	30図66	1B-48	27	礫	安山岩				308.61	13.879
第2文化層	02B		1B-48	28	砕片	玉髄	1.15	0.79	0.81	0.80	13.837
第2文化層	02B		1B-48	29	砕片	安山岩　1	1.41	0.78	0.20	0.18	13.848
第2文化層	02B		1B-48	30	剥片	安山岩　1	0.99	2.13	0.26	0.72	13.789
第2文化層	02B	23図31	1B-48	31	剥片	安山岩　1	5.05	1.59	0.49	2.96	13.838
第2文化層	02B	28図56	1B-48	32	剥片	安山岩　4	2.07	2.66	0.38	1.87	13.890
第2文化層	02B	21図21-1	1B-48	33	剥片	安山岩　1	3.02	1.63	0.83	3.64	13.876
第2文化層	02B		1B-48	34	礫	安山岩				0.07	13.830
第2文化層	02B		1B-48	35	砕片	玉髄	1.48	0.74	0.28	0.18	13.758
第2文化層	02B	25図44	1B-48	36	剥片	安山岩　3	3.32	2.88	0.85	7.51	13.819
第2文化層	02B	29図63	1B-56	2	石核	安山岩　6	4.29	4.61	2.54	58.16	14.006
第2文化層	02B	23図32	1B-56	3	剥片	安山岩　1	3.91	1.51	0.52	2.81	14.050
第2文化層	02B		1B-56	4	礫	安山岩				0.05	13.962
第2文化層	02B	28図57-1	1B-56	5	剥片	安山岩　5	1.96	3.20	0.85	5.60	14.016
第2文化層	02B		1B-56	6	砕片	変成岩	0.54	1.79	0.42	0.49	13.980
第2文化層	02B		1B-57	2	礫	安山岩				1.45	13.967
第2文化層	02B	20図9	1B-57	3	剥片	玉髄	3.54	6.94	1.25	25.53	13.911
第2文化層	02B	26図51-3	1B-57	4	剥片	安山岩　4	3.64	3.81	1.41	18.07	13.980
第2文化層	02B		1B-57	6	剥片	片麻岩	4.15	3.06	2.75	28.35	13.941
第2文化層	02B	29図65	1B-57	7	石核	頁岩	5.27	4.21	2.74	73.66	13.925
第2文化層	02B		1B-57	8	砕片	頁岩	0.47	1.12	0.56	0.20	13.991
第2文化層	02B		1B-57	9	礫	安山岩				6.34	13.962
第2文化層	02B	18図2	1B-57	10	ナイフ形石器	玉髄	2.97	1.15	0.48	1.28	14.052
第2文化層	02B		1B-57	11	礫	安山岩				0.34	13.959
第2文化層	02B	23図34	1B-57	12	剥片	安山岩　1	2.44	1.17	0.61	1.26	13.966
第2文化層	02B	20図10	1B-57	13	剥片	玉髄	2.94	3.28	0.96	7.80	14.031
第2文化層	02B	18図4	1B-57	15	調整痕ある剥片	チャート	3.15	1.38	0.68	1.42	13.983
第2文化層	02B		1B-57	16	礫	チャート				2.68	14.027
第2文化層	02B	23図33	1B-57	17	剥片	安山岩　1	3.21	1.01	0.43	1.03	14.062
第2文化層	02B		1B-57	18	礫	安山岩				15.67	14.002
第2文化層	02B		1B-57	19	礫	チャート				1.13	13.963

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器　種	母岩番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	標高 m
第2文化層	02B		1B-57	20	礫	安山岩				29.91	14.006
第2文化層	02B	30図68	1B-57	21	礫	安山岩				4.63	14.009
第2文化層	02B		1B-57	22	礫	安山岩				7.70	14.027
第2文化層	02B		1B-57	23	礫	チャート				0.82	14.037
第2文化層	02B		1B-57	24	砕片	玉髄	0.97	0.74	0.16	0.10	13.977
第2文化層	02B		1B-57	26	礫	チャート				0.47	14.018
第2文化層	02B		1B-57	27	礫	安山岩				0.84	14.019
第2文化層	02B	24図35-1	1B-57	28	剥片	安山岩　2	1.92	2.68	1.45	6.67	13.990
第2文化層	02B		1B-57	29	礫	安山岩				1.75	13.962
第2文化層	02B		1B-57	30	礫	石英斑岩				9.48	14.057
第2文化層	02B	30図74	1B-57	31	礫	チャート				18.02	14.037
第2文化層	02B	28図57-2	1B-57	32	石核	安山岩　5	3.48	3.96	2.23	32.30	13.983
第2文化層	02B		1B-57	33	礫	安山岩				0.43	13.947
第2文化層	02B	30図76	1B-57	34	礫	砂岩				0.37	14.028
第2文化層	02B	30図67	1B-57	35	礫	安山岩				27.84	13.982
第2文化層	02B		1B-57	36	礫	砂岩				26.09	13.962
第2文化層	02B	18図6	1B-57	37	使用痕ある剥片	玉髄	2.17	1.10	0.49	1.04	13.967
第2文化層	02B		1B-57	38	礫	安山岩				3.24	14.047
第2文化層	02B	27図52-2	1B-57	39	剥片	安山岩　4	3.57	2.01	1.28	6.29	13.947
第2文化層	02B		1B-57	40	砕片	安山岩　2	1.38	1.17	0.43	0.54	14.015
第2文化層	02B	30図72	1B-57	41	礫	石英斑岩				45.13	13.970
第2文化層	02B	30図68	1B-57	42	礫	安山岩				11.68	13.999
第2文化層	02B	20図19	1B-57	43	剥片	玉髄	2.28	0.87	0.31	0.57	14.046
第2文化層	02B		1B-57	44	砕片	玉髄	1.22	1.18	0.20	0.23	14.005
第2文化層	02B		1B-57	45	礫	安山岩				1.24	14.002
第2文化層	02B		1B-57	46	砕片	玉髄	1.53	0.66	0.22	0.20	14.022
第2文化層	02B		1B-57	47	礫	安山岩				0.06	14.046
第2文化層	02B	25図49	1B-57	48	剥片	安山岩　3	1.54	2.23	0.60	1.89	14.057
第2文化層	02B		1B-57	49	礫	安山岩				12.00	14.013
第2文化層	02B		1B-57	50	砕片	安山岩　1	0.42	0.74	0.13	0.05	14.022
第2文化層	02B		1B-57	51	礫	チャート				16.69	14.077
第2文化層	02B	25図46	1B-57	52	剥片	安山岩　3	4.66	2.61	2.07	27.32	14.047
第2文化層	02B		1B-57	53	礫	安山岩				0.88	14.020
第2文化層	02B		1B-57	54	礫	安山岩				9.08	14.010
第2文化層	02B	30図75	1B-57	55	礫	砂岩				36.15	14.035
第2文化層	02B		1B-57	56	礫	安山岩				4.26	14.055
第2文化層	02B	20図11	1B-57	57	剥片	玉髄	3.37	3.06	0.61	5.87	14.058
第2文化層	02B		1B-57	58	礫	砂岩				23.99	14.044
第2文化層	02B	30図71	1B-57	59	礫	石英斑岩				9.60	14.015
第2文化層	02B		1B-57	60	砕片	安山岩　1	1.12	0.70	0.14	0.10	14.051
第2文化層	02B		1B-57	61	砕片	玉髄	0.93	1.21	0.23	0.34	14.039
第2文化層	02B	20図13	1B-57	62	剥片	玉髄	2.66	1.91	0.71	2.91	14.014
第2文化層	02B		1B-57	63	礫	安山岩				0.40	14.015
第2文化層	02B	18図1	1B-57	64	ナイフ形石器	玉髄	2.16	3.52	0.77	4.37	14.013
第2文化層	02B		1B-57	65	砕片	玉髄	1.43	0.87	0.26	0.30	14.046
第2文化層	02B		1B-57	66	礫	安山岩				10.92	14.053
第2文化層	02B		1B-57	68	礫	チャート				0.28	14.026
第2文化層	02B		1B-57	69	礫	安山岩				22.98	13.970
第2文化層	02B	30図67	1B-57	70	礫	安山岩				41.00	13.960
第2文化層	02B		1B-57	71	砕片	玉髄	0.67	0.59	0.22	0.07	14.054
第2文化層	02B		1B-57	72	礫	石英斑岩				18.70	14.053
第2文化層	02B		1B-57	73	礫	安山岩				9.32	13.957
第2文化層	02B	24図38	1B-57	74	剥片	安山岩　2	2.28	2.81	0.50	3.31	14.018
第2文化層	02B		1B-57	75	砕片	玉髄	1.17	1.47	0.20	0.26	14.047
第2文化層	02B		1B-57	76	砕片	玉髄	0.55	0.56	0.11	0.02	13.973
第2文化層	02B	30図73	1B-57	77	礫	石英斑岩				13.38	14.048
第2文化層	02B		1B-57	78	礫	安山岩				5.27	14.026
第2文化層	02B		1B-57	79	砕片	安山岩　5	0.80	0.62	0.18	0.08	14.025
第2文化層	02B		1B-57	80	砕片	安山岩　5	0.76	0.72	0.26	0.15	13.972
第2文化層	02B		1B-57	81	剥片	玉髄	1.65	0.62	0.55	0.83	14.042
第2文化層	02B		1B-57	82	剥片	安山岩　5	2.05	1.50	0.24	0.50	13.991
第2文化層	02B		1B-57	83	礫	安山岩				4.41	13.984
第2文化層	02B		1B-57	84	礫	安山岩				1.33	13.942
第2文化層	02B	25図50	1B-57	85	石核	安山岩　3	3.34	3.57	2.34	31.32	14.027
第2文化層	02B		1B-57	86	礫	安山岩				6.56	13.985
第2文化層	02B		1B-57	87	礫	安山岩				0.81	13.970

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器　種	母岩番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	標高 m
第2文化層	02B		1B-57	88	礫	安山岩				0.07	13.949
第2文化層	02B		1B-57	89	礫	石英斑岩				1.95	13.899
第2文化層	02B		1B-57	90	礫	石英斑岩				7.86	13.905
第2文化層	02B		1B-57	91	礫	石英斑岩				18.62	13.906
第2文化層	02B		1B-57	92	礫	安山岩				5.90	13.976
第2文化層	02B	18図7-1	1B-57	93	剥片	玉髄	4.99	4.01	1.00	18.96	13.968
第2文化層	02B		1B-57	94	礫	石英斑岩				12.01	14.005
第2文化層	02B		1B-57	95	礫	安山岩				3.23	13.941
第2文化層	02B	28図59	1B-57	96	剥片	安山岩　5	2.78	1.42	0.63	4.63	13.920
第2文化層	02B		1B-57	97	砕片	安山岩　5	0.64	0.89	0.17	0.11	13.978
第2文化層	02B		1B-57	98	礫	安山岩				14.54	13.899
第2文化層	02B		1B-57	99	礫	チャート				1.76	13.850
第2文化層	02B	22図22-2	1B-57	100	礫	安山岩				2.93	13.847
第2文化層	02B		1B-57	101	礫	安山岩				16.75	13.906
第2文化層	02B		1B-57	103	礫	安山岩				1.76	13.890
第2文化層	02B		1B-57	104	砕片	安山岩　5	1.31	1.10	0.41	0.56	13.870
第2文化層	02B		1B-57	105	礫	砂岩				33.76	13.880
第2文化層	02B	30図67	1B-57	106	礫	安山岩				7.15	13.916
第2文化層	02B		1B-57	107	礫	安山岩				2.69	13.940
第2文化層	02B		1B-57	108	剥片	玉髄	2.46	1.36	0.39	1.16	13.951
第2文化層	02B		1B-57	109	砕片	砂岩	0.53	0.68	0.70	0.02	13.957
第2文化層	02B		1B-57	110	砕片	玉髄	0.76	1.48	0.31	0.30	13.953
第2文化層	02B	18図7-2	1B-57	111	剥片	玉髄	5.70	4.53	1.29	21.15	13.947
第2文化層	02B	30図67	1B-57	112	礫	安山岩				8.50	13.961
第2文化層	02B	18図3	1B-57	113	ナイフ形石器	玉髄	2.16	1.42	0.39	1.15	13.935
第2文化層	02B		1B-57	114	礫	砂岩				6.06	13.898
第2文化層	02B		1B-57	116	礫	安山岩				1.88	13.927
第2文化層	02B		1B-57	117	剥片	玉髄	1.92	1.44	0.57	1.38	13.942
第2文化層	02B		1B-57	118	礫	安山岩				21.57	13.940
第2文化層	02B	22図22-1	1B-57	119	剥片	安山岩　6	2.14	1.79	0.57	2.19	13.996
第2文化層	02B		1B-57	120	礫	安山岩				23.19	13.975
第2文化層	02B		1B-57	121	礫	安山岩				0.75	13.964
第2文化層	02B		1B-57	122	礫	チャート				11.33	13.963
第2文化層	02B		1B-57	123	礫	安山岩				8.73	13.990
第2文化層	02B		1B-57	124	砕片	安山岩　6	1.07	1.20	0.25	0.36	13.908
第2文化層	02B	30図70	1B-57	125	礫	安山岩				5.80	13.930
第2文化層	02B		1B-57	126	礫	安山岩				24.97	13.919
第2文化層	02B		1B-57	127	礫	安山岩				1.43	13.955
第2文化層	02B		1B-57	128	礫	砂岩				14.53	13.967
第2文化層	02B		1B-57	129	礫	砂岩				13.09	14.005
第2文化層	02B		1B-57	130	礫	石英斑岩				10.33	13.999
第2文化層	02B		1B-57	131	礫	安山岩				7.88	13.967
第2文化層	02B	19図8-1	1B-57	132	剥片	玉髄	2.88	2.66	1.09	8.31	13.956
第2文化層	02B		1B-57	133	礫	安山岩				6.20	13.938
第2文化層	02B		1B-57	134	礫	安山岩				26.19	13.926
第2文化層	02B	20図12	1B-57	135	剥片	玉髄	3.17	2.09	0.72	3.56	13.872
第2文化層	02B	30図67	1B-57	136	礫	安山岩				33.41	13.908
第2文化層	02B		1B-57	137	礫	安山岩				22.90	13.895
第2文化層	02B		1B-57	138	礫	砂岩				4.24	13.868
第2文化層	02B		1B-57	139	礫	安山岩				1.99	13.958
第2文化層	02B		1B-57	140	礫	砂岩				14.52	13.896
第2文化層	02B		1B-57	142	礫	安山岩				0.77	13.940
第2文化層	02B		1B-57	143	礫	チャート				0.81	13.898
第2文化層	02B		1B-57	144	礫	石英斑岩				6.23	13.940
第2文化層	02B		1B-57	145	礫	砂岩				7.58	13.935
第2文化層	02B		1B-57	146	礫	安山岩				1.68	13.933
第2文化層	02B	25図43	1B-57	147	剥片	安山岩　2	3.96	4.64	1.99	31.28	13.918
第2文化層	02B		1B-57	148	礫	石英斑岩				5.35	13.859
第2文化層	02B		1B-57	149	礫	安山岩				12.92	13.831
第2文化層	02B		1B-57	150	砕片	安山岩　2	0.77	1.36	0.29	0.36	13.812
第2文化層	02B	24図36	1B-57	151	剥片	安山岩　2	1.92	2.90	0.68	3.11	13.925
第2文化層	02B		1B-57	152	礫	安山岩				29.43	13.907
第2文化層	02B		1B-57	153	礫	チャート				3.24	13.887
第2文化層	02B		1B-57	154	礫	石英斑岩				33.64	13.923
第2文化層	02B		1B-57	155	礫	安山岩				0.47	13.936
第2文化層	02B	26図51-1	1B-57	156	剥片	安山岩　4	3.25	4.67	1.35	12.98	13.932

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器　種	母岩番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	標高 m
第2文化層	02B		1B-57	157	礫	チャート				0.34	13.917
第2文化層	02B		1B-57	158	礫	安山岩				5.14	13.950
第2文化層	02B	29図60	1B-57	159	剥片	安山岩　5	4.55	3.50	1.58	20.67	13.937
第2文化層	02B		1B-57	160	砕片	玉髄	0.76	1.57	0.21	0.36	13.950
第2文化層	02B		1B-57	162	礫	安山岩				9.02	13.956
第2文化層	02B		1B-57	163	礫	砂岩				33.41	13.943
第2文化層	02B	23図28	1B-57	164	剥片	安山岩　1	3.38	1.95	0.58	2.71	13.936
第2文化層	02B		1B-57	165	礫	安山岩				12.67	13.925
第2文化層	02B	30図67	1B-57	166	礫	安山岩				37.27	13.898
第2文化層	02B	28図55	1B-57	167	剥片	安山岩　4	2.84	1.77	1.18	6.82	13.913
第2文化層	02B	25図45	1B-57	168	剥片	安山岩　3	1.99	2.99	0.67	4.08	13.885
第2文化層	02B		1B-57	169	砕片	玉髄	0.50	0.68	0.17	0.04	13.932
第2文化層	02B		1B-57	170	礫	安山岩				0.04	13.924
第2文化層	02B		1B-57	171	礫	石英斑岩				20.91	13.860
第2文化層	02B		1B-57	172	砕片	玉髄	0.93	1.27	0.27	0.33	13.859
第2文化層	02B		1B-57	174	砕片	玉髄	0.35	0.27	0.08	0.01	13.820
第2文化層	02B		1B-57	175	砕片	玉髄	0.63	0.53	0.23	0.10	13.911
第2文化層	02B		1B-57	176	礫	安山岩				1.21	13.875
第2文化層	02B		1B-57	177	礫	安山岩				0.62	13.909
第2文化層	02B		1B-57	178	礫	安山岩				13.10	13.900
第2文化層	02B		1B-57	179	礫	安山岩				0.63	13.910
第2文化層	02B		1B-57	180	礫	安山岩				33.48	13.908
第2文化層	02B		1B-57	181	砕片	安山岩　6	0.88	0.17	0.27	0.24	13.899
第2文化層	02B		1B-57	182	砕片	安山岩　6	1.06	0.63	0.24	0.14	13.898
第2文化層	02B		1B-57	184	礫	チャート				3.77	13.890
第2文化層	02B		1B-57	185	礫	安山岩				8.05	13.901
第2文化層	02B		1B-57	186	礫	安山岩				3.20	13.900
第2文化層	02B	24図35-2	1B-57	187	石核	安山岩　2	2.84	2.73	3.02	31.58	13.923
第2文化層	02B	19図8-2	1B-57	188	剥片	玉髄	2.22	1.74	0.43	1.67	13.929
第2文化層	02B		1B-57	189	砕片	安山岩　4	0.76	0.60	0.15	0.07	13.924
第2文化層	02B	26図51-2	1B-57	190	剥片	安山岩　4	1.55	2.15	0.39	1.16	13.890
第2文化層	02B	30図67	1B-57	191	礫	安山岩				23.62	13.878
第2文化層	02B		1B-57	192	砕片	玉髄	0.68	0.20	0.19	0.01	13.933
第2文化層	02B	28図58	1B-57	193	剥片	安山岩　5	1.95	2.15	0.44	1.78	13.940
第2文化層	02B	30図67	1B-57	194	礫	安山岩				15.02	13.906
第2文化層	02B		1B-57	195	礫	砂岩				13.90	13.910
第2文化層	02B		1B-57	196	剥片	安山岩　3	0.88	2.05	0.28	0.46	13.925
第2文化層	02B		1B-57	197	礫	安山岩				9.12	13.935
第2文化層	02B		1B-57	198	礫	チャート				18.62	13.901
第2文化層	02B		1B-57	199	礫	安山岩				1.77	13.917
第2文化層	02B	24図37	1B-57	200	剥片	安山岩　2	2.43	2.22	0.47	1.98	13.908
第2文化層	02B		1B-57	201	礫	安山岩				1.22	13.871
第2文化層	02B		1B-57	202	礫	安山岩				1.15	13.856
第2文化層	02B		1B-57	203	砕片	安山岩　1	1.31	1.11	0.40	0.48	13.865
第2文化層	02B		1B-57	204	砕片	玉髄	0.64	1.02	0.23	0.12	13.878
第2文化層	02B		1B-57	205	礫	石英斑岩				13.94	13.893
第2文化層	02B		1B-57	206	礫	安山岩				1.13	13.865
第2文化層	02B		1B-57	207	剥片	安山岩　1	1.05	0.95	0.32	0.41	13.877
第2文化層	02B		1B-57	208	礫	安山岩				0.99	13.905
第2文化層	02B		1B-57	209	礫	安山岩				4.87	13.920
第2文化層	02B		1B-57	210	礫	安山岩				27.35	13.915
第2文化層	02B		1B-57	211	砕片	安山岩　1	0.58	0.87	0.13	0.07	13.877
第2文化層	02B	30図67	1B-57	212	礫	安山岩				6.71	13.906
第2文化層	02B	29図61	1B-57	213	剥片	安山岩　5	3.08	3.45	0.80	7.01	13.885
第2文化層	02B	27図53-1	1B-57	214	剥片	安山岩　4	4.89	1.94	1.47	11.78	13.895
第2文化層	02B	27図52-1	1B-57	215	剥片	安山岩　4	4.51	2.30	1.69	17.90	13.878
第2文化層	02B		1B-57	216	砕片	玉髄	1.28	0.68	0.21	0.17	13.886
第2文化層	02B	20図17	1B-57	217	剥片	玉髄	3.32	0.42	0.36	0.84	13.903
第2文化層	02B	20図15	1B-57	218	剥片	玉髄	1.92	2.54	0.50	1.26	13.865
第2文化層	02B		1B-57	219	砕片	玉髄	1.46	0.54	0.23	0.16	13.899
第2文化層	02B		1B-57	220	砕片	玉髄	0.57	0.97	0.23	0.10	13.884
第2文化層	02B		1B-57	221	礫	安山岩				2.71	13.905
第2文化層	02B	26図51-3	1B-57	222	剥片	安山岩　4	2.14	2.96	1.02	4.79	13.910
第2文化層	02B		1B-57	223	礫	チャート				1.55	13.888
第2文化層	02B		1B-57	224	砕片	玉髄	0.86	0.35	0.19	0.04	13.887
第2文化層	02B		1B-57	225	礫	安山岩				13.23	13.877

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器　種	母岩番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	標高 m
第2文化層	02B		1B-57	226	礫	安山岩				1.09	13.859
第2文化層	02B		1B-57	227	砕片	安山岩　5	0.58	0.95	0.19	0.10	13.851
第2文化層	02B		1B-57	228	礫	チャート				1.38	13.836
第2文化層	02B		1B-57	229	剥片	安山岩　5	1.36	1.74	0.45	0.99	13.852
第2文化層	02B		1B-57	230	礫	チャート				1.33	13.859
第2文化層	02B		1B-57	231	剥片	安山岩　1	1.53	1.00	0.24	0.51	13.842
第2文化層	02B		1B-57	232	剥片	玉髄	1.03	1.62	0.28	0.40	13.841
第2文化層	02B		1B-57	233	砕片	玉髄	0.91	0.79	0.25	0.10	13.790
第2文化層	02B		1B-57	234	礫	安山岩				0.98	13.865
第2文化層	02B		1B-57	235	礫	安山岩				0.10	13.870
第2文化層	02B		1B-57	236	礫	安山岩				0.20	13.877
第2文化層	02B		1B-57	237	礫	チャート				1.34	13.771
第2文化層	02B		1B-57	238	礫	安山岩				0.43	13.905
第2文化層	02B		1B-57	239	礫	石英斑岩				2.60	13.882
第2文化層	02B		1B-57	240	剥片	安山岩　5	0.79	2.37	0.36	0.47	13.885
第2文化層	02B		1B-57	241	礫	安山岩				3.40	13.850
第2文化層	02B	27図53-2	1B-57	242	剥片	安山岩　4	3.11	1.49	0.12	3.12	13.890
第2文化層	02B		1B-57	243	砕片	安山岩　4	0.57	0.45	0.12	0.04	13.881
第2文化層	02B	24図40	1B-57	244	剥片	安山岩　2	2.65	1.37	0.29	0.68	13.873
第2文化層	02B	28図54	1B-57	245	剥片	安山岩　4	2.45	1.65	0.45	6.93	13.872
第2文化層	02B		1B-57	246	砕片	玉髄	1.92	1.22	0.17	0.15	13.838
第2文化層	02B		1B-57	247	砕片	安山岩　1	0.50	0.92	0.14	0.05	13.886
第2文化層	02B		1B-57	248	砕片	安山岩　1	1.36	0.98	0.12	0.15	13.850
第2文化層	02B		1B-57	249	砕片	安山岩　1	1.03	0.38	0.22	0.09	13.840
第2文化層	02B		1B-57	250	礫	チャート				1.61	13.832
第2文化層	02B		1B-57	251	礫	安山岩				0.22	13.809
第2文化層	02B		1B-57	252	礫	安山岩				4.22	13.818
第2文化層	02B		1B-57	253	砕片	安山岩　1	0.91	0.43	0.23	0.08	13.834
第2文化層	02B	20図16	1B-57	254	剥片	玉髄	1.54	1.57	0.45	0.81	
第2文化層	02B		1B-57	255	剥片	安山岩　1	1.50	0.69	0.30	0.23	13.814
第2文化層	02B		1B-57	256	礫	石英斑岩				11.18	13.810
第2文化層	02B		1B-57	257	礫	安山岩				0.86	13.814
第2文化層	02B		1B-57	258	礫	チャート				2.33	13.820
第2文化層	02B		1B-57	259	礫	安山岩				4.80	13.793
第2文化層	02B		1B-57	260	礫	安山岩				6.55	13.778
第2文化層	02B		1B-57	261	砕片	玉髄	0.60	0.61	0.21	0.07	13.799
第2文化層	02B		1B-57	262	礫	安山岩				1.35	13.806
第2文化層	02B		1B-57	263	剥片	玉髄	2.01	0.82	0.34	0.35	13.804
第2文化層	02B	24図39	1B-57	264	剥片	安山岩　2	2.45	1.65	0.23	1.27	13.782
第2文化層	02B		1B-57	265	砕片	玉髄	1.18	1.20	0.43	0.51	13.784
第2文化層	02B		1B-57	267	礫	安山岩				0.07	13.786
第2文化層	02B		1B-57	268	礫	石英斑岩				3.49	13.782
第2文化層	02B		1B-57	269	礫	安山岩				0.04	13.762
第2文化層	02B		1B-57	270	砕片	安山岩　3	0.50	0.71	0.28	0.09	13.787
第2文化層	02B		1B-57	271	砕片	安山岩　3	0.60	0.95	0.16	0.09	13.782
第2文化層	02B		1B-57	272	砕片	玉髄	0.75	0.44	0.15	0.03	13.780
第2文化層	02B		1B-57	273	砕片	安山岩　3	0.62	0.69	0.12	0.06	13.770
第2文化層	02B		1B-57	274	礫	安山岩				10.66	13.780
第2文化層	02B	30図67	1B-57	275	礫	安山岩				7.57	13.778
第2文化層	02B		1B-57	276	礫	安山岩				0.40	13.758
第2文化層	02B		1B-57	277	剥片	安山岩　3	1.32	1.67	0.25	0.38	13.749
第2文化層	02B		1B-57	278	剥片	玉髄	1.28	1.58	0.32	0.59	13.741
第2文化層	02B		1B-57	279	砕片	玉髄	0.78	0.71	0.40	0.19	13.712
第2文化層	02B	29図64	1B-57	280	剥片	頁岩	2.93	1.26	0.92	3.24	13.807
第2文化層	02B		1B-57	281	礫	チャート				5.64	13.870
第2文化層	02B		1B-57	282	礫	チャート				16.11	14.020
第2文化層	02B		1B-57	283	礫	頁岩				17.61	13.988
第2文化層	02B		1B-57	284	剥片	安山岩　1	1.77	1.05	0.43	0.61	13.929
第2文化層	02B		1B-57	285	砕片	安山岩　1	1.04	0.72	0.30	0.21	13.675
第2文化層	02B		1B-67	2	礫	安山岩				15.89	13.965
第2文化層	02B		1B-67	3	礫	チャート				1.49	14.030
第2文化層	02B		1B-67	4	礫	安山岩				16.57	13.956
第2文化層	02B	18図5	1B-67	5	使用痕ある剥片	玉髄	3.00	3.37	0.85	9.02	13.848
第2文化層	02B		1B-67	6	礫	チャート				4.03	13.785
第2文化層	02B		1B-67	7	剥片	玉髄	1.69	1.27	0.47	0.46	13.892
第2文化層	02B		1B-67	8	礫	片麻岩				17.59	13.909

文化層	ブロック	挿図番号	グリッド番号	遺物番号	器　種	母岩番号	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	標高 m
第2文化層	03B	20図11	1B-58	2	剥片	安山岩　4	1.79	2.12	0.51	1.59	14.080
第2文化層	03B		1B-58	3	礫	チャート				1.19	13.990
第2文化層	03B		1B-58	5	礫	チャート				1.31	13.922
第2文化層	03B		1B-58	6	礫	安山岩				10.34	14.001
第2文化層	03B	21図21-3	1B-58	7	石核	安山岩　1	3.54	2.92	3.56	33.96	13.919
第2文化層	03B		1B-58	8	礫	安山岩				3.74	14.007
第2文化層	03B	18図6	1B-58	9	剥片	安山岩　2	4.09	2.62	0.77	8.78	13.995
第2文化層	03B	21図21-2	1B-58	10	剥片	安山岩　1	1.70	0.97	0.46	0.75	14.170
第2文化層	03B	31図8	1B-58	11	剥片	安山岩　2	2.40	1.20	0.32	1.03	14.025
第2文化層	03B		1B-58	13	砕片	安山岩　5	1.24	1.41	0.28	0.46	13.976
第2文化層	03B		1B-58	14	剥片	凝灰岩	2.16	1.18	0.49	0.96	13.956
第2文化層	03B		1B-58	15	剥片	安山岩　5	1.20	1.57	0.29	0.52	13.955
第2文化層	03B	31図10	1B-58	16	剥片	安山岩　3	3.21	5.50	0.97	12.89	13.855
第2文化層	03B	31図4	1B-59	2	剥片	安山岩　1	4.28	2.35	0.49	6.22	14.005
第2文化層	03B		1B-59	4	剥片	安山岩　2	1.50	1.62	2.22	0.77	13.783
第2文化層	03B		1B-59	6	砕片	安山岩　2	0.95	1.29	0.27	0.43	13.983
第2文化層	03B		1B-59	7	砕片	安山岩　2	1.06	0.78	0.21	0.16	13.924
第2文化層	03B		1B-59	8	礫	安山岩				1.18	13.928
第2文化層	03B		1B-59	9	剥片	安山岩　2	1.56	0.80	0.27	0.27	13.793
第2文化層	03B	31図3	1B-59	10	剥片	玉髄	3.09	1.89	0.95	5.18	13.750
第2文化層	03B	31図1	1B-59	11	ナイフ形石器	頁岩	3.35	1.23	0.76	2.36	13.885
第2文化層	03B		1B-68	2	剥片	安山岩　2	1.67	1.08	0.32	0.68	13.907
第2文化層	03B		1B-68	3	剥片	安山岩　2	1.36	1.52	0.31	0.46	13.870
第2文化層	03B	31図2	1B-68	4	剥片	玉髄	4.24	2.43	1.13	6.23	13.970
第2文化層	03B	31図9	1B-68	5	剥片	安山岩　3	3.94	4.36	1.38	19.77	13.790
第2文化層	03B	31図5	1B-69	2	剥片	安山岩　1	4.73	3.65	1.11	15.16	13.935
第2文化層	03B	31図7	1B-69	5	剥片	安山岩　2	2.90	1.94	0.45	2.43	
第2文化層	04B	34図12	1B-76	2	剥片	安山岩　3	3.55	1.50	0.40	1.19	14.066
第2文化層	04B		1B-76	3	砕片	玉髄	0.84	0.57	0.26	0.23	13.871
第2文化層	04B	34図8	1B-76	4	剥片	安山岩　1	3.60	1.85	0.63	3.44	14.044
第2文化層	04B	34図2	1B-77	2	剥片	玉髄	2.40	1.28	0.28	0.96	13.890
第2文化層	04B		1B-77	3	砕片	安山岩　1	1.73	0.94	0.50	0.67	13.998
第2文化層	04B		1B-77	4	礫	安山岩				5.71	14.088
第2文化層	04B		1B-77	5	礫	安山岩				3.30	14.050
第2文化層	04B		1B-77	6	礫	安山岩				19.84	14.030
第2文化層	04B	34図11	1B-77	7	剥片	安山岩　3	3.88	2.97	0.61	7.24	14.034
第2文化層	04B	34図1	1B-77	8	ナイフ形石器	玉髄	2.66	1.25	0.49	1.46	13.976
第2文化層	04B	34図10	1B-77	9	剥片	安山岩　1	1.94	2.00	0.28	1.18	14.032
第2文化層	04B	34図13	1B-77	11	剥片	安山岩　6	2.32	2.37	0.57	3.11	13.993
第2文化層	04B	34図16	1B-77	12	石核	頁岩	3.21	2.12	1.75	10.01	14.140
第2文化層	04B	34図3	1B-77	13	剥片	玉髄	3.34	1.74	0.82	3.60	14.043
第2文化層	04B	34図4	1B-77	14	剥片	玉髄	2.89	1.26	1.28	2.49	13.941
第2文化層	04B	34図5	1B-77	15	剥片	玉髄	2.18	1.63	0.36	0.79	13.980
第2文化層	04B	19図8-3	1B-77	16	石核	玉髄	3.36	3.91	3.36	49.03	13.995
第2文化層	04B	34図9	1B-85	2	剥片	安山岩　1	3.70	3.06	0.66	6.57	14.113
第2文化層	04B		1B-87	2	砕片	安山岩　1	1.38	1.19	0.27	0.40	13.998
第2文化層	04B	36図15	1B-87	3	剥片	凝灰岩	3.50	2.40	1.09	6.35	14.013
第2文化層	04B	34図6	1B-87	4	剥片	玉髄	1.58	1.44	0.51	1.10	
第2文化層	04B		1B-87	5	砕片	凝灰岩	1.06	0.93	0.26	0.35	13.822
第2文化層	04B	34図7	1B-87	6	剥片	玉髄	1.56	2.48	0.51	1.22	13.993
第2文化層	04B	36図14	1B-87	7	剥片	凝灰岩	2.54	3.58	0.90	6.40	14.054
第2文化層	04B		1B-87	8	砕片	玉髄	1.02	0.55	0.21	0.11	14.008
第2文化層	04B	34図12	1B-87	9	剥片	安山岩　3	1.90	1.39	0.26	0.76	14.025
	単独	36図1	1B-45	1	剥片	安山岩　2	7.29	4.61	1.28	36.06	
	単独		1B-70	3	剥片	安山岩　2	1.53	0.90	0.30	0.37	13.920
	単独		1B-71	4	砕片	安山岩　2	1.03	1.32	0.33	0.40	13.927
	単独		1B-72	5	剥片	安山岩　2	2.92	1.75	0.53	2.44	13.992

第２節　縄文時代

１　概要

調査地内には以前に建てられていた海神県営住宅の基礎が地中深く及んでいるところも多く、また住宅の施設に伴う各種の地下埋設管や植栽もあり、調査条件は決してよくはなかった。とくに調査地内に建物の基礎が地上数十㎝の高さで残っていたこともあって、調査区が基礎によって限定されたり、現地作業において支障を来す場合も少なくなかった。

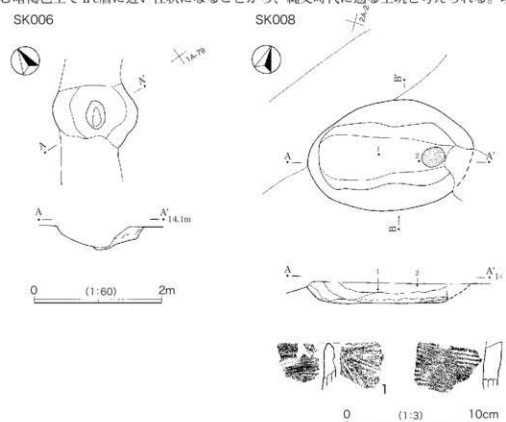
今回発掘調査を実施した地域は、飛ノ台貝塚としては東端部にあたり、今まで数回行われてきた調査の成果をそのまま当てはめることは難しいと考えられた。しかし、調査の結果、縄文時代早期の炉穴が散漫ながら調査区のほぼ全体から検出され、この遺跡の広がりを考える上で貴重な遺構群が検出できた。

炉穴は炉床が残っていない不確実なものを含めて全部で22群45基、他に土坑が３基であった。また、遺構外からは若干の縄文土器が出土している。

２　土坑・炉穴

SK006（第37図、図版４）

1A-68～78グリッドに位置する。遺構上面の大半が溝状遺構002によって壊されており、遺存状況はあまりよくない。長径1.35m、短径は推定で1.20mの、やや楕円形に近い平面形態である。深さは0.35mで、底部中央がややくぼむ。底面から大きく逆「ハ」の字状に開き、浅い擂鉢状になる。埋土は上下層ともローム粒を多く含む暗褐色土でⅡc層に近い性状になることから、縄文時代に遡る土坑と考えられる。埋土の

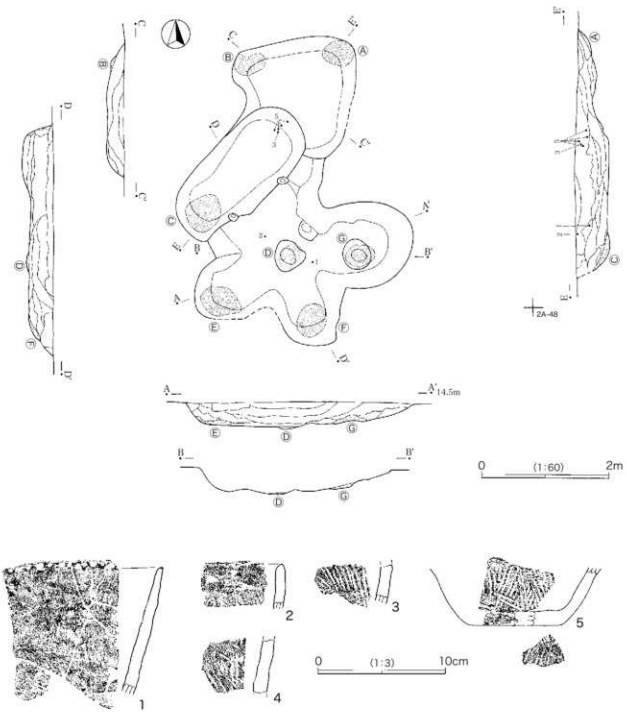


第37図　SK006・SK008

ほとんどが溝によってすでに削平されていることもあって遺構に伴う出土遺物はなかった。

SK008（第37図、図版４・21）

2A-24･25グリッドに位置する単独の炉穴である。遺構北西側の一部が溝状遺構SD002によって切られ、東端部が撹乱を受けているが、遺構の全容は把握できる。平面形態は長径2.61m、短径1.73mの楕円形になる。主軸をN－76°－Eにとる。底面は比較的平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、掘り込みの深さは0.32mを測る。炉床部の範囲は0.36m×0.28mでやや長円形になる。焼土の厚みは0.06m～0.08mである。



第38図　SK009

遺物は中央の覆土上部から散漫に出土している。

１はやや鋭角な外削ぎ状の口縁断面を持つ。表面は横位、裏面は口端直下が横位、その下が斜位の条痕を施す。２は内外面に横位の条痕を施す。胎土に少量の繊維と細かい砂粒を多く含む。

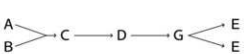
SK009（第38図、図版４・21）

2A-27～47グリッドにかけてのやや広い範囲に位置する。SPC′付近が風倒木痕によって破壊されているものの、炉床が７か所あることから少なくとも７基の炉穴が重複する。最も炉穴の原形を残すＣは長さ2.48m、幅1.12m、深さ0.50mを測り、本炉穴群の中で最も掘り込みが深い。主軸はＳ－41°－Ｗをとる。炉床の範囲は0.6m×0.53mで焼土の堆積は最も厚い所で0.11mである。Ａ・Ｂは足場の深さが同一で全体で三角形状の掘り込みとなる。ＡとＢとの切り合い関係及び各々の主軸方位は不明で、掘り込みの深さは0.26mである。Ａの炉床の範囲は0.4m×0.48m、焼土の堆積は0.06mである。また、Ｂの炉床の範囲は0.46m×0.42m、焼土の堆積は0.04mである。Ａ・ＢとＣとの切り合い関係は断面図Ｅ－Ｅ′からは明確ではないが、Ｃが新しいと思われる。

Ｄ～Ｇの切り合い関係は断面Ａ－Ａ′、Ｄ－Ｄ′からＤが古くＥ・Ｆが新しい。また、ＧはＤより新しく、Ｅより古いと考えられる。ただし、ＥとＦとの新旧関係はＤの炉床を足場として共有したためか、不明である。Ｅは主軸Ｓ－58°－Ｗで、幅約1.0m、長さ約2.8mと思われ、掘り込みの深さは0.40mである。炉床の範囲は0.50m×0.70mで焼土の堆積は0.08mである。Ｆは主軸Ｓ－20°－Ｅで、幅約1.2m、長さ約2.3mと思われ、掘り込みの深さは0.40mである。炉床の範囲は0.58m×0.52mで焼土の堆積は0.06mである。また、Ｇは主軸Ｎ－80°－Ｅで、幅1.04m、長さは不明で、掘り込みの深さは0.36mである。炉床の範囲は0.48m×0.36mで焼土の堆積は0.08mである。

これらＤ～ＧとＣとの切り合い関係は、Ｄの炉床とＣの間にある幅の広い平坦面をＤの足場と理解すればＤがＣより新しいことが断面Ｄ－Ｄ′からわかる。ただ、この広い平坦面すべてをＤの帰属とするには幅が広すぎることから、さらに少なくとももう１基、炉床が完全に失われた炉穴があった可能性がある。Ｄはおそらくと直交する主軸を持ち、Ｓ－32°－Ｅほどであろう。Ｄの底面付近には小型の浅いピットが３か所認められるがその所属は不明である。

以上、Ａ～Ｇの少なくとも７基の炉穴の切り合い関係は、以下のように考えられよう。



覆土上部から土器片が少量出土した。１はＥないしＦに、３・５はＣに属するものと思われる。

１は平縁の口縁端部に丸棒状工具による浅い刻みを施す。表裏面とも無文である。胎土に少量の繊維と粒径0.5㎜ほどの砂粒を非常に多く含むのが特徴である。内外面とも被熱のためか器面が荒れている。２は端部の断面がやや尖った口縁で、口縁直下を無文帯とし、それ以下に条痕を施す。裏面は無文である。３・４は尖底土器体部下半の一部と考えられる。外面に条痕が顕著に残り、内面の施文痕跡は不明瞭である。５は平底の底面を残す。３と同一個体である。外面に条痕を施す。外面に器面の荒れはないが、内面は被熱によって器面がかなり荒れて剥落している部分もある。白色砂粒を非常に多く含む。

SK010（第39図、図版４・21）

1A-96グリッドに位置し、建物の基礎が残っているために遺構の一部しか調査できなかった。最大長2.26ｍで、幅はもっとも広いところで0.51ｍになり、おそらく幅１ｍほどの南北に長い長円形の平面形態になると考えられる、主軸はほぼ南北である。深さは0.50ｍあり、壁はほぼ平坦な底面から逆「ハ」の字状に立ち上がる。底面で３か所の炉床を確認したが、いずれもその一部でしかなく詳しいことはわからない。底面は北に向かって次第に深くなる。遺物の出土はごく少量である。

１は細隆起線で区画した中に集合沈線を充填した野島式である。２は表裏面にささら状の条痕を施す。焼き締まって硬質である。

SK011（第39図、図版４・21）

2A-78～89グリッドに位置する。断面では明らかではないが、２基の炉穴の重複であろう。足場のみが残る炉穴Ｂをより深く掘り込まれたＡが切っていると思われる。Ｂは幅0.84ｍ、深さ0.34ｍを測り、南側に深さ0.16ｍのピットを伴う。Ａは最大幅1.08ｍ、長さ2.20ｍ、深さ0.68ｍを測り、主軸はＮ－63°－Ｅをとる。炉床の範囲は0.54ｍ×0.48ｍで、焼土の堆積は0.12ｍである。炉床部付近の平面プランがくびれた状態を示すのは、この部分がブリッジ状に掘り残され、煙道付きの炉穴であった可能性が考えられる。

出土土器は少量である。５・６はＢの覆土上層から出土している。１はくびれた頚部付近の破片で口縁部と体部の文様がわずかに認められる。口縁部文様は細沈線で区画した後、区画内を半截竹管による細かな押引文で充填する。区画の交点には円形竹管を刺突する。鵜ガ島台式である。２・３は同一個体でやや波打った平縁で口端に鋭い刻みが付く。表裏面に浅い条痕を施す。４はやや厚手の体部破片で、表裏面ともささら状の浅い条痕を施す。５は体部下半にあたると思われる破片で、外面に条痕を施すが、内面は器面の剥落が著しい。６は器面の内外面に条痕を施した体部の破片でやや薄手である。内面は被熱のためか器面が剥落している。

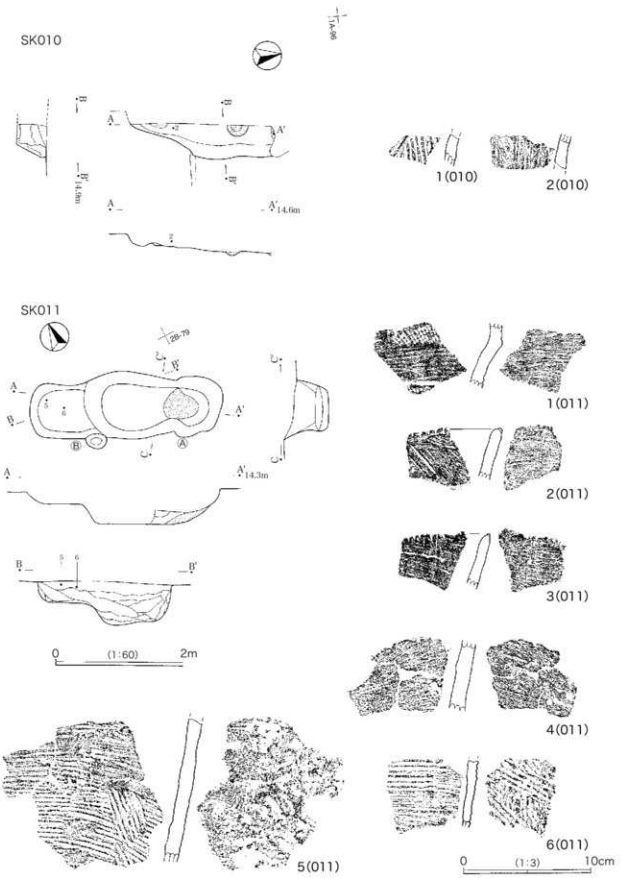
SK012・SK015（第40・41図、図版４・21・22）

1A-84・85グリッドに位置する。012・015は近接しており、本来は一つの遺構として取り上げるべき性質のものかもしれないが、両者の間に下水管が埋設されたことで両者が物理的に分断され、遺構の連続性を把握することが困難になったために、とりあえず北側の３基の重複を012、南側の単独炉穴を015とした。

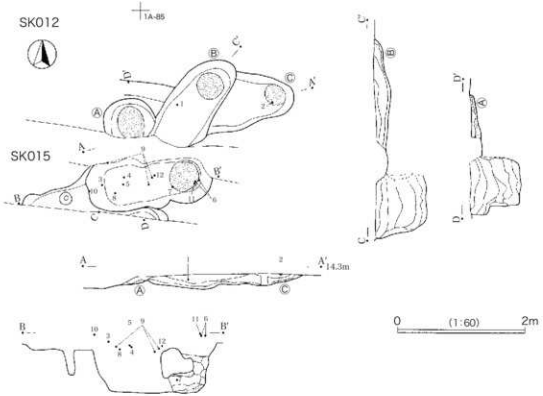
012はＡ～Ｃの３基からなり、断面Ａ－Ａ′からＡが最も新しいことがわかる。ＢとＣの関係については明らかではないが、Ｂが新しい可能性が高い。Ａは幅0.80ｍ、深さ0.12ｍで、足場は撹乱で壊され、015との関係はわからない。主軸はＮ－12°－Ｗ程度であろう。炉床は0.50ｍ×0.48ｍ、焼土の堆積は0.06ｍを測る。Ｂは幅0.79ｍ、深さ0.28ｍで、足場の先端は撹乱で壊され、やはり015との関係はわからない。主軸はＮ－39°－Ｅをとる。炉床は径0.42ｍのほぼ円形で、焼土の堆積は0.04ｍとわずかである。Ｃは最大幅0.92ｍ、深さ0.29ｍで、主軸はＮ－89°－Ｅをとる。出土土器は１がＢの、２がＣの覆土上層から出土した。

１は表面に浅い条痕を雑に施し、裏面は無文である。２は表裏とも粗い条痕を縦位に施す。裏面下半には炭化物が付着する。１・２とも胎土に白色の細砂を多く含み、繊維の混入はごく少ない。

015は下水埋設溝と建物基礎に挟まれた幅0.70㎝ほどの範囲のなかの調査のために、遺構周囲について



第39図　SK010・SK011



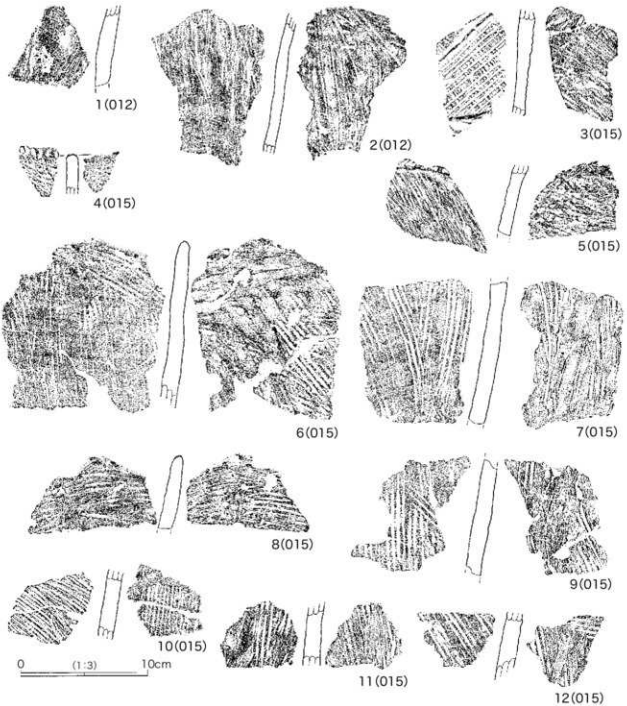
第40図　SK012・SK015（1）

は不明な部分が多い。単独の炉穴で、長さ1.96m、幅0.77mを測り、底面は比較的平坦である。深さは0.68mあり、012より明らかに遺構深度が深い。主軸はN－82°－Eである。炉床は東端部の底面にあり、径1.00mのほぼ円形で、焼土の堆積は0.08mである。炉床の上約0.20mに地山を掘り残した天井部が遺存し、天井部下面は被熱で赤化していた。また、東端部の壁際はピット状に掘り込まれ、煙道施設が確認された。煙り出し部の形状は平面的には把握してないが、断面図等から判断すると崩落があったにせよ、煙出しは径が0.20m前後はあったであろう。なお、足場側の主軸の延長上には径0.20m、深さ0.40mのピットが認められる。遺物は足場側の覆土上層からややまとまって出土した。

3は表裏面に条痕を施した後、表に細隆起線文を水平とそれに斜行する方向に施文し、その区画内を集合沈線で充填する。野鳥式である。5は3と同一個体で拓影上端にわずかに細隆起線による文様帯区画と集合沈線が認められる。体部は斜行するささら状の条痕である。4は口縁端部に丸棒状工具による刻みを付け、その下に華奢な沈線を乱雑に施文する。6は波状口縁の大型破片で、表面は縦位の条痕を施した後、口縁に沿って帯状に条痕を再度施す。裏面は斜位の条痕と斜位及び口縁に沿って帯状に指頭によるなでが認められる。8も波状口縁の破片で、表裏面とも横位の条痕を施す。胎土中の繊維の混入はごく少なく、白色の細砂を多く含む。7・9～12は体部破片で縦位方向の条痕が主である。やはり繊維の混入は少なく、比較的硬質である。

SK013・SK017（第42図、図版4・5・21）

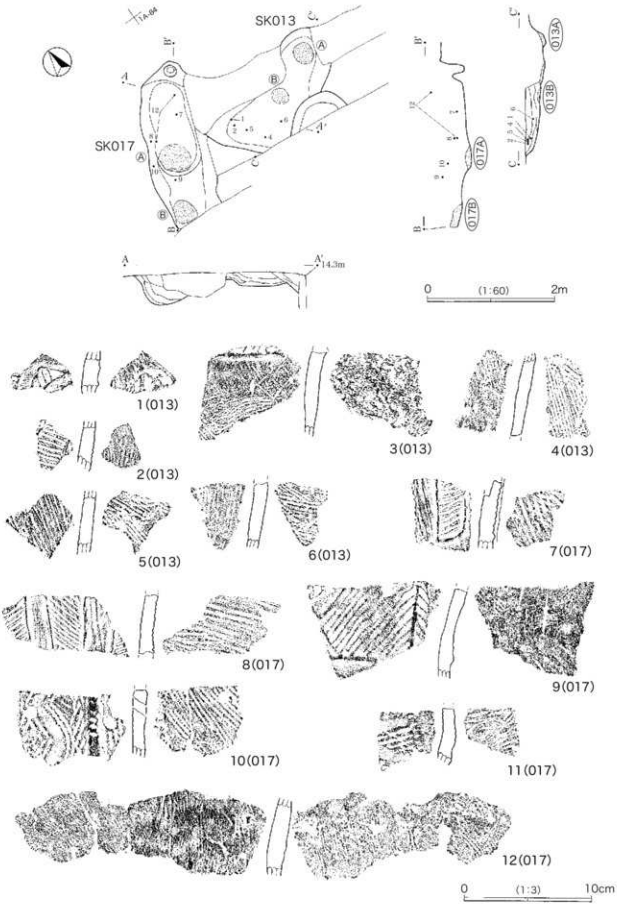
1A-83・84グリッドに2群の炉穴が近接して所在する。SK013・SK017の北側はSK012同様、埋設された水道管によって上面が破壊されており遺存状態はよくないものの、建物の基礎があって調査不能な範囲



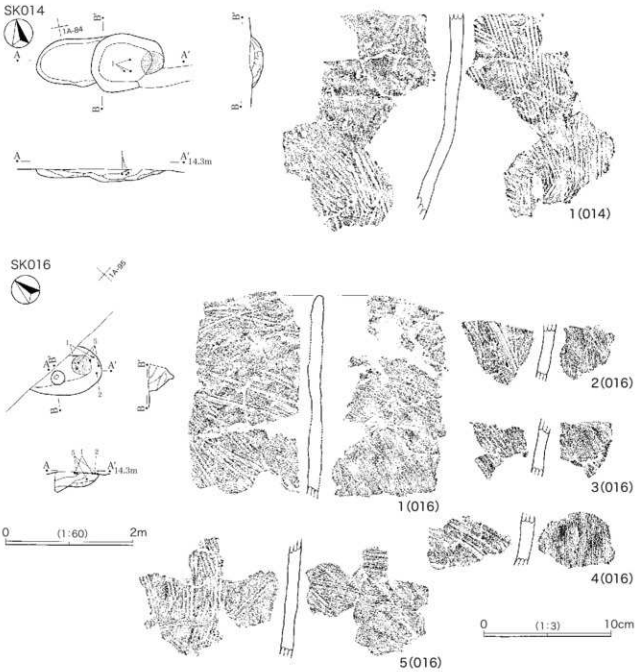
第41図　SK012・SK015（2）

をのぞいてその全容はおよそ把握できた。

SK013は２基の炉穴と建物の基礎によって全貌が分からない楕円形状の掘り込みからなる。楕円形状の掘り込みが断面観察により２基の炉穴より新しいことがわかるが、これもおそらく炉穴の足場部分と思われる。炉穴ＡとＢの新旧関係は攪乱により十分な断面観察ができなかったが、ＡよりＢが新しいと思われる。Ａは推定幅1m、推定長２m以上、深さ0.28mで、炉床の範囲は0.33m×0.30m、焼土の堆積は0.07



第42図　SK013・SK017

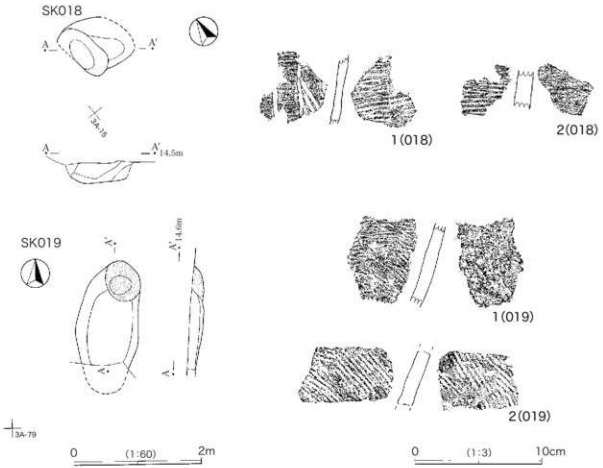


第43図　SK014・SK016

mを測る。主軸は最も新しい落ち込みとほぼ正反対のN－46°－Eをとると思われる。Bは推定長1.6m、深さ0.24mで、幅は不明である。炉床の範囲は0.30m×0.25m、焼土の堆積は0.04mを測る。遺物はBの足場付近の覆土上層から出土した。

1は細隆起線のみで区画文と充填文が施される厚手の破片である。3は1と同一個体と思われる文様帯下部の破片で、同様の文様が認められる。体部には条痕が施されるが裏面は無文である。2は細隆起線による区画文と集合沈線による充填文が施される。いずれも野島式である。4～6は同一個体と思われ、比較的細かい条痕が表裏に施される。

SK017は炉穴2基の重複であるが下水管埋設溝が埋土の下部にまで達していたため新旧関係は不明であ



第44図　SK018・SK019

る。Aは推定幅1.0m、推定長1.94m以上、深さ0.48mを測り、主軸はS－25°－Wをとる。炉床の範囲は0.52m×0.42mで、焼土の堆積は0.10mである。底面は傾斜を持つ。足場側の外縁に深さ0.38mの小ピットを伴う。BはAとほぼ主軸を同じくし、炉床側の立ち上がりは建物基礎により不明である。幅0.93m、深さ0.30mを測り、炉床の範囲は0.34m×0.40m以上で、焼土の堆積は0.14mである。遺物は覆土中層から上層にかけて出土した。

7・8は同一個体で、縦方向の細隆起線による区画内に集合沈線を充填する。7では縦区画の一部が集束している。9は文様帯下部の破片で、文様帯の区画、縦の分帯及び分帯内の区画文として細隆起線が用いられ、区画内を集合沈線で充填する。いずれも野島式である。10・11も同一個体で、刻み付きの隆線による縦の分帯の左右に指頭による縦の凹線文と細い竹管による押引文を施文する。10の拓影左上には補修孔が開く。指頭による凹線文は一般に鵜ガ島台式から茅山下層式の特徴であり、野島式の例を寡聞にして知らない。ここでは、時期比定を保留しておきたい。12は体部下半の破片で、表面は擦痕、裏面は比較的細かい条痕である。

SK014（第43図、図版4・22）

1A-83・84グリッドにあってSK017の北側に隣接する。東端部の一部に溝状の撹乱が重なる程度で、遺構の全容は把握できる。中央にわずかな段差があり2基の重複の可能性もあるが、断面観察から単独の炉穴と理解しておきたい。長さ2.01m、幅0.79mで、炉床側の深さは0.40m、足場側の深さ0.12mを測る。

炉床の範囲は0.37m×0.35m、焼土の厚さは0.06mである。遺物は覆土中層から出土した。

1は体部から底部付近にかけての大型破片で、表面の底部付近と裏面全面に条痕を施す。

SK016（第43図、図版5・22）

1A-94グリッドにあり、SK013・SK017と建物の基礎幅の約1.2mを挟んで南東に位置する。したがって建物の基礎から外れた0.75mほどを調査したにすぎない。単独の炉穴であるが、建物の基礎部分方向にのびる北側については、013と重複していた可能性がある。幅0.75m、深さは0.24mを測る。炉床の範囲は径0.30mのほぼ円形で、焼土の厚さは0.07mである。炉床近くに深さ0.2mほどの小ピットがある。遺物は覆土上層を中心に出土した。

1から4はおそらく同一個体で、1は口縁から体部にかけての大型破片で、口縁はやや波をうった平縁である。表裏面とも幅広のささら状条痕を雑に施す。2～4は体部破片である。5は表面は条痕、裏面はささら状の条痕である。

SK018（第44図、図版5・22）

3A-05グリッドに位置する、長径0.93mの小規模な落ち込みである。深さは0.40mほどになる。埋土は縄文時代の遺構埋土と比較的共通するが焼土粒は含まない。

1は条痕地文に縦位の区画沈線と斜位の集合沈線が認められる。かなり薄手で、胎土に繊維を含む。野島式と考えられる。2は内外面に横走する条痕を施す。

SK019（第44図、図版5・22）

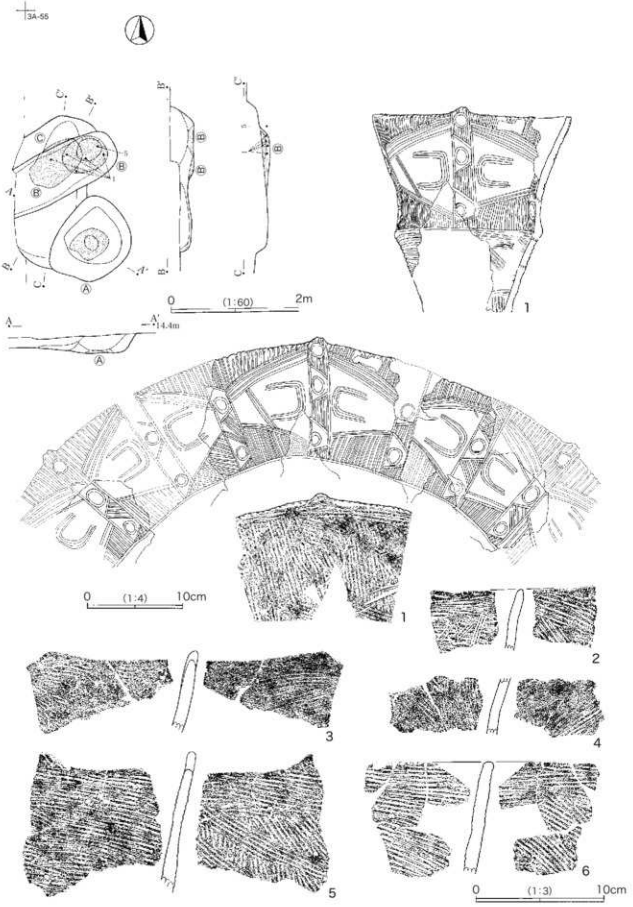
3A-69グリッドに位置する単独の炉穴である。南端部が攪乱を受けているために全長は不明だが、現存長は1.68mあり、本来の全長は2m前後はあったと考えられる。最大幅は1.00m、深さ0.23mを測る。主軸はN－10°－Eである。炉床は0.61㎝×0.52㎝のやや不正な円形で、焼土は0.20m以上の厚みで厚く堆積している。

1は表面は条痕、裏面は無文である。2は表裏面とも条痕で、胎土中に白色の細砂粒を多く含み、繊維の混入は少ない。

SK020（第45図、巻頭図版1、図版5・22）

3A-54・55グリッドにかけて少なくとも3基の炉穴が重複するが、西側が建物の基礎で破壊されているために不明な点もある。断面の観察結果ではAが最も古く、炉床の状況・遺物の出土状況からはBが最も新しくなるが、断面にはその重複状況が表現されていない。そのことを踏まえてここではBの遺物の出土状況を重視して3基の変遷を最も古いものからA・C・Bの順としておく。

AはCの南端部に取り付くように位置する。長径1.31m、短径.1.11mで、東北・南西方向にやや長い。深さは0.30mほどで、壁はやや傾斜をもって掘り込まれている。底面のほぼ中央に0.50m×0.45mの範囲で炉床がある。焼土は0.05mの厚みで堆積していた。Bは現存長1.77mで、全長はおそらく2m前後にはなると考えられる。幅0.81m、深さ0.38mを測り、主軸はN－63°－Eをとる。北側の底面には焼土が長軸方向に1.27m、幅は0.55mの範囲で見つかっており、散布範囲の形状から2か所の炉床があった可能性がある。遺存状態のよかった深鉢土器1の出土状況から中央寄りの範囲が古く、北東側の炉床が新しいと考えられる。前者をB′、後者をBとする。Bの炉床に堆積した焼土上からは口縁から胴下半にかけて略完形に復元された土器1がばらついた状態で出土した。Cは掘方の大部分にA・Bの掘方が重複し、西辺側が建物の基礎に重なるために全容を把握できない。現存長2.44m、深さ0.18mで、幅は推定で1.3



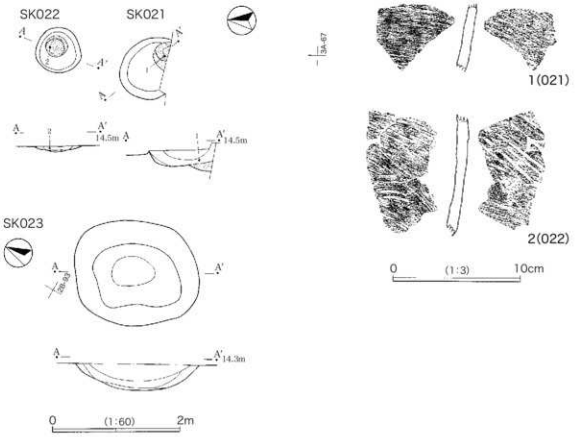
第45図　SK020

m前後と思われる。炉床は現存しない。炉穴B′、Bが構築された際、消滅したものと思われる。各炉穴の切り合い関係をまとめると以下のとおりとなる。

A ⟶ C ⟶ B′ ⟶ B

1は推定口径21.2cm、現存高21.5cmを測る。口縁から体部中段の屈曲部にかけて幅の広い文様帯を置く。口縁部は約1/2を欠損し、一部二次的火熱を受けて文様を欠くが、ほぼ全体の文様構成を復元できる。口縁端部には小型の山形突起がおそらく2単位対向して配され、全体に刻み目がめぐる。体部中段の屈曲部までを文様帯とし、文様帯の下部区画は1条の沈線である。文様帯は円文と縦位の集合沈線が交互に繰り返される縦位区画帯で6分割され、その中に横U字を主文様として上下に集合沈線が充填された斜位区画を配する。各分帯内の文様は縦位区画帯をはさんで対向する文様配置をとる。施文に使用された工具は口端の刻みを含めてすべて同一の角形の棒状工具である。文様帯下は条痕が施される。条痕の走行が部位で異なり、文様帯直下は横位、その下は斜位、底部付近は縦位である。裏面も全面に条痕が施されるが、同様に部位によって走行が異なる。口縁直下は横位、以下縦位であるが、器形の屈曲部のみ一部横位となる。屈曲部が土器製作時の継ぎ目に当たり、接着をより強める意図によるものであろう。

2～6は表裏面に条痕のみを施した破片で、5・6は同一個体である。2・3は波状口縁をなす。5は波状口縁ではなく、小型の山形突起であろう。



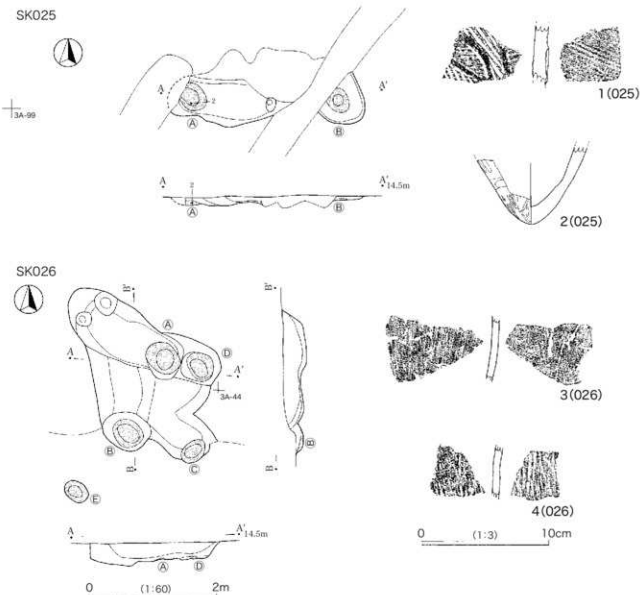
第46図　SK021・SK022・SK023

SK021・SK022（第46図、図版５・23）

3A-66グリッドを中心に２基の炉穴が南北に近接して位置する。南に位置する021は南半分が攪乱によって損なわれているが、およそ長径1.08m、短径0.91mの卵形の平面形態と推定できる。深さは0.20mほどで、南東の底面近くに炉床がある。炉床は攪乱を受けたために半分しか残っていないが、径0.42m程度の円形の範囲と考えられる。焼土の厚みは0.14mほどである。

022は021から北へ0.7mの地点に位置する。径0.73m前後のやや歪な円形である。掘込みは0.05mほどしか残っていなかった。焼土の範囲は底面のほぼ中央に径0.35mの範囲で、約0.04mの厚さで堆積していた。

１は021の出土で、表裏面にやや太めの条痕を施す。細かい砂粒を多く含み、器面がざらつく。２は022から出土したもので、１と同一個体である。



第47図　SK025・SK026

SK023（第46図、図版５・23）

2B-93グリッドに位置する、長軸長1.88m、短軸長1.68mのソラマメ形の平面形態である。深さは0.47mほどになる。断面は浅い擂鉢状で、壁は緩やかに立ち上がる。埋土はきれいなレンズ状堆積を示す。埋土の性状等から縄文時代の土坑と判断した。

SK025（第47図、図版５・23）

3B-90グリッドを中心として位置する。樹木の植栽痕や攪乱溝で寸断されており詳細は不明である。とくに東側の攪乱溝を挟んで遺構の輪郭線が連続しないようにも見受けられるが、現地調査では１遺構として取り扱っているので、それにしたがって１遺構とみなして説明しておく。２基の炉穴からなる。Ａは長さ不明、最大幅0.75mで、深さは0.15mと浅く底面は平坦ではない。主軸はＮ－82°－Ｗをとる。炉床は0.50m（推定）×0.40mの範囲で、焼土の厚みは0.07mほどになる。足場側に小型の浅い窪みがあり、焼土が詰まっていた。炉床の焼土中から尖底土器の底部２が出土した。Ｂは最大幅0.78mの楕円形をなすものと推定される。炉床は0.43m（推定）×0.35mの規模で、焼土の厚みは0.04mほどで非常に薄い。

１は細隆線文で区画した中に斜めの集合沈線を施文する。区画外には横位方向の条痕が残る。野島式である。２は砲弾形の尖底である。底面の中央まで縦位方向の条痕を施す。底部尖端から４cm程度の条痕の途切れた部分は横位方向に土器使用時の擦れによる窪みが明瞭に認められ、全周する。15トレンチ出土資料と接合した。

SK026（第47図、図版６・23）

3A-33・43グリッドに位置する。Ａ～Ｄの炉床の存在から少なくとも４基の重複と考えられるが、土層断面からは切り合い関係は把握できなかった。ここでは炉床と足場との対応から長楕円形の炉穴４基が複合したものとして、各炉穴の規模と主軸方向などを推定で記載する。

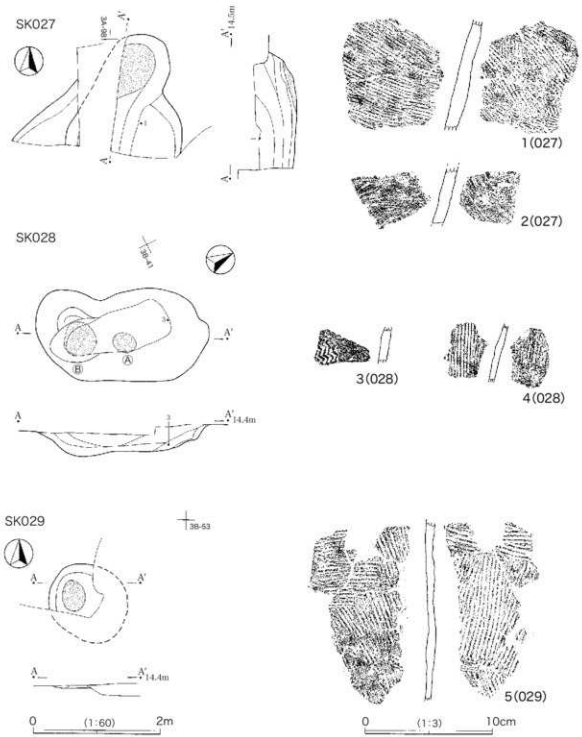
Ａは４基中最も掘り込みが深く、最大幅0.90m、長さ2.07m、深さ0.38mを測る。主軸はＳ－58°－Ｅをとる。足場側先端部の２基の小ピットはＡに付属すると思われる。北側のピットは遺構確認面から深さ0.41m、南側のピットは同じく0.35mを測る。炉床は0.58m×0.46mで焼土の堆積は0.05mである。Ｂは最大幅1.00m、長さ不明、深さ0.28mを測る。主軸はＳ－4°－Ｅをとる。炉床は0.50m×0.43mで焼土の堆積は0.06mである。Ｃは最大幅0.73m、長さ不明、深さ0.30mを測る。主軸はＳ－48°－Ｅをとる。炉床は0.43m×0.33mで焼土の堆積は0.02mとごくわずかである。Ｄは幅、長さとも不明、深さ0.33mを測る。主軸はＮ－40°－Ｅをとる。炉床は0.47m×0.40mで焼土の堆積は0.03mである。

炉床ＥはＢ炉穴の炉床の南西約1mの位置に単独で存在するが、確認トレンチにより遺構確認面から0.13m深く掘り下げられた状態で検出されたため、本来は足場部分がＢ・Ｃ炉穴と重複していた可能性もある。確認時の規模は0.42m×0.30m、焼土の堆積は0.03mである。

１・２は表裏面に縦位の条痕を施す。両者とも比較的薄手である。

SK027（第48図、図版６・23）

3A-97・98グリッドにあり、第２次調査と第３次調査の調査区境に位置するために、調査が２年次に跨っている。第２次調査の際、遺構のほぼ中央に仮囲いした柵の支柱があり、それを安全帯として残したために、その両脇のわずかな部分しか調査できなかった。炉穴の両脇の浅い落ち込みはシミ状のものと思われる。長さ不明、最大幅1.05m、深さは0.43mを測る。主軸をＮ－30°－Ｅにとる。炉床の範囲は推定で１m×0.7mほどになる。焼土の厚みは、最も厚いところで0.14mほどである。

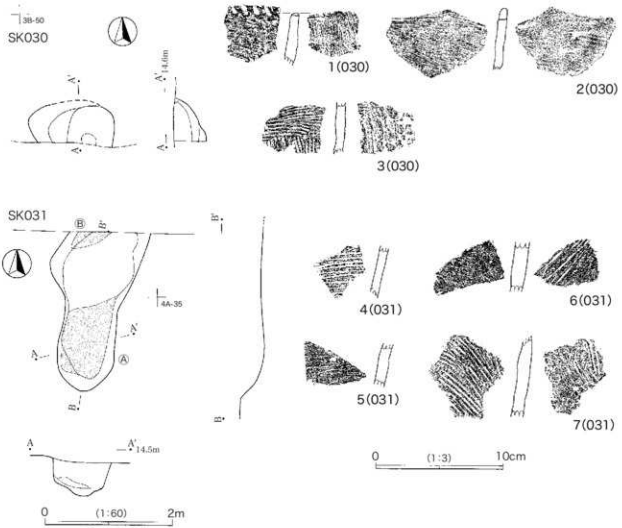


第48図　SK027・SK028・SK029

1・2とも表裏面に条痕を施す。1は条の間隔がかなり狭い。

SK028（第48図、図版6・23）

3B-31・41グリッドに位置する。調査時の所見では、2基の炉穴が軸方向をやや違えて重なっているものと判断しており、それは断面図でも確認できるが、新しい炉穴が古い炉穴の埋土中にあった輪郭につい



第49図　SK030・SK031

てははっきりしない。ここでは便宜的に、新しい炉穴をA、古い炉穴をBとして説明していく。AはBの輪郭からはみ出した部分を足場側の立ち上がりとし、土層断面から壁の立ち上がりを確認できた地点から推定すると、全長は2.1m、幅は最大でも1.1m程度と考えられる。主軸はおよそN－40°－Eである。深さは0.20m程度で、緩やかに擂鉢状に立ち上がる。炉床の範囲は0.30m×0.37mである。Bは長さ2.73m、幅1.47mのやや歪な長円形の平面形態である。深さは0.30mほどで、Aよりも少し深い。主軸はS－14°－Wである。炉床の範囲は0.56×0.50mで焼土の堆積は0.06mである。

1は山形押型文を帯状施文した小破片である。胎土に大粒の砂粒を多く含むのが特徴である。混在したものであろう。2は表裏面に条痕を施す。薄手の造りである。

SK029（第48図、図版6・23）

3B-52グリッドに位置する。南東部が溝状の撹乱坑によって破壊されているものの、遺構掘り方は長軸方向と考えられる東側の撹乱坑を越えてはいないので、全長はせいぜい1.30m前後にしかならないであろう。したがってその平面形態は長円形と推定できる。深さは0.10m程度で、浅い掘り方に比べて比較的平坦な底面を作り出している。炉床は0.48m×0.38mで焼土の堆積は0.07mである。

１はおそらく口縁部直下から体部にかけての破片と思われる。表裏面とも上部は横位、下部は縦位の条痕を施す。薄手の造りである。

SK030（第49図、図版６・23）

3B-50グリッドに位置する。南側が建物の基礎によって破壊されており、北側も配水管が埋設されているために、掘方のかなりの部分が損なわれている。規模については、かりに長軸を東西方向にとれば、全長は1.37m程度になり、小型の部類に属する。底面には段差があって、深さは東側では0.30m、西側ではそれより0.15mほど浅くなる。埋土は焼土の散布こそ確認できなかったが、色調・性状が他の炉穴の埋土と共通するので、炉穴の一部と考えておく。

１は口端に丸棒状工具で刻みを付ける。表面は太めの条痕、裏面は細かな条痕である。２は波状口縁の破片で表裏に浅い条痕を施す。繊維の含有は少なく、堅緻な造りである。３は表裏面とも細かな条痕で、表面の条痕は２方向に施す。

SK031（第49図、図版６・23）

4A-24・34グリッドに位置する。Ａ・Ｂ２基が重複する。Ａの焼土堆積範囲がＢの足場によって切られていることからＡが古く、Ｂが新しいと判断した。Ａは最大幅0.89m、深さ0.67mを測る。主軸はＳ－９°－Ｗをとる。炉床の範囲は0.73m×1.15m以上、焼土の堆積は0.13mである。Ｂは最大幅1.34m、深さ0.55mを測る。主軸はＮ－22°－Ｅほどと思われる。炉床は撹乱のため不明である。覆土中から黒色土に混じて貝ブロックが発見された。サンプル中からは破砕されたマガキとナミマガシワが1点認められた。マガキは殻長の計測可能なものは少なく70㎜を最大とし、50㎜以下の小型のものを主体としていた。

１・２は早期沈線文系土器である。胎土中に白色の細砂を含む。おそらく三戸式であろう。１は横位の細沈線に加え、拓影上端に左下がりの細沈線が認められる。２は擦痕が顕著である。拓影上半は太沈線文か否か確定できない。３・４は表裏とも条痕を施す。３の表面の条痕はごく浅い。

３　遺構外出土遺物（第50～54図、図版23～26）

確認トレンチや他の時期の遺構内からは早期後半の茅山式系の土器を中心に草創期後半の撚糸文土器から後期に至る土器が出土した。

撚糸文土器（１～９）

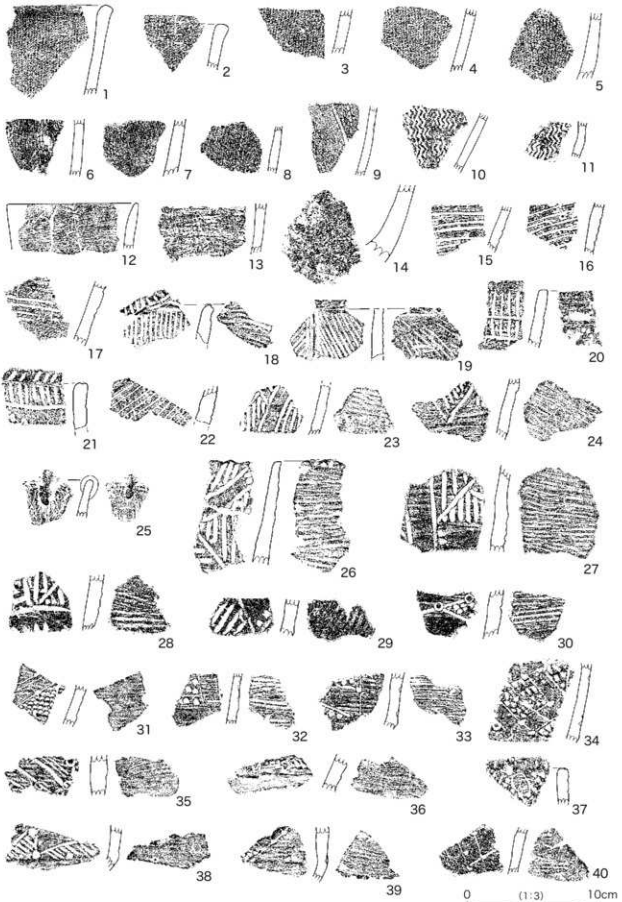
１は口縁がわずかに肥厚し、Ｌの細かい撚糸文を密に施す。２もほぼ同様の口縁断面を持ち、口縁下にＬの細かい撚糸文を密に施すが、口縁端部から直下にかけて太いＬの撚糸文を間隔をあけて３条短く施す。３～５の体部破片はいずれもＬの細かい撚糸文を施す。６はＬＲの撚糸文、７・８はＲの撚糸文で条の間隔が１～５よりもあいている。９は撚りのゆるいＲの撚糸文と思われる。１・３～５は夏島式、６～９は稲荷台式であろう。２は類例を知らない。ここでは口縁下の撚糸文の性状から夏島式としたい。

押型文土器（10～11）

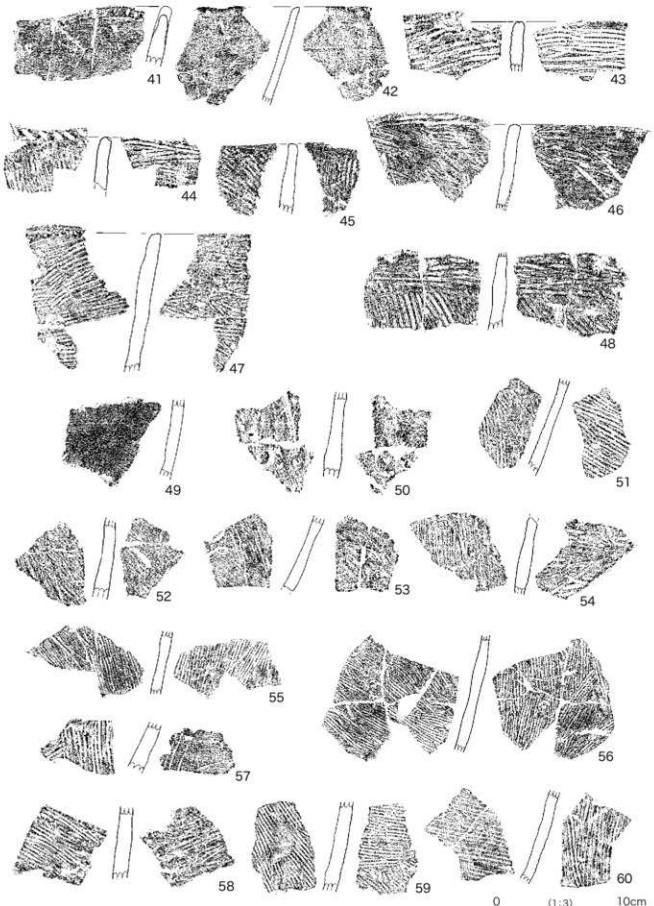
いずれも山形の押型文を縦位に施す。10は無文部が目立つが帯状施文とはならないと思われる。10は体部下半、11は底部付近の破片で色調は異なるが同一個体と思われる。SK028出土の押型文土器とも色調は異なるが胎土はよく似ている。

沈線文土器（12～17）

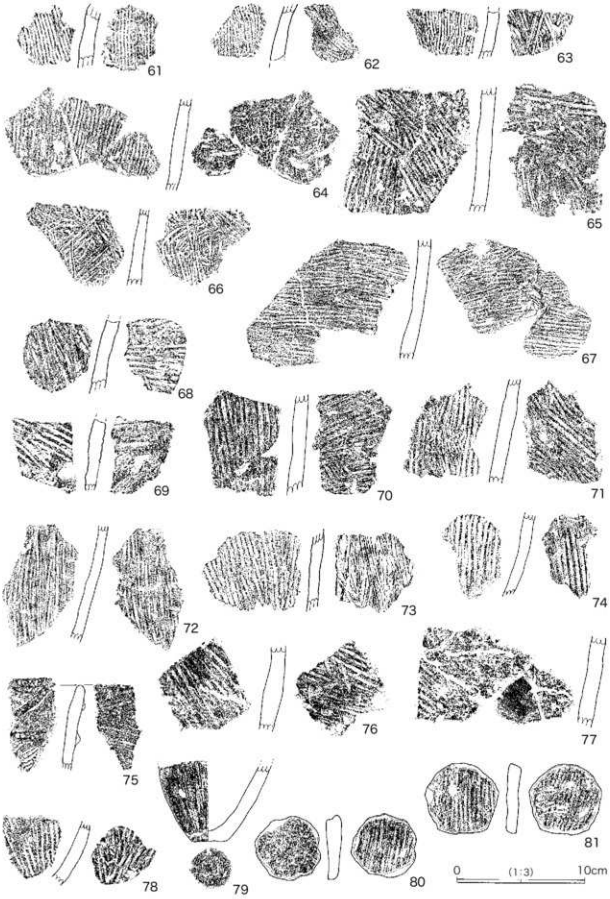
12は推定口径10.4㎝の小型土器で器面には擦痕が認められる。13・14は胎土に長石・石英の小粒を多



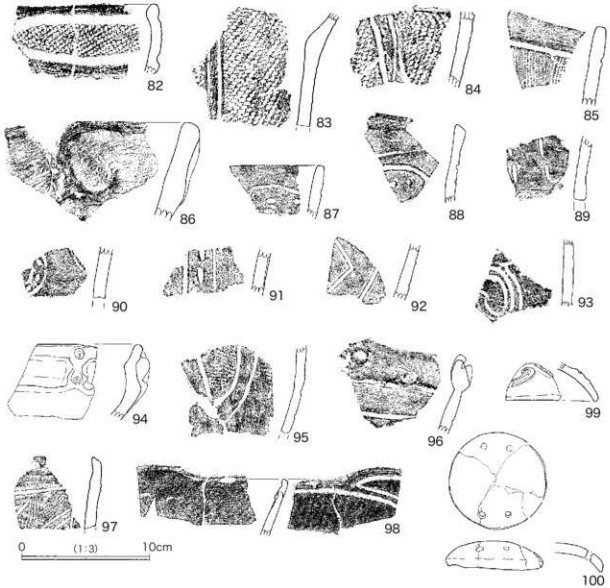
第50図　遺構外出土縄文土器（1）



第51図　遺構外出土縄文土器（2）



第52図　遺構外出土縄文土器（3）



第53図　遺構外出土縄文土器（4）

く含む。器面調整の際にこれらの小粒が移動して付いた擦痕が顕著に認められる。15・16は細沈線を多条に施す。17は細めの太沈線文である。12～14は三戸式ないしはその直前、15～17は三戸式から田戸下層式であろう。

茅山式系土器（18～24・26～81）

18・19・22は細隆起線による区画文と沈線による充填文を施す。18は山形状の突起部分の破片で口端に刻みが付く。19は平縁で、口端にフネガイ科の小型貝殻の背圧痕が付く。20・21は18・19と同様の角型の口縁断面を持ち、区画文と充填文がともに沈線によるものである。23・24も20・21と同様の文様構成である。以上は野島式である。26～29はやはり同様の文様構成をとるが、無文の区画帯の要所に２連の刺突文を施す。なお、28・29は同一個体である。東京都神谷原遺跡Ⅴ群Ｃ類に近く、鵜ガ島台式であろう。30～36・38・39は沈線による直線的な区画文内に刺突文や押引文・沈線文を充填する。区画の要所には円形竹管文や三日月状の刺突文を施す。31～34・36・38・39には文様帯の下端が認められる。

器形が屈曲する部分である。37は口端に刻みが付き、区画文が楕円となる。40は沈線による格子目文と格子目の交点に三日月状の刺突文を施す。これらも鵜ガ島台式である。

41～74・76・78・79は主に上記野島・鵜ガ島台式に伴う無文ないし条痕の施された土器である。このうち、41～47は口縁部破片、48は口縁を欠く口縁部付近の破片である。41は低い山形の突起部分に刻みが付く表裏無文のやや厚手の土器である。42も無文であるが器壁は薄く、口縁は内削ぎ状となる。43～48は表裏に条痕を施す。このうち、43は口端にフネガイ科の貝殻腹縁圧痕が、44も口端に半截竹管による深い刻みが付く。また、46の口端には条痕が口縁に沿って施され、47は角型の口縁外端に浅い刻みが付く。48は口縁部の条痕が横位、以下縦位ないし斜位に施される。49以下は胴部破片である。49・50は表裏とも無文、52は表裏とも擦痕、53は表面が擦痕で裏面は太めの浅い条痕が施される。54～63は表裏とも条痕が細かいが、57のみ裏面の無文部分が広い。64～74・76・78はこれらよりも条痕の幅が広いものである。73は底部付近の破片である。79は平底の底部である。底面の平坦面は狭い。表面はやや幅の狭い条痕、裏面は無文である。底面周辺に２次的火熱を受けているが、器面はあまり荒れていない。

土器片円盤（80・81）

上記茅山式系土器の破片を利用した円盤である。周縁を打ち欠いて円形に成形する。80は表面無文、裏面条痕で、81は表裏とも条痕である。

早期終末の土器（75・77）

75はゆるい波状口縁で左下がりと水平方向の隆帯を口縁部に貼り付け、以下に条痕を施す。裏面は無文で、繊維の混入はないようである。77は胎土に多めの繊維と5㎜大の小角礫を含む。厚手で焼きが甘く、表裏面とも無文であるが、表面の拓影左下に幅広の条痕が浅く残る。共に神ノ木台式～下吉井式に比定されると思われる。

中期の土器（82～86）

いずれも加曽利Ｅ３式に属するものであろう。82は口縁部破片で、口縁部文様帯内の縄文はＬＲＬである。83・84は同一個体で、磨消縄文が認められる。縄文はＲＬＲである。85は沈線区画下に櫛歯文が施される。86は低い隆帯で退化した渦巻文を施す。

後期の土器（87～100）

87～92は称名寺２式で、沈線区画内に刺突文や短沈線を施文する。93～95は綱取１式であろう。93は3本単位の沈線でＪ字状の文様を施す。95は体部下半の破片で磨消縄文が認められる。96もこれらに近い土器と思われる。97は堀之内２式、98は堀之内２式ないし加曽利Ｂ１式の無文土器で、波状突起の裏面に隆線文様と円形刺突文を施す。99・100は土製蓋で99には隆線文様を施す。100は２個１対の円孔が開けられ、おそらく欠損部にも同様の孔が開くと思われる。

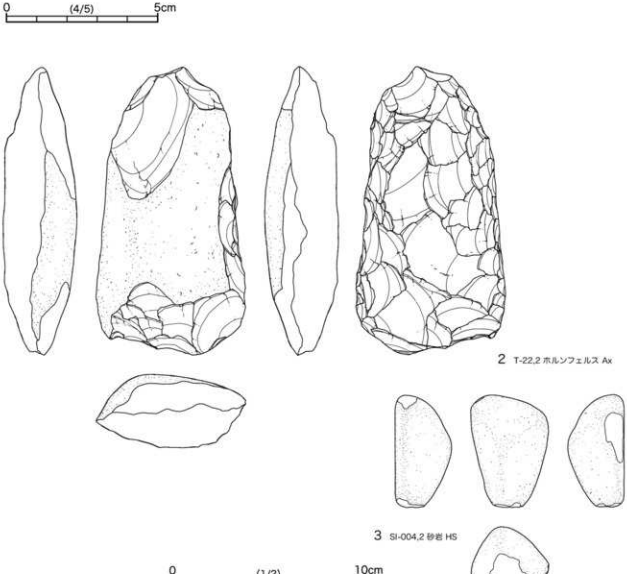
なお、82～100までの遺物の内、82～86・97・98を除くものはいずれも3A-53グリッドからまとまって出土したものである。

型式不明の土器（25）

25は小型土器の口縁部破片で、口縁を巻き込むように粘土紐を貼り付ける。文様は粘土紐の左右で若干異なり、右側は垂直、左側は弧状の沈線区画を行い、その中を格子目文様で埋めていると思われる。口端の刻みとともにこれらの沈線は同一の細い沈線である。器壁の厚さは7㎜と薄手で、胎土には繊維を含んでいない。

石器（第54図、図版26）

縄文時代所産の石器が３点出土した。１・３は古墳時代住居跡の覆土中、２はトレンチ精査中の出土である。１は安山岩製の石鏃である。平面形状は二等辺三角形を呈し、装着部は平基となる。長さ1.89cm、幅1.31cm、最大厚0.45cm、重量0.79ｇを測り、片基部および先端部が欠損している。２はホルンフェルス製の打製石斧である。片面は原礫面が大きく遺存する。礫を打割し作出された剥片素材の石斧と考えられる。裏面側縁部の調整は密に施される。長さ15.17cm、幅7.98cm、最大厚3.70cm、重量515.18ｇを測る。３は砂岩製の敲石である。三角柱状の礫を素材とし、潰れたような敲打痕が認められる。長さ5.94cm、幅4.11cm、最大厚2.94cm、重量85.74ｇを測る。



第54図　縄文時代石器

第３節　古墳時代

１　概要

調査区南側の第２次調査区（10）・第３次調査区（11）から、古墳時代後期の竪穴住居跡が４軒検出された。該期の竪穴住居跡はこれまでの調査で、海神中学校改築に伴う第１次調査で２軒、今回の調査地点の西側に隣接する海神中学校のグラウンドにおける確認調査で４軒以上検出されているが、古墳時代後期集落がさらに南東側へ広がっていることが確認された。

２　竪穴住居跡

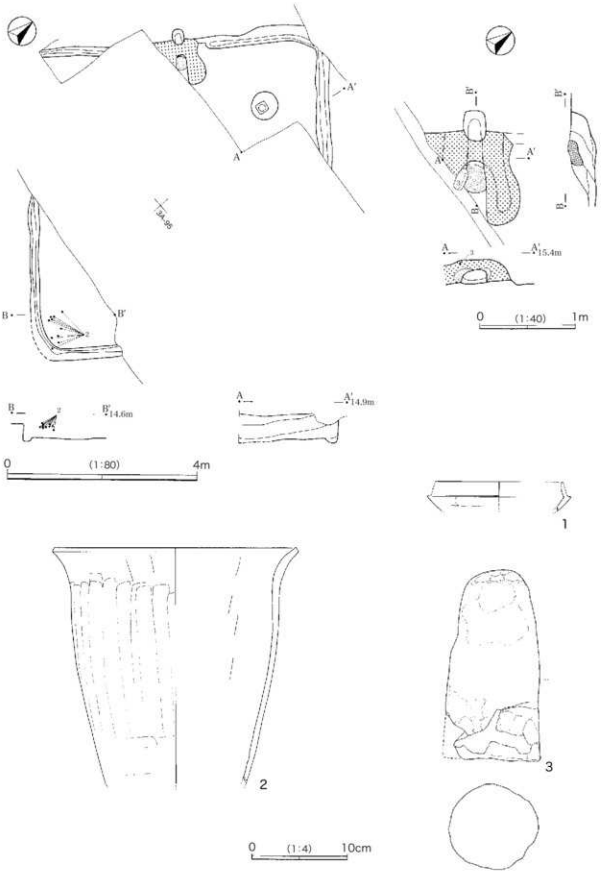
SI001（第55図、図版７・26・27）

3A-84・85・94・95グリッド付近に位置する。第２次調査区（10）と第３次調査区（11）にまたがって検出された。調査区の境界付近は内部に電柱とその支柱があり安全帯を確保したために、大部分を調査することができなかった。規模は一辺約6.6m、確認面からの深さ30cm ～60cmを測り、正方形を呈する。主軸方向はN－50°－Wを指す。覆土は、上層は締まりが弱い黒褐色土、中層は粘性のある暗褐色土、下層は締まりのあるローム粒を含む褐色土が自然堆積していた。床面は特に硬化した箇所は認められなかった。周溝はカマド内を除いて設けられており、幅15cm ～30cm、深さ約10cmを測る。ピットは北側で１か所検出された。主柱穴と考えられるもので、径約50cm、深さ約55cmを測る。掘り方の平面形は、中位以下は方形を呈する。カマドは北西壁やや北寄りに位置する。左袖部の手前が撹乱されているほかは遺存状態は良好であった。煙道部が壁外に掘り込まれており、全長1.2mを測る。袖部は壁面の掘り込みの側面から僅かに開いて伸びており、長さ約1.0m、床からの高さ25cm ～30cmを測る。天井部は掛け口と煙道部の間に高さ約20cm遺存していた。袖部と天井部の構築材は灰白色の粘土であった。燃焼部付近の袖部の内壁と底面の燃焼部付近は火熱により赤色化していた。覆土は、煙道部付近は焼土を含む暗褐色土、焚口から燃焼部付近は焼土を多く含む橙褐色土が堆積していた。

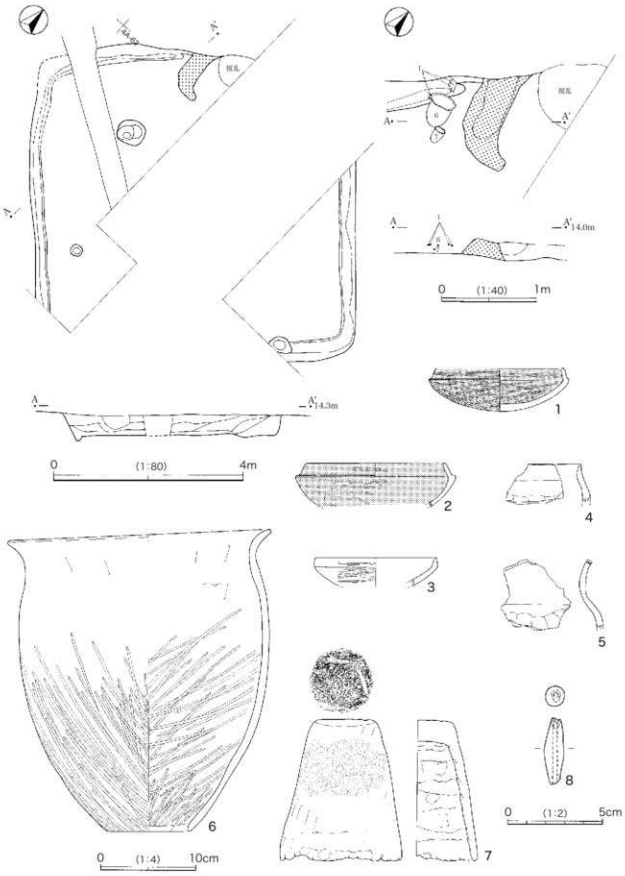
出土遺物は縄文土器が多く、当該期の資料は少ない。１は土師器杯である。須恵器の杯身模倣のもので、体部と口縁部の境に段が形成され、口縁部が内傾するものである。被熱により口縁部外面は遺存部分ではすべて剥落していた。体部外面は横方向のヘラ削り、内面はヨコナデが施される。２は土師器甑である。南側コーナー付近から出土した。口縁部に最大径を有する砲弾形のものである。底部は欠損する。口縁部端部はヨコナデにより平坦に成形される。胴部外面は上・中位は縦方向のヘラ削り、下方は横方向のヘラ削りが施される。内面は横方向のヘラナデが施される。３は土製の支脚である。カマド内から横倒しの状態で出土した。下方の一部を欠損し、外面には籾等の植物の圧痕がみられる。

SI002（第56図、図版７・８・26・27）

調査区南西側、4A-52・53・62・63・72・73グリッド付近に位置する。中央付近を南北方向に縦断するように住宅コンクリート基礎により撹乱されていた。規模は一辺約6.9m、深さ40cm ～50cmを測る。主軸方向はN－40°－Wを指す。床面は特に硬化した箇所はなかった。周溝は検出部ではカマド内を除いて設けられており、25cm ～45cm、深さ約10cmを測る。南東壁下周溝内には径約35cm、深さ約10cmのピットが検出されている。床面にピットは２か所検出されているが、規模及び位置から主柱穴と考えられるものは西側コーナー側の１か所である。径約60cm、深さ約67cmを測り、床面下約25cmの深さから下は南西側に径30cm ～35cmの掘り方が施されている。南西壁下のピットは径約25cm、深さ約14cmを



第55図　SI001



第56図　SI002

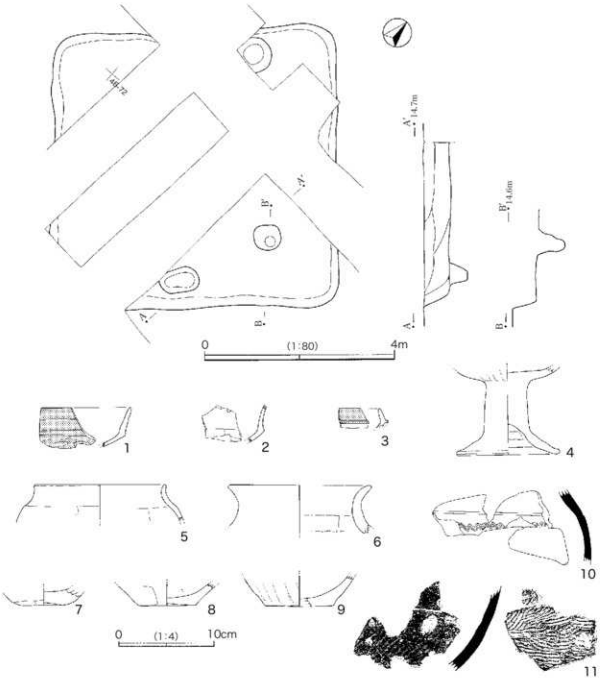
測る小規模なものである。覆土は、上層は黒灰色土、中層は黒色土、下層は暗灰色土が自然堆積していた。カマドは北西壁北寄りに位置する。撹乱により遺存状態は不良であり、左側袖部周辺を検出したのみである。左側袖部は長さ約1.0m、高さ約20cmを測り、粘土を使用せず砂のみで構築されていた。底面と袖部の内壁に被熱による硬化面は認められなかった。覆土は焼土粒を含む灰褐色土であった。

出土遺物は多くはないが、カマド左側より遺存状態の良好な土師器甑・杯、土製支脚などが出土した。1～3は土師器杯である。1・2は須恵器杯身模倣のもので、体部と口縁部の境に段を有し、口縁部が内傾するものである。1はほぼ完形に復元できたもので、体部外面に糊の圧痕が1カ所みられる。いずれも口縁部はヨコナデ、体部外面はヘラ削り、体部内面はヘラナデ後、全面にミガキが施され、黒色処理（漆仕上げ）される。3は体部が浅く扁平で、口縁部が直立するものである。体部外面はヘラ削り、体部内面はヘラナデが施され、外面には横方向のヘラミガキが加えられる。4は土師器鉢の口縁部から体部の破片である。体部は内湾し、口縁部は直立するものである。体部外面はヘラ削り、体部内面はヘラナデが施される。5は甕の口縁部から胴部の破片である。胴部が口縁部に向かって窄まり、口縁部は外反するもので、胴部外面は縦方向のヘラ削りが施される。6はほぼ完形に復元できた土師器甑である。長胴で、口径と胴部最大径がほぼ同等のものである。胴部から口縁部にかけてはやや窄まり、口縁部は外反するものである。胴部は内外面ともヘラナデが施され、胴部には外面の中位から下方はやや右下がりのヘラミガキ、内面の中位は横またはやや左下がり、下方は縦またはやや左下がりのヘラミガキが加えられる。色調は黄褐色を呈し、胎土中に長石・雲母を含む。「常総型」の特徴をもつものである。7は土製の支脚である。土器と同様に輪積みによって成形され、中空である。外面は縦方向の粗いヘラ削り後、ナデが施される。内面は輪積みの痕跡が無調整のまま残されており、内面の一部と下端部には指頭による押捺またはナデが施されている。外面の一部は白色を帯びており、カマド内において火熱を受けた部分とみられる。胎土中に長石・雲母を多量に含み、硬質に焼き上がっている。8は管状土錘である。両端とも欠損している。

SI003（第57図、図版8・26・27）

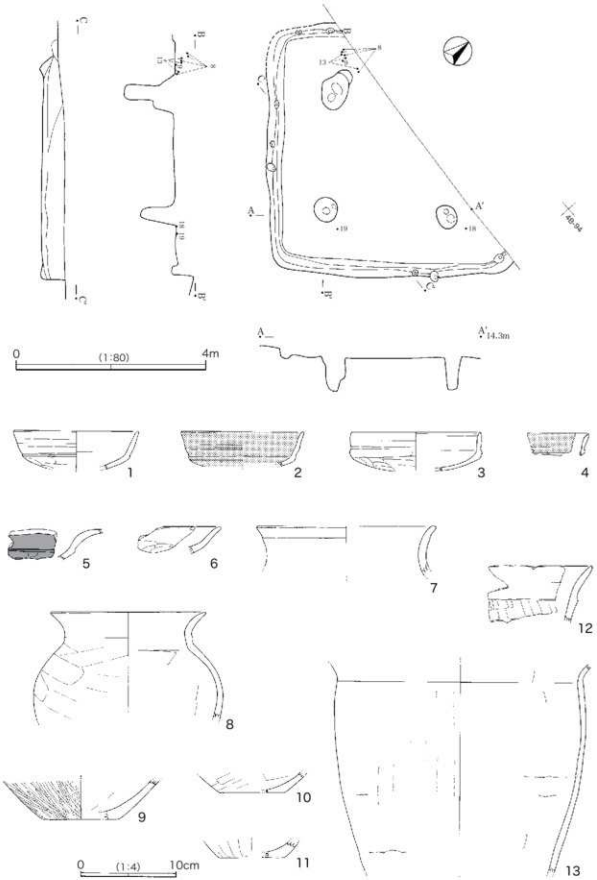
調査区南東側、4B-62・63・72・73グリッド付近に位置する。住宅コンクリート基礎により縦横に撹乱されていた。規模は一辺約6.0m、深さ50cm～55cmを測る。カマドは検出されなかったが、北西壁中央付近に位置していたものとみられる。主軸方向はN－43°－Wを指す。床面は特に踏み固められた箇所はなかった。ピットは3か所検出された。柱穴は東側コーナー付近の1か所のみしか検出できなかった。短軸径55cm、長軸径60cm、深さ58cmを測る。北西壁下のピットはカマド脇の貯蔵穴と考えられるものである。南西側が撹乱されているが、径80cm前後の円形を呈すると思われる。深さは約49cmを測る。南東壁下のピットは出入り口施設に伴う梯子ピットと思われるものである。楕円形を呈し、長軸径85cm、短軸径50cm、深さ約40cmを測る。覆土は、上層は黒灰色土、下層は暗灰褐色土が自然堆積していた。

出土遺物は少なく、遺存状態が良好なものもなかった。1～3は土師器杯の破片である。1は体部から口縁部である。体部は浅く扁平で、体部と口縁部の境には稜が形成され、口縁部は外傾しながら直線的に立ち上がるものである。体部外面はヘラ削りが施され、口縁部外面には下端に3段、中位に1段、細い沈線により段が作出されている。内外面とも、黒色処理が施されている。2は体部と口縁部の境に稜を有し、口縁部は外反するものである。体部外面はヘラ削り、口縁部外面と内面はヨコナデが施される。3は体部に内傾する短い口縁部が付される杯の小破片である。体部外面はほとんど剥落しており、器表面は僅かに遺存するのみである。内面はヨコナデが施され、内外面とも黒色処理（漆仕上げ）が施される。4は高杯

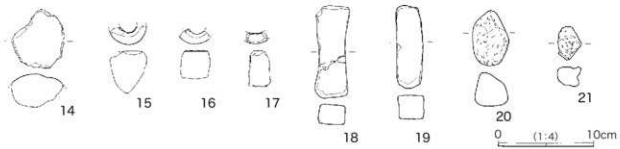


第57図　SI003

の杯部下方から脚部である。杯部外面下端はヘラ削り、杯底部内面はナデが施され、ほとんど平坦である。脚柱部は中実で、外面の器面は荒れており、調整は不明である。内面の下端部はヘラナデが施される。脚端部は短く「ハ」の字状に開く。内外面ともヨコナデが施される。５は土師器鉢の口縁部から体部上位である。体部は内湾し、口縁部との境には稜が形成される。口縁部外反気味に直立する。体部外面は横方向のヘラ削り、体部内面は横方向のヘラナデが施される。６は土師器甕の口縁部である。内面下方は横方向のヘラナデが施される。７は土師器鉢の底部である。底部は小さく、上げ底状である。体部外面はヘラ削り、内面と底部外面はヘラナデが施される。８・９は土師器甕の胴部下端から底部である。８は直線的、



第58図　SI004 (1)



第59図　SI004（2）

９は内湾しながら立ち上がる。体部外面の調整は、８は横方向、９は縦方向のヘラ削りが施される。８は胎土中に白色の砂礫を多量に含む。10は須恵器壷の体部片である。焼成が不良なため軟質で、器表面の剥落が顕著である。外面に沈線と櫛描き波状文が施されている。器表面は灰褐色、断面と内面は明黄褐色を呈する。11は接合はしないが、10と同一個体と思われる胴部下方の破片で、外面にタタキが施され、内面に青海波状の当て具痕がみられる。

SI004（第58・59図、図版８・26・27）

調査区南東端、4B-92・93グリッドに位置する。北側約1/3は住宅コンクリート基礎により攪乱されていた。規模は一辺約5.3m、深さは15cm ～50cmを測る。カマドは検出されなかったが、北西壁に位置していたものとみられる。主軸方向はN－45°－Wを指す。床面は特に踏み固められた箇所はなかった。ピットは主柱穴が３か所検出された。東・南側のピットは径約50cm、深さ約70cmを測る。西側のピットは径50cm ～90cm、深さ1.05mを測り、掘り方に中段を有する。周溝は検出箇所では全周する。幅20cm ～38cm、深さ8cm ～12cmを測る。周溝内には壁柱穴と考えられる小ピットが８か所検出された。径５cm ～20cm、深さ10cm ～27cmを測る。覆土は、上層は黒褐色土、下層はローム粒を含む黒灰色土が自然堆積していた。

出土遺物は比較的多く、土師器甕（８）・甑（13）等が西側コーナー付近から出土した。１～４は土師器杯である。１・２は口縁部が外傾し、体部と口縁部の境に稜と口縁部に段を有する。体部外面はヘラ削りが施される。いずれも摩耗が顕著であるが、２は器表面に黒褐色の部分が一部残っているため漆仕上げが施されていると判断した。３は体部と口縁部の境に段を有し、口縁部が直立する杯で、口縁部外面に弱い段を有する。４は口縁部付近の破片である。体部との境に稜を有し、口縁部はやや外形しながら立ち上がる。端部は肥厚し、内面に段が形成される。器表面は摩耗しているが、内外面とも漆仕上げがなされている。５・６は土師器高杯の口縁部から体部の破片である。５は体部と口縁部の境に稜が形成され、口縁部は外反する。内外面とも赤彩される。７～11は土師器甕である。７は外面の上方に弱い２条の段と口縁端部に一条の沈線が施されている。８は胴部が球形状に張り出す甕で、口縁部は強く外反する。胴部外面はヘラ削り、内面はヘラナデが施される。９～11は胴部下方から底部周辺の破片である。９は「常総型」の甕で、胴部外面は右下がりのミガキ、内面はヘラナデが施される。胎土中に雲母・長石を含む。11は内面に指頭によるナデが施される。12・13は土師器甑である。12は口縁部から胴部の破片である。胴部と口縁部の境は稜と口縁部中位には弱い段が形成される。口縁部は外傾する。13は砲弾形の口縁部から胴部である。外面は縦方向のヘラ削り、内面は横方向のヘラナデが施される。14は土製支脚の破片である。

遺存部での推定径は8.0cm前後である。15～17は土製の管状土錘の破片である。いずれも摩耗が顕著で、端部は15・16が片側のみ遺存していた。18・19は凝灰岩製の砥石である。20・21は軽石製品で、砥石として使用されたものとみられる。

第８表　古墳時代土器観察表

遺構番号	挿図番号	器種	遺物No.	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存度	色調 内面	色調 外面	胎土	調整　内面	調整　外面	備　考
SI001	第55図	1	杯	024-1	(13.4)	-	[2.6]	5%	褐色	褐色	密	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	
SI001	第55図	2	甕	1,3,4,5,6,7,8,9,10,12,3	(25.6)	-	[24.9]	30%	黄褐色	黄褐色	密	ナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	
SI002	第56図	1	杯	1,5,6,7,8.	(13.4)	-	4.4	90%	橙褐色	黒褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ、ミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ゛、ミガキ	内外面黒色処理（漆仕上げ）
SI002	第56図	2	杯	1	(14.8)	-	[4.6]	10%	黄褐色	黄褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ、ミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ゛、ミガキ	内外面黒色処理（漆仕上げ）
SI002	第56図	3	杯	10	(12.8)	-	[3.0]	5%	橙褐色	橙褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ゛、ミガキ	
SI002	第56図	4	鉢	10	-	-	[4.0]	5%	褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI002	第56図	5	甕	1	-	-	[7.5]	5%	黒褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI002	第56図	6	甕	3	27.7	8.8	31.9	90%	黄褐色	黄褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ、ミガキ	ヨコナデ、ヘラナデ、ヘラナデ、ミガキ	
SI003	第57図	1	杯	1	-	-	[4.2]	5%	暗褐色	黒褐色	密	ヨコナデ、ナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	内外面黒色処理
SI003	第57図	2	杯	1	-	-	[4.0]	5%	赤褐色	赤褐色	密	ナデ、ヨコナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI003	第57図	3	杯	1	-	-	[2.0]	5%	暗褐色	黄褐色	密	ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	内外面黒色処理（漆仕上げ）
SI003	第57図	4	高杯	1	-	(10.4)	[9.1]	20%	黒褐色	暗赤褐色	密	ナデ、ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ	
SI003	第57図	5	鉢	1	(13.7)	-	[3.8]	5%	褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI003	第57図	6	甕	1	(14.8)	-	[5.1]	5%	褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	
SI003	第57図	7	甕	1	-	(4.2)	[1.8]	底部80	黒褐色	灰褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ	胴部下位に付着物
SI003	第57図	8	甕	1	-	(6.0)	[2.3]	5%	赤褐色	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ	
SI003	第57図	9	甕	1	-	(7.0)	[3.2]	5%	灰褐色	灰黄褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ、ナデ	
SI003	第57図	10	須恵器壺	1	-	-	[7.8]	5%	黄褐色	灰褐色	粗	ヨコナデ	ナデ	
SI003	第57図	11	須恵器壺	1	-	-	[4.5]	5%	黄褐色	灰褐色	粗	タタキ	当て具痕	
SI004	第58図	1	杯	1	(13.0)	-	[4.0]	10%	橙褐色	橙褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI004	第58図	2	杯	1	(12.8)	-	[4.1]	10%	褐色	褐色	密	ナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	内外面黒色処理（漆仕上げ）
SI004	第58図	3	杯	1	(13.4)	-	[4.1]	20%	橙褐色	橙褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI004	第58図	4	杯	1	-	-	[2.4]	5%	褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	内外面黒色処理（漆仕上げ）
SI004	第58図	5	高杯	1	-	-	[3.2]	5%	褐色	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	内外面赤彩
SI004	第58図	6	高杯	1	-	-	[2.8]	5%	黒褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	
SI004	第58図	8	甕	1,3,11,12,13	(16.2)	-	[11.3]	20%	赤褐色	灰褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI004	第58図	7	甕	1	(18.8)	-	[5.2]	5%	黄褐色	黄褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	
SI004	第58図	9	甕	1,7	-	(8.0)	[4.2]	10%	灰褐色	赤褐色	密	ヘラナデ	ミガキ	
SI004	第58図	11	甕	1	-	(6.8)	[1.7]	5%	褐色	黄褐色	密	ナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ	
SI004	第58図	10	甕	1	-	(7.0)	[2.0]	5%	褐色	赤褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ゛	
SI004	第58図	12	甑	1	-	-	[6.0]	10%	褐色	褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	
SI004	第58図	13	甑	1,6,8	-	-	[21.9]	30%	赤褐色	赤褐色	密	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	

第９表　古墳時代土製品・石製品計測表

遺　構	挿図番号	種　類	遺物番号	長さ（cm）	遺　物No.	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量（g）	備　考
SI001	第55図3	支　脚	024-6	20.2	—	—	[9.9]	—	[1385]	
SI002	第56図7	支　脚	4	14.9	—	—	12.9	—	800	完形
SI002	第56図8	土　錘	1	[3.5]	—	—	10.5	0.25	[2.8]	
SI004	第59図14	支　脚	5	[6.2]	[5.6]	—	[35.5]	—	[72.5]	
SI004	第59図15	土　錘	1	[4.4]	—	12.0	[2.7]	[1.9]	[17.6]	
SI004	第59図16	土　錘	1	[3.0]	—	12.0	[2.4]	[1.5]	[12.4]	
SI004	第59図17	土　錘	1	[3.8]	—	10.5			[10.7]	
SI004	第59図18	砥　石	9	9.8	3.5	3.4	—	—	144.6	
SI004	第59図19	砥　石	10	8.8	2.8	2.5	—	—	114.0	
SI004	第59図20	軽石製品	2	5.8	3.8	3.5	—	—	21.7	
SI004	第59図21	軽石製品	2	3.6	2.5	2.1	—	—	2.6	

第４節　中・近世

１　概要

調査区内を縦走する中近世の溝状遺構・道路状遺構５条及び土坑１基を検出した。溝状遺構・道路状遺構はいずれも北東から南西方向に走っている。なお、道路状遺構・溝状遺構の個々の遺構図については比較的詳細な調査を行った第１次（７）調査区域のみ示し、第２次（10）・第３次（11）調査区域については遺構位置図（第７図）を参照されたい。また、出土遺物については写真図版のみ示した。

２　溝状遺構

SD001（第７・60図、図版６・28）

第１次調査（７）区の最西端に位置する溝状遺構で、北側は住宅コンクリート基礎により攪乱されていた。走方向はN－34°－Eを指す。全長は検出箇所で約８ｍである。幅は北東部で約２ｍ、深さ80cmを測るが、南西端付近は幅約80cmと細くなる。覆土は締まりのあるローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土が主体である。

遺物は陶磁器片・瓦片等が出土した。図版28の36は管状の土錘である。

SD002（第７・60図、図版６・28）

西側に位置し、全長52ｍを確認した。幅は１ｍ前後で、深さは北東部は80cmとやや深いが、南西部にいくにつれて浅くなり50cmほどになる。走方向はN－34°－Eを指す。覆土は締まりのある暗褐色土を主体とするが、下層に硬化面があり道路として使用されたと考えられる。

遺物は陶器片・土製品が出土した。図示した２は管状の陶錘である。また、ハマグリ・アサリ・ハイガイの貝殻が少量出土している。

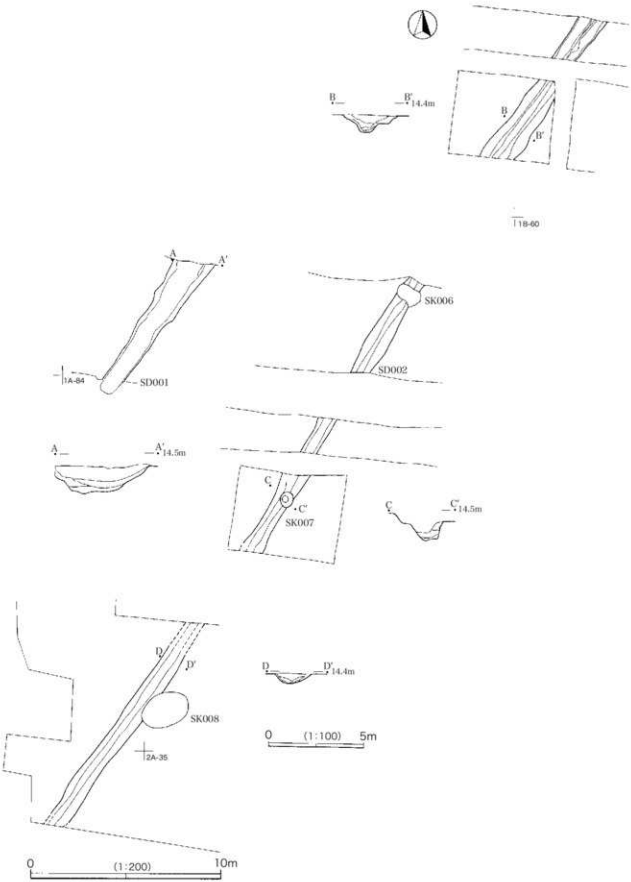
SD003・SD004・SD005（第７・61図、図版６・28）

調査区の東端に位置し、３条とも並走するように北東から南西方向に掘り込まれている。SD003は、第２次調査区（10）で掘り込みが認められなくなり、検出長は約82ｍ、幅１ｍ～1.2ｍで、深さ40cm～80cmを測る。走方向はN－24°－Eを指す。最下層に非常にしっかりとした硬化面が認められ、道として使用されたと考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土を主体とする。第１次調査区（７）北東部でSD004と重複するが、土層の状況からSD004が新しいことが明らかである。

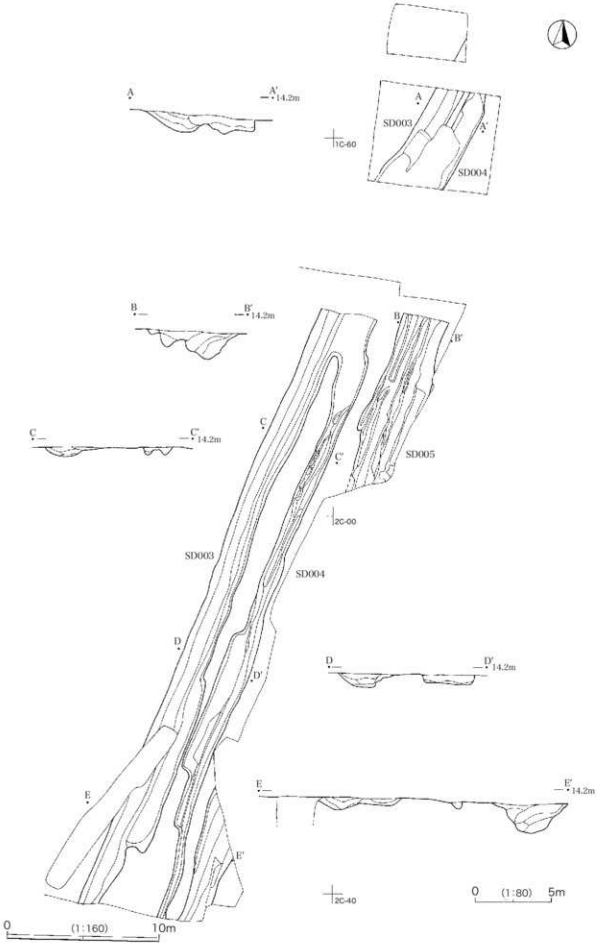
SD004は、検出長は140ｍほどで、断続的ながら全ての調査区から検出された。幅は北東部では1ｍであるが、南西部では40cmほどに減少する。深さも北東部では80cmほどあったものが、中央部では30cmほどになる。走方向はN－24°－Eを指すが、直線ではなく、2B-38グリッド付近でSD005に近接するように２ｍほど東側に振れ、3B-14グリッド付近で再び西側に戻る。覆土は暗褐色土が主体である。硬化した層は認められなかった。

SD005は検出長約84ｍで、幅は１ｍ～1.5ｍ、深さは約１ｍで、断面形はＶもしくはＵ字形を呈する。走方向はN－24°－Eを指す。中央付近は未検出であるが、前述したとおりこの部分はSD004が東側にずれており、SD004と合流している可能性もある。覆土はロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を主とし、埋め戻されたものと思われる。

遺物は、いずれの溝からも中近世の陶磁器片、瓦片、土製品が出土した。SD003からは瀬戸・美濃産陶器鍋（１）・擂鉢（２）、堺産擂鉢（３）、泥玉（46）、SD004からは瀬戸・美濃大窯期の丸皿（４）・擂鉢



第60図　SD001・SD002・SK007



第61図　SD003・SD004・SD005

（5）、肥前産陶器碗（6）、肥前産磁器染付碗（7）・染付瓶（8）、管状の土錘（38～40）を図版28に掲載した。SD005からは200点以上の遺物が出土している。主なものとして、瀬戸・美濃産陶器菊皿（9）・灯明皿（10・11）・徳利（12～14）・仏花瓶（15）、水注（16）・擂鉢（17・18）、肥前産磁器染付碗（19・20）・皿（21・22）・染付瓶（23）・白磁紅猪口（24）、焙烙（25～28）、管状の土錘（41～44）、陶錘（45）、土人形（53）、砥石（55）、火打石（56・57）、瓦（61～65）、寛永通宝の銅一文銭（58）を図版28に掲載した。また、貝殻はSD003からはアサリ、SD004からはアカニシ、SD005からはアサリ、サルボオ、ウミニナ類、バイガイ、マガキが出土した。

3　土坑

SK007（第60図、図版４）

1A-96グリッドに位置する。遺構上部の大半をSD002に切られ、遺構の遺存状況はよくない。長径0.77m、短径0.71mの三角形を基調とする不整円形である。深さは少なくとも70cmはあり、底面は比較的平坦である。底面から逆「ハ」の字状に開きやや深みのある擂鉢状になる。覆土は最上・中層は黒褐色土で中層以下はロームブロックを多く含み、下層はロームブロックが主体である。出土遺物はなかった。

4　遺構外出土遺物（図版28）

遺構外出土遺物のうち、主なものを掲載した。29・30・32は瀬戸・美濃産陶器である。29は摺絵香炉、32は擂鉢である。31は肥前産陶器鍋、33は志戸呂産陶器灯明皿である。34は肥前産磁器染付碗、35は瀬戸・美濃産磁器染付水注である。47は泥玉、48～52は円盤形の泥面子（面打）、54は面形の泥面子（芥子面）、59は寛永通宝の銅一文銭である。

第10表　中・近世陶磁器・土器計測表

遺　構	図版番号	遺物番号	生産地	種別	名称	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	年　代	備　考
SD003	図版28-1	(10)1	瀬戸・美濃	陶器	鍋		8.4		19C	
SD003	図版28-2	(10)1	瀬戸・美濃	陶器	擂鉢				18C	
SD003	図版28-3	(10)1	堺	陶器	擂鉢				18～19C	
SD004	図版28-4	(7)10	瀬戸・美濃	陶器	丸皿		5.3		16C後半	大窯期
SD004	図版28-5	(7)14	瀬戸・美濃	陶器	擂鉢				16C後半	大窯期
SD004	図版28-6	(7)9	肥前	陶器	碗	11.6			18C	
SD004	図版28-7	(7)7	肥前	磁器	染付碗		4.0		17～18C	
SD004	図版28-8	(7)24	肥前	磁器	染付瓶				18C	
SD005	図版28-9	(7)215	瀬戸・美濃	陶器	菊皿		7.6		17C	
SD005	図版28-10	(7)247	瀬戸・美濃	陶器	灯明皿	7.0	3.2		19C	
SD005	図版28-11	(7)105	瀬戸・美濃	陶器	灯明皿	8.1			19C	
SD005	図版28-12	(7)255	瀬戸・美濃	陶器	徳利	3.0			19C	
SD005	図版28-13	(7)333	瀬戸・美濃	陶器	徳利	3.2			19C	
SD005	図版28-14	5	瀬戸・美濃	陶器	徳利		6.7		19C	
SD005	図版28-15	6	瀬戸・美濃	陶器	仏花瓶	9.0			18C	
SD005	図版28-16	7	瀬戸・美濃	陶器	水注	4.8			18C	
SD005	図版28-17	8	瀬戸・美濃	陶器	擂鉢				17C	
SD005	図版28-18	9	瀬戸・美濃	陶器	擂鉢				17C	
SD005	図版28-19	(7)246	肥前	磁器	染付碗	10.0			17C	
SD005	図版28-20	(7)259	肥前	磁器	染付碗		3.9		17～18C	
SD005	図版28-21	(10)2	肥前	磁器	染付皿				18C	
SD005	図版28-22	(10)2	肥前	磁器	染付皿				18C	
SD005	図版28-23	(7)127	肥前	磁器	染付瓶		4.6		18C	
SD005	図版28-24	(10)2	肥前	磁器	白磁紅猪口	6.2	2.2	3.1	18C	
SD005	図版28-25	(7)154	在地	土器	焙烙				18C	
SD005	図版28-26	(7)247	在地	土器	焙烙				18C	
SD005	図版28-27	(7)101	在地	土器	焙烙				19C	
SD005	図版28-28	(10)2	在地	土器	焙烙				19C	
(10) T-2	図版28-29	1	瀬戸・美濃	陶器	朋輪香炉				18C	
1A-84	図版28-30	1	瀬戸・美濃	陶器	香炉				18C	
(10) T-2	図版28-31	1	肥前	磁器	片口	13.0			19C	
(11) T-7	図版28-32	1	瀬戸・美濃	陶器	擂鉢				18C	
(11) T-7	図版28-33	1	志戸呂	陶器	灯明皿		5.4		18C	
(10) T-2	図版28-34	1	肥前	磁器	染付碗				18C	裏銘「大明年製」
(11) T-7	図版28-35	1	瀬戸・美濃	磁器	染付水注	11.0			19C	

第11表　中・近世土製品・石製品・銭貨・瓦計測表

遺　構	図版番号	種　類	遺物番号	長さ (cm)	遺物幅	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	備　考
SD001	図版28-36	土錘	22	3.85	—	—	1.35	0.55	4.94	
SD002	図版28-37	陶錘	3	4.25	—	—	2.25	1.20	19.34	完形
SD004	図版28-38	土錘	2	4.00	—	—	0.85	0.30	1.93	
SD004	図版28-39	土錘	12	3.80	—	—	0.85	0.25	1.87	
SD004	図版28-40	土錘	98	3.95	3.10	0.80	—	—	12.00	
SD005	図版28-41	土錘	103	2.75	—	—	0.75	0.20	1.27	
SD005	図版28-42	土錘	189	2.55	—	—	0.65	0.15	0.92	
SD005	図版28-43	土錘	61	3.60	—	—	2.90	1.10	14.41	
SD005	図版28-44	土錘	1	2.00	—	—	2.75	1.00	11.33	
SD005	図版28-45	陶錘	104	3.55	2.60	1.00	—	—	11.53	
SD003	図版28-46	泥玉	2	2.10	1.90	—	—	—	6.82	完形
(11)T-28	図版28-47	泥玉	1	1.80	1.60	—	—	—	4.10	完形
(11)T-7	図版28-48	泥面子	1	1.65	1.60	0.70	—	—	2.10	面打，完形
(11)T-30	図版28-49	5	1	2.30	2.20	0.90	—	—	5.43	面打，完形
(11)T-7	図版28-50	6	1	2.30	2.30	0.70	—	—	5.22	面打，完形
(11)T-30	図版28-51	7	1	2.40	2.10	0.85	—	—	5.63	面打
SK010	図版28-52	8	1	2.50	2.40	1.00	—	—	6.50	面打，完形
SD005	図版28-53	9	1,279	4.70	3.10	1.35	—	—	8.71	
(11)T-29	図版28-54	泥面子	1	2.50	2.00	0.80	—	—	4.24	斧子面，完形
SD005	図版28-55	砥石	198	3.20	3.10	1.30	—	—	19.04	凝灰岩製，鉄分付着
SD005	図版28-56	火打石	9	2.70	2.10	2.10	—	—	14.39	玉髄製
SD005	図版28-57	火打石	40	2.80	1.70	1.80	—	—	10.86	玉髄製
SD005	図版28-58	寛永通宝	187	2.50	2.45	0.15	—	—	3.05	銅一文銭
(11)T-25	図版28-59	寛永通宝	2	2.40	2.40	0.15	—	—	3.96	銅一文銭
(10)表採	図版28-60	軒丸瓦		7.00	3.30	2.15	—	—	—	江戸式，18世紀前半
SD005	図版28-61	軒平瓦	90	6.00	4.00	2.55	—	—	—	
SD005	図版28-62	丸瓦	238	7.10	4.50	2.50	—	—	—	
SD005	図版28-63	平瓦	131	6.10	5.50	1.80	—	—	—	
SD005	図版28-64	平瓦	297	6.55	4.70	1.95	—	—	—	
SD005	図版28-65	丸瓦	96	7.35	5.50	1.20	—	—	—	

第３章　まとめ

第１節　旧石器時代

今回の発掘調査により、計４か所のブロックが検出された。これらについては出土層位、接合関係により２つの文化層に区分することができる。

以下に各文化層の特徴を明記してまとめとしたい。

第１文化層（Ⅸａ層）：第１ブロック

縦長剥片を素材としたナイフ形石器を石器組成に含む。剥片剥離技術については不明である。

第２文化層（Ⅲ層上部）：第２～４ブロック

縦長もしくは不定形剥片を素材としたナイフ形石器を石器組成に含む。剥片剥離技術は石刃状縦長剥片を作出する技術と、縦長剥片作出を意図した技術の両者が混在する。

使用される石材は安山岩、玉髄であり、黒曜石は全く使用されていないことも特徴的である。各ブロックは出土層序に若干の上下差があるが、第２→第３ブロック、第２→第４ブロック間で接合関係が認められたため、同一の文化層として括った。

なお、船橋市教育委員会による第４次調査にて、安山岩製のナイフ形石器１点の出土が報告されている[1)]。出土層位は不明であるが、掘削深度がⅢ層上面に達していること、不定形剥片を素材とし、調整は部分的に施される点などから第２文化層に比定されよう。

注

１）船橋市教育委員会　1999　「飛ノ台貝塚第４次発掘調査報告書」

第２節　縄文時代

１　飛ノ台貝塚の広がり

今回の発掘調査により、西側に隣接する海神中学校及びさらにその西側住宅地に広がると把握されていた縄文早期遺跡としての飛ノ台貝塚の範囲がさらに東側にのびることが明らかとなった[1)]。今回の調査は県営住宅の建て替えに伴う調査であり、建物の基礎コンクリートが広く残り調査可能範囲が限定されたため、検出できなかった遺構もあった可能性が高い。それでもあえて早期遺構の分布について触れるならば、検出された炉穴22群45基は、海神中学校のグラウンド側から弧状に張り出すような分布を見せており、調査対象区域の北東側と南東側には当該期の遺構が認められないようである。このことが事実とすれば、今回の調査による遺構分布範囲が早期遺跡としての東限を示すことになろう。西限については船橋市教育委員会による第４次調査でほぼ明らかになっており[2)]、両者を勘案すると東西の広がりは約400mとなる。南北の広がりについては、南限は小支谷の崖端部までであることは明らかであるが、北限についてはほとんど不明である。海神中学校の北側は市道北本町・印内線を挟んで早くから日本建鐵株式会社の敷地となっており調査や踏査が不能であったことが主な理由であろう。飛ノ台貝塚の第１次調査[3)]においては学校用地の北端まで炉穴群が検出されており、そのことから考えれば、早期遺構群の一部は北本町・印内線を越えて日本建鐵の用地まで及んでいる可能性もある。おそらく南北幅は100mを越えるのであろう。したがって、飛ノ台貝塚の面積は約40,000㎡となり、早期の遺跡としては屈指の規模を誇ることが改めて認

識されるのである。

2　炉穴について

今回の調査で炉穴は22群45基が検出された。このうち、出土土器による時期決定が可能なのは焼土上から野島式がまとまって出土したSK020Bのみである。覆土中から文様を持つ土器がわずかに出土した炉穴は以下のとおりである。

野島式　　SK010、SK015、SK013、SK017、SK018、SK020、SK025

鵜ガ島台式　SK011

他の炉穴は条痕のみが施された土器しか出土しなかったか、まったく土器が出土しなかった。したがって、これらの炉穴の時期比定はほとんど困難であるが、これまでの本貝塚の調査事例から見て大部分は野島式から鵜ガ島台式の時期のものと考えてよいであろう。それも炉穴出土の土器に野島式が多いことから当該期のものが主体を占めると思われる。

炉穴の形態は大部分が長楕円形で片側先端寄りに炉床を設ける典型的なものであるが、円形プランの炉穴が４基（SK020A、SK021、SK022、SK029）発見された。しかし、４基とも炉床はプランの中心ではなく偏って設けられており、上記典型例の亜種とでもいうべきものであろう。事実、SK020Aは野島式期が確実であるSK020Bより古いことが土層断面から確認されている。なお、煙道付きの炉穴が１基(SK015)発見された。大きさは他の炉穴と変わらないが、深さが0.68mあり深い。SK011も炉床側の平面プランがくびれており、本来煙道付きであったのが崩落したものと推測された。やはり深さが0.68mと深い。

SK020B炉床の焼土上から略完形に復元された土器がまとまって出土した。第１次調査で提唱された「飛ノ台パターン」と呼ばれる炉穴における特異な土器廃棄パターンである[4]。略完形ないしは大型破片が焼土の直上またはわずかに浮いた状態で出土し、また、たとえ焼土にまみれた状態であっても火熱による二次的変化を受けていないことから、炉穴の機能停止直後焼土上に意図的に廃棄されたと考えられる土器廃棄パターンである。県内に類例を求めると焼土上から略完形土器が出土する例として、佐倉市タルカ作遺跡第９号炉穴Ｃ・第29号炉穴[5]、八千代市間見穴遺跡SK040D[6]、同市上谷遺跡Ｆ220・Ｆ284[7]、印西市（旧本埜村）瀧水寺裏遺跡35号炉穴・44号炉穴[8]、旭市（旧干潟町）桜井平遺跡517号跡Ｃ・615号跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ[9]の諸例が確認できた。飛ノ台パターンの解釈については、炉穴は煮沸によるドングリ類のアク抜きに使用されたもので、焼土上に土器を廃棄（置く）する行為は火への感謝であるとする意見がある[10]。

3　包含層出土土器について

包含層中からは撚糸文土器、押型文土器、沈線文土器が出土した。撚糸文土器は夏島式及び稲荷台式で、押型文土器は山形押型文のみで帯状施文を含む古手の押型文である。また、沈線文土器は三戸式ないしは田戸下層式で、これらはいずれも飛ノ台貝塚ではこれまで出土が確認されていないようである。出土位置は4A-45グリッドを中心として直径10m程度の範囲から出土しており、南寄りの小谷に近い位置で、茅山式系土器との立地のずれを指摘しておきたい。なお、第１次調査では一般に押型文土器に伴うトロトロ石器が出土しその年代的位置が疑問であったが、今回の押型文土器の出土により、問題は氷解した。

注

1）飛ノ台貝塚の調査史については、下記文献にまとめられている。

佐藤武雄・白井太郎2004「飛ノ台貝塚を見直す１　飛ノ台貝塚調査・研究史」飛ノ台貝塚史跡公園博物館紀要１

2）船橋市教育委員会1999「飛ノ台貝塚第４次発掘調査報告書」

3）飛ノ台貝塚発掘調査団1978「飛ノ台貝塚発掘調査概報」

4）注３に同じ

5）(財）千葉県文化財センター1985「佐倉市タルカ作遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－」

6）(財）千葉県文化財センター2005「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書４－八千代市間見穴遺跡（２）　－」

7）八千代市遺跡調査会2004「千葉県八千代市上谷遺跡　（仮称）八千代カルチャータウン開発事業埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－第４分冊－」

8）(財）印旛郡市文化財センター2004「千葉県本埜村瀧水寺裏遺跡－本埜村道改良工事に伴う埋蔵文化財調査－」

9）(財）千葉県文化財センター1998「干潟工業団地埋蔵文化財調査報告書－干潟町諏訪山遺跡・十二瓶遺跡・茄子台遺跡・桜井平遺跡－」

10）西川博孝「船橋市史　原始・古代・中世編第二章第二節五条痕土器の時代」

第３節　古墳時代

１　竪穴住居跡と出土土器の様相

調査区南側において古墳時代後期、鬼高式期の４軒の竪穴住居跡が検出された。いずれの住居跡も建物基礎の撹乱により、全貌を明らかにすることは出来なかったが、該期の集落はこれまで確認されていた海神中学校敷地よりさらに東側へ広がっていることと立地的に台地縁辺付近に分布していることが明らかとなった。

住居跡の形態は正方形を基本とし、一辺の規模によりSI001・SI002の７m弱、SI003の６m、SI004の５m強におよそ３分類できる。主軸方位はいずれもほぼ等高線に沿うように北西を向き、カマドは北西壁に位置する。付随する施設としては、最も小規模なSI003のみ他の３軒と異なり、周溝が設けられず、カマド右脇に貯蔵穴、梯子ピットが設けられている。

次に各住居跡とも出土量が少ないが土器の様相をみていくと、SI001では、須恵器杯身模倣の土師器杯（第55図）は口縁部高が約1.5cmで、比較的シャープな作りで、TK10型式の須恵器杯身を模倣したとみられるものである。SI002からは、漆による黒色処理が施される扁平な須恵器杯身模倣の大・小の土師器杯（第56図１・２）、口縁部が短く直立する土師器杯（第56図３）、「常総型」甑（第56図６）などが出土しており、下総地域におけるTK43～TK209型式並行期（６世紀後葉から７世紀前葉）の典型的な土器様相を示している。SI003・SI004からは埼玉県北部・群馬県平野部に主体的に分布がみられる有段口縁の土師器杯（第57図１、第58図１・２）、口縁部が肥厚し端部内面に段を有する杯（第58図３・４）が出土している[1]。その他の土師器高杯・甕・甑は在地系のものである。SI003から出土した須恵器杯身模倣の土師器杯（第57図３）は、小片であるが、SI002出土のものとほぼ同時期と捉えられるものである。

以上の土器様相からおおまかにではあるが、竪穴住居跡は１期のSI001、２期のSI002・003・004の２

時期に区分することができる。１期は得られた資料が断片的であるため各器種の様相は不明瞭である。２期は、関東各地の土師器の地域色が明瞭に出現する時期に該当する[2)]。本遺跡及び周辺遺跡においては、在地系の土器の他に、常総型甕・甑、北武蔵系の杯など多系統の土器が混在する状況がみられ、地域間の交流があったことを示している。

注

１）田中広明　1995「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向－群馬･埼玉県を中心として－」『東国土器研究』第４号　東国土器研究会

２）長谷川厚　1991「２土師器の編年７関東」『古墳時代の研究』第６巻　雄山閣

写　真　図　版

飛ノ台貝塚周辺航空写真

図版2

調査区近景

旧石器時代調査区空中写真

第２・３ブロック遺物出土状況

第２ブロック遺物出土状況

第４ブロック遺物出土状況

図版4

（左）SK006
（右）SK007

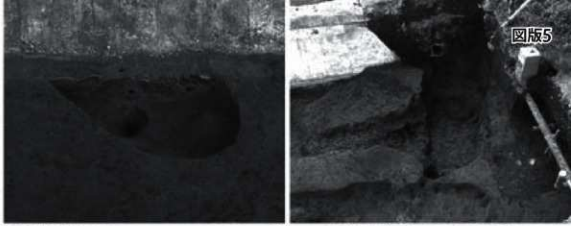
（左）SK008
（右）SK009

（左）SK009
（右）SK010

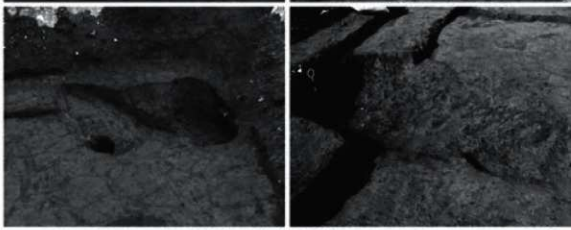
（左）SK011
（右）SK012

（左）SK013・SK014
（右）SK015

図版5

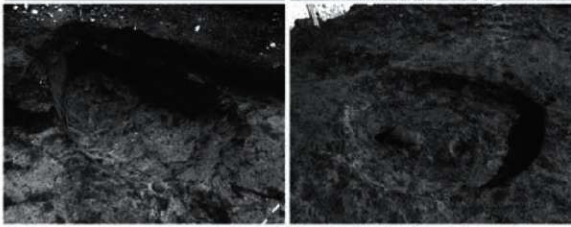


(左) SK016
(右) SK017



(左) SK018
(右) SK019

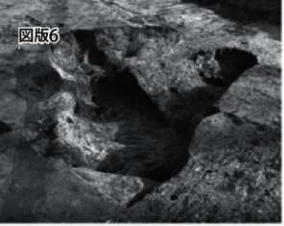
SK020



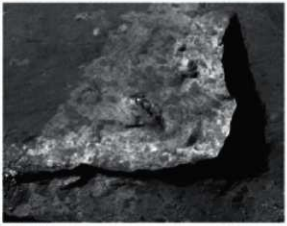
(左) SK021
(右) SK022

(左) SK023
(右) SK025

図版6

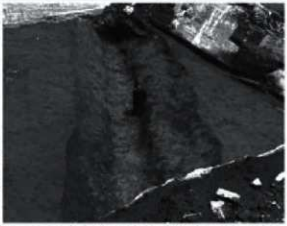


（左）SK026
（右）SK027



（左）SK028
（右）SK029

（左）SK030
（右）SK031



（左）SD001
（右）SD002

SD003
SD004
SD005

SI001

SI001カマド

SI001

SI002

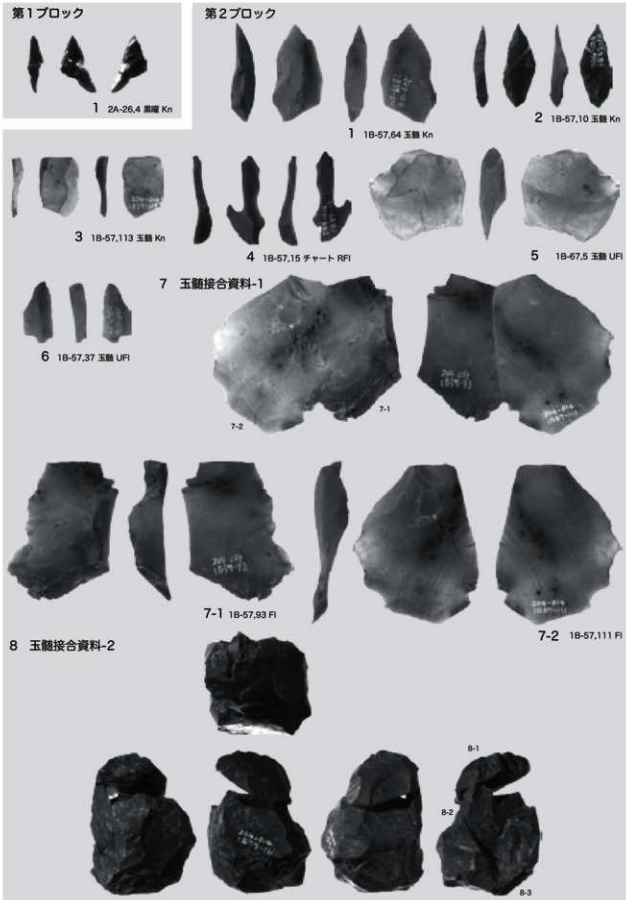
SI002遺物出土状況

図版8

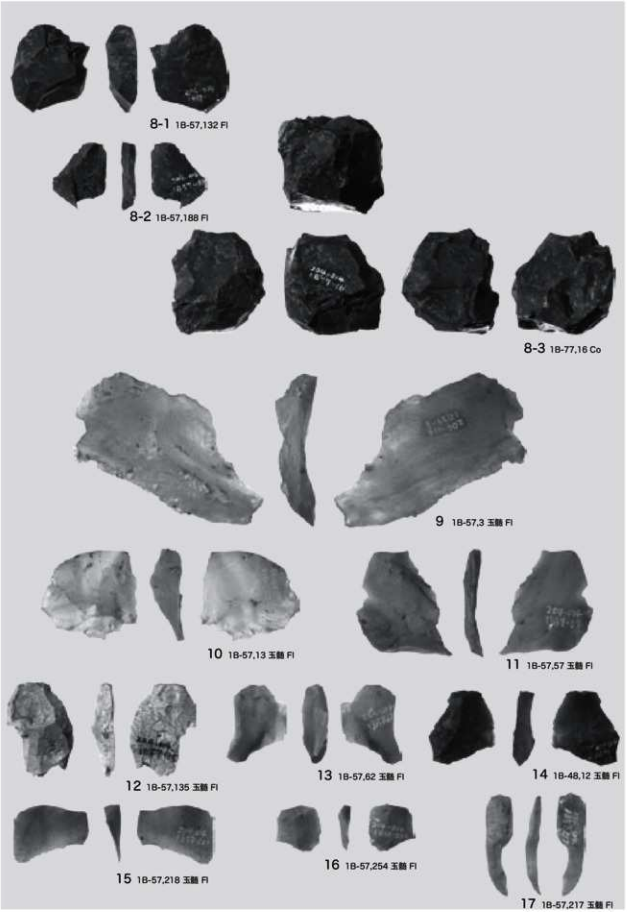
SI002

SI003

SI004


第1ブロック
1 2A-26,4 黒曜 Kn
第2ブロック
1 1B-57,64 玉髄 Kn
2 1B-57,10 玉髄 Kn
3 1B-57,113 玉髄 Kn
4 1B-57,15 チャート RFI
5 1B-67,5 玉髄 UFI
6 1B-57,37 玉髄 UFI
7 玉髄接合資料-1
7-1
7-2
7-1 1B-57,93 FI
7-2 1B-57,111 FI
8 玉髄接合資料-2
8-1
8-2
8-3

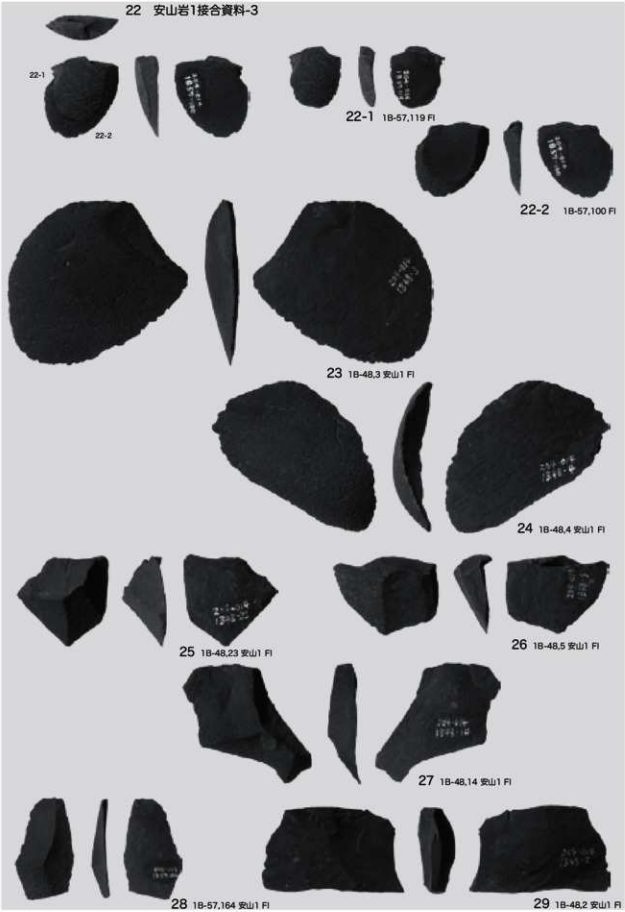
旧石器時代石器（1）


8-1 1B-57,132 Fl
8-2 1B-57,188 Fl
8-3 1B-77,16 Co
9 1B-57,3 玉髄 Fl
10 1B-57,13 玉髄 Fl
11 1B-57,57 玉髄 Fl
12 1B-57,135 玉髄 Fl
13 1B-57,62 玉髄 Fl
14 1B-48,12 玉髄 Fl
15 1B-57,218 玉髄 Fl
16 1B-57,254 玉髄 Fl
17 1B-57,217 玉髄 Fl

旧石器時代石器（2）

18 1B-57,161 玉髄 Fl
19 1B-57,43 玉髄 Fl
20 安山岩1接合資料-1
20-1
20-2
20-1 1B-48,16 Fl
20-2 1B-47,7 Fl
21 安山岩1接合資料-2
21-1
21-2
21-3
21-1 1B-48,33 Fl
21-2 1B-58,10 Fl
21-3 1B-58,7 Co

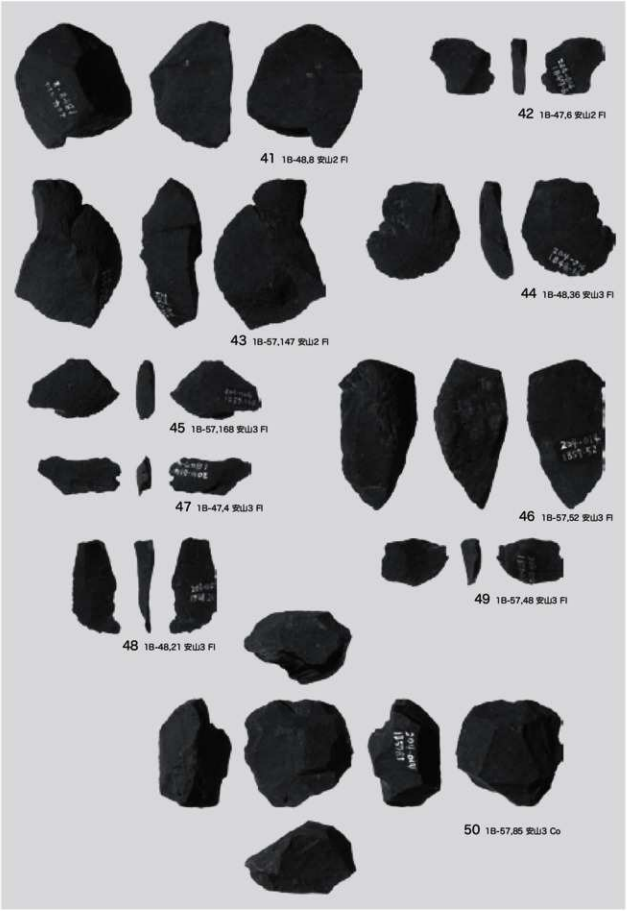
旧石器時代石器（3）


22 安山岩1接合資料-3
22-1
22-2
22-1 1B-57,119 FI
22-2 1B-57,100 FI
23 1B-48,3 安山1 FI
24 1B-48,4 安山1 FI
25 1B-48,23 安山1 FI
26 1B-48,5 安山1 FI
27 1B-48,14 安山1 FI
28 1B-57,164 安山1 FI
29 1B-48,2 安山1 FI

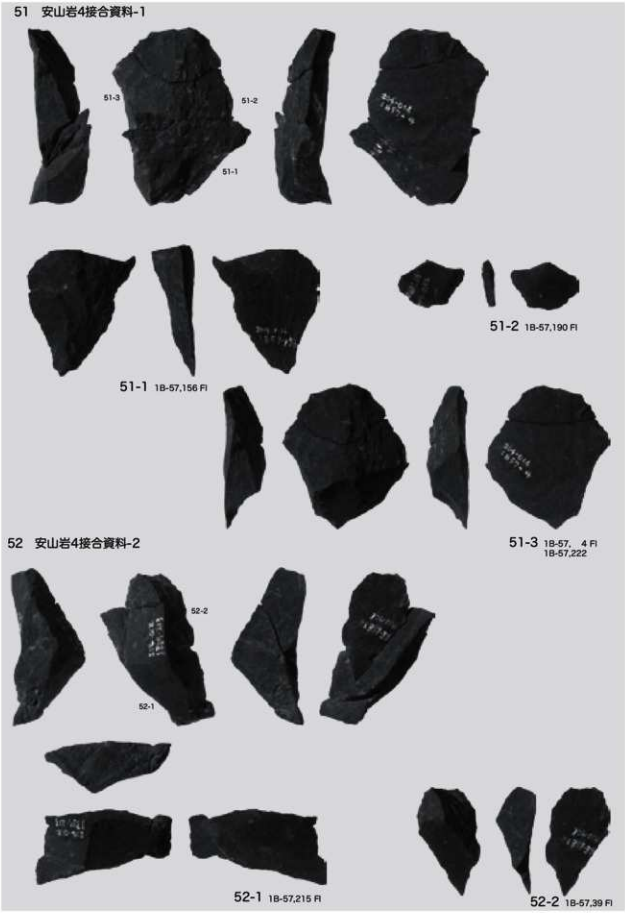
旧石器時代石器（4）

30 1B-48,6 安山1 Fl
31 1B-48,31 安山1 Fl
32 1B-56,3 安山1 Fl
33 1B-57,17 安山1 Fl
34 1B-57,12 安山1 Fl
35 安山岩2接合資料
35-1
35-2
35-1 1B-57,28 Fl
35-2 1B-57,187 Co
36 1B-57,151 安山2 Fl
37 1B-57,200 安山2 Fl
38 1B-57,74 安山2 Fl
39 1B-57,264 安山2 Fl
40 1B-57,244 安山2 Fl

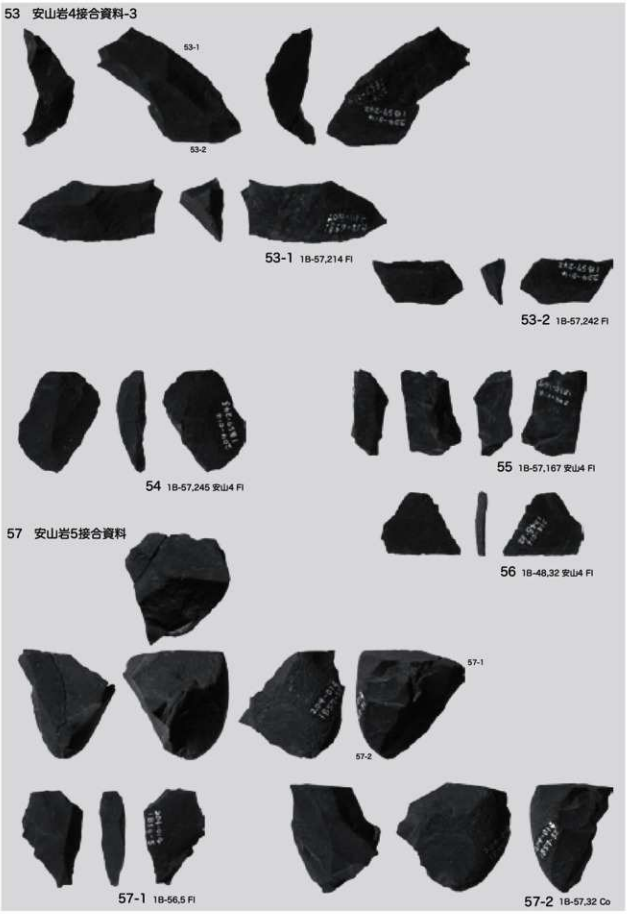
旧石器時代石器（5）


41 1B-48,8 安山2 Fl
42 1B-47,6 安山2 Fl
43 1B-57,147 安山2 Fl
44 1B-48,36 安山3 Fl
45 1B-57,168 安山3 Fl
46 1B-57,52 安山3 Fl
47 1B-47,4 安山3 Fl
48 1B-48,21 安山3 Fl
49 1B-57,48 安山3 Fl
50 1B-57,85 安山3 Co

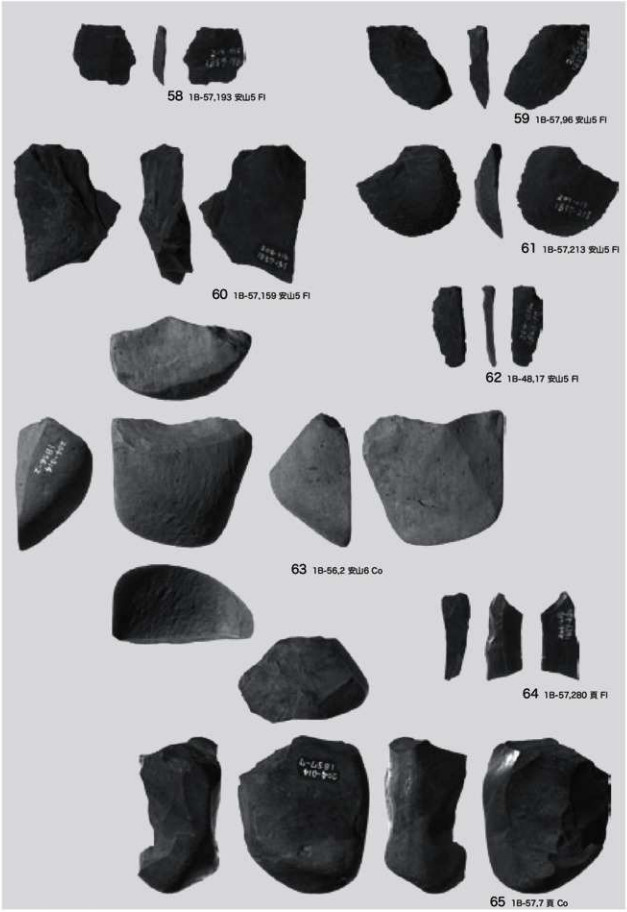
旧石器時代石器（6）


51 安山岩4接合資料-1
51-3
51-2
51-1
51-2 1B-57,190 Fl
51-1 1B-57,156 Fl
51-3 1B-57, 4 Fl
1B-57,222
52 安山岩4接合資料-2
52-2
52-1
52-1 1B-57,215 Fl
52-2 1B-57,39 Fl

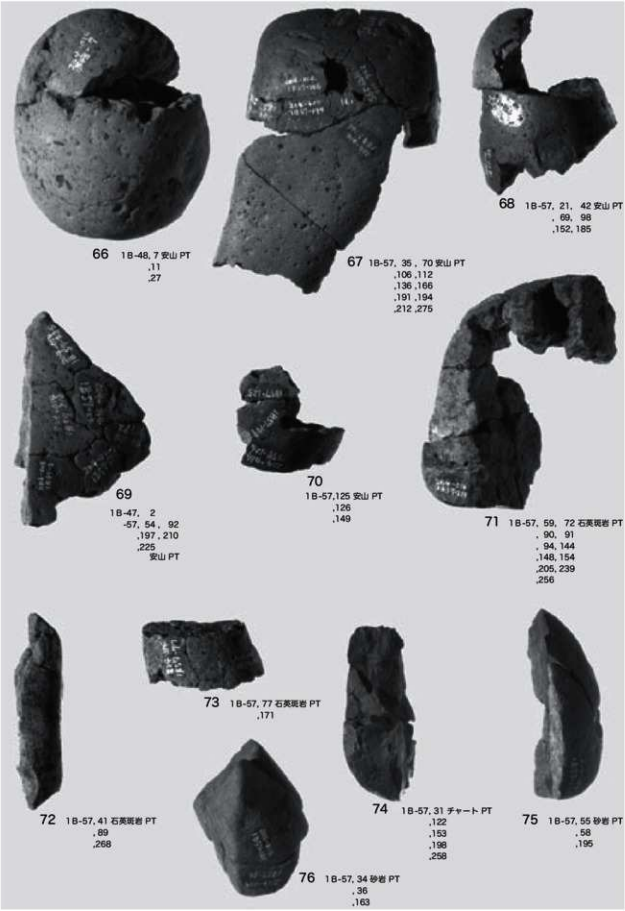
旧石器時代石器（7）


53 安山岩4接合資料-3
53-1
53-2
53-1 1B-57,214 Fl
53-2 1B-57,242 Fl
54 1B-57,245 安山4 Fl
55 1B-57,167 安山4 Fl
56 1B-48,32 安山4 Fl
57 安山岩5接合資料
57-1
57-2
57-1 1B-56,5 Fl
57-2 1B-57,32 Co

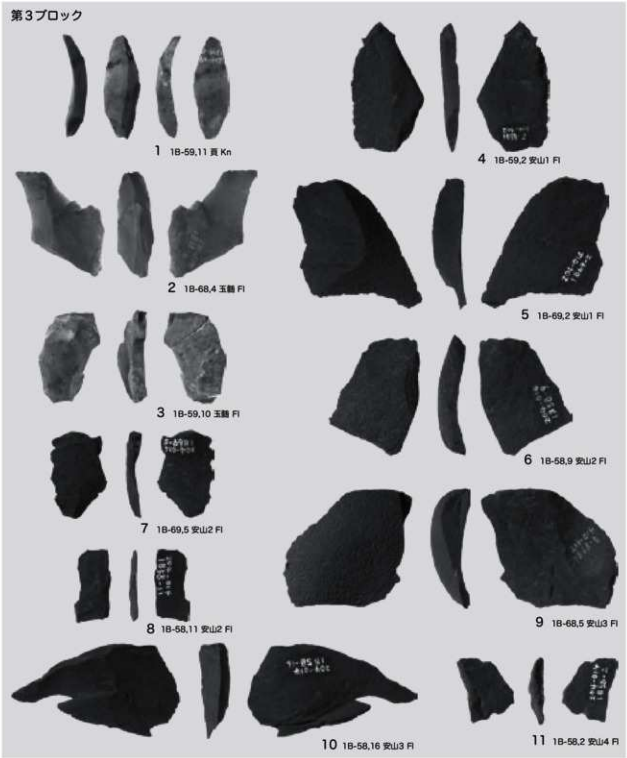
旧石器時代石器（8）


58 1B-57,193 安山5 Fl
59 1B-57,96 安山5 Fl
60 1B-57,159 安山5 Fl
61 1B-57,213 安山5 Fl
62 1B-48,17 安山5 Fl
63 1B-56,2 安山6 Co
64 1B-57,280 頁 Fl
65 1B-57,7 頁 Co

旧石器時代石器（9）

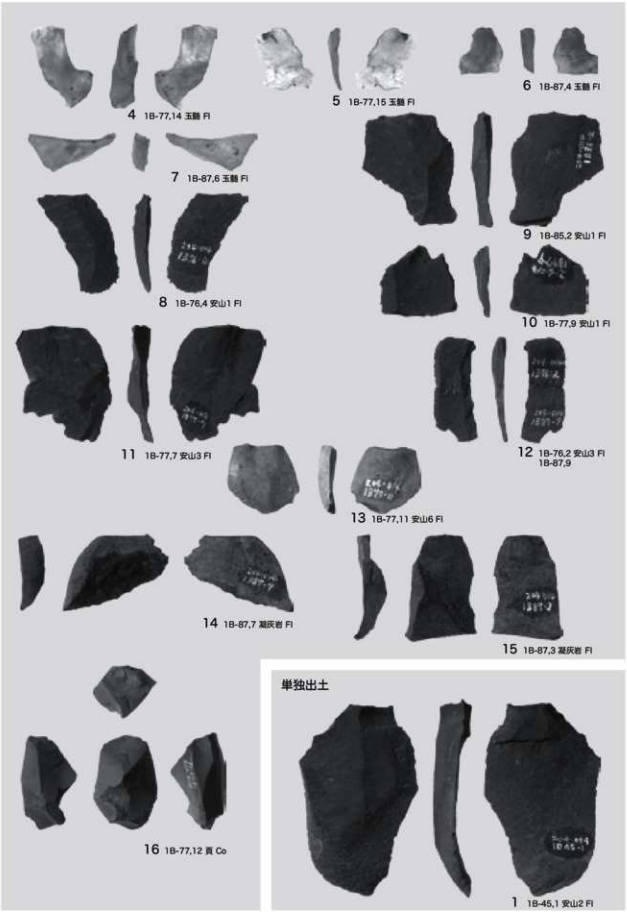

66 1B-48, 7 安山 PT
,11
,27
67 1B-57, 35 , 70 安山 PT
,106 ,112
,136 ,166
,191 ,194
,212 ,275
68 1B-57, 21, 42 安山 PT
, 69, 98
,152, 185
69
1B-47, 2
-57, 54 , 92
,197 , 210
,225
安山 PT
70
1B-57,125 安山 PT
,126
,149
71 1B-57, 59, 72 石英斑岩 PT
, 90, 91
, 94, 144
,148, 154
,205, 239
,256
72 1B-57, 41 石英斑岩 PT
, 89
,268
73 1B-57, 77 石英斑岩 PT
,171
74 1B-57, 31 チャート PT
,122
,153
,198
,258
75 1B-57, 55 砂岩 PT
, 58
,195
76 1B-57, 34 砂岩 PT
, 36
,163

旧石器時代石器（10）

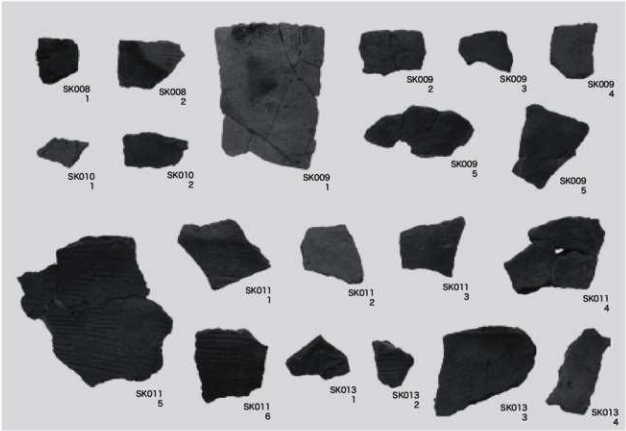

第3ブロック
1 1B-59,11 頁 Kn
4 1B-59,2 安山1 Fl
2 1B-68,4 玉髄 Fl
5 1B-69,2 安山1 Fl
3 1B-59,10 玉髄 Fl
6 1B-58,9 安山2 Fl
7 1B-69,5 安山2 Fl
8 1B-58,11 安山2 Fl
9 1B-68,5 安山3 Fl
10 1B-58,16 安山3 Fl
11 1B-58,2 安山4 Fl

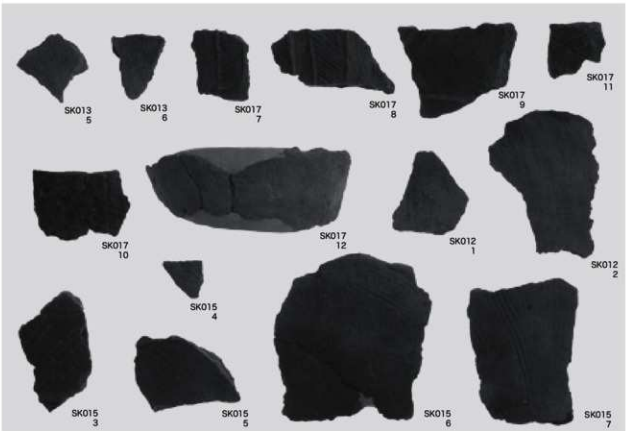
第4ブロック
1 1B-77,8 玉髄 Kn
2 1B-77,2 玉髄 Fl
3 1B-77,13 玉髄 Fl

旧石器時代石器（11）

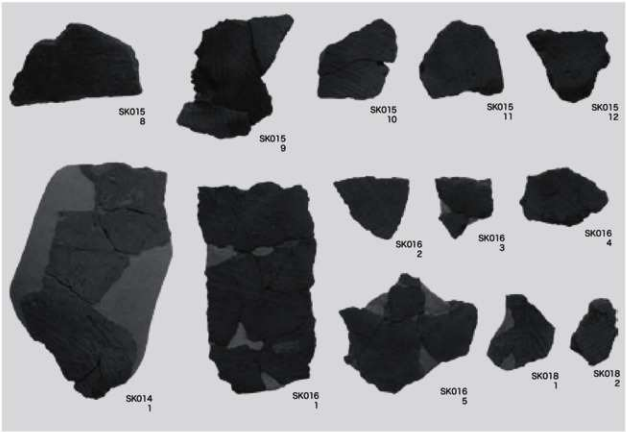

4 1B-77,14 玉髄 Fl
5 1B-77,15 玉髄 Fl
6 1B-87,4 玉髄 Fl
7 1B-87,6 玉髄 Fl
8 1B-76,4 安山1 Fl
9 1B-85,2 安山1 Fl
10 1B-77,9 安山1 Fl
11 1B-77,7 安山3 Fl
12 1B-76,2 安山3 Fl
1B-87,9
13 1B-77,11 安山6 Fl
14 1B-87,7 凝灰岩 Fl
15 1B-87,3 凝灰岩 Fl
16 1B-77,12 頁 Co
単独出土
1 1B-45,1 安山2 Fl

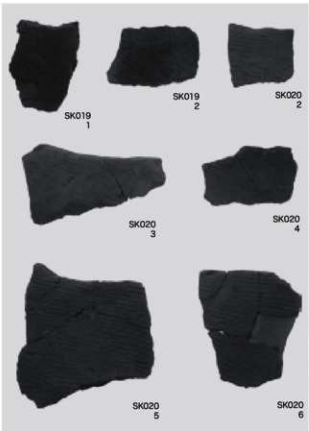
旧石器時代石器（12）


SK008 1
SK008 2
SK009 1
SK009 2
SK009 3
SK009 4
SK009 5
SK009 5
SK010 1
SK010 2
SK011 1
SK011 2
SK011 3
SK011 4
SK011 5
SK011 6
SK013 1
SK013 2
SK013 3
SK013 4


SK013 5
SK013 6
SK017 7
SK017 8
SK017 9
SK017 11
SK017 10
SK017 12
SK012 1
SK012 2
SK015 4
SK015 3
SK015 5
SK015 6
SK015 7

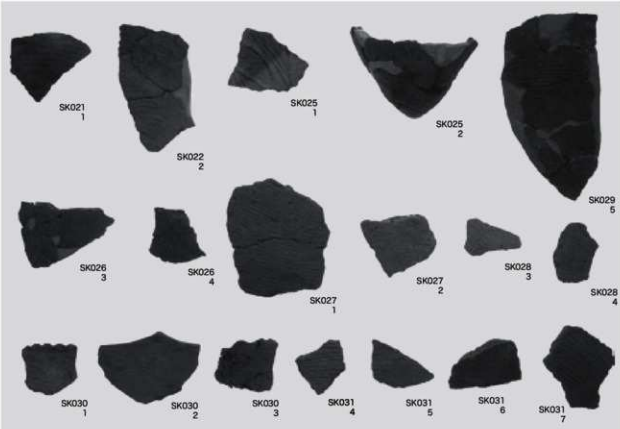
遺構出土縄文土器（1）


SK015
8
SK015
9
SK015
10
SK015
11
SK015
12
SK014
1
SK016
1
SK016
2
SK016
3
SK016
4
SK016
5
SK018
1
SK018
2

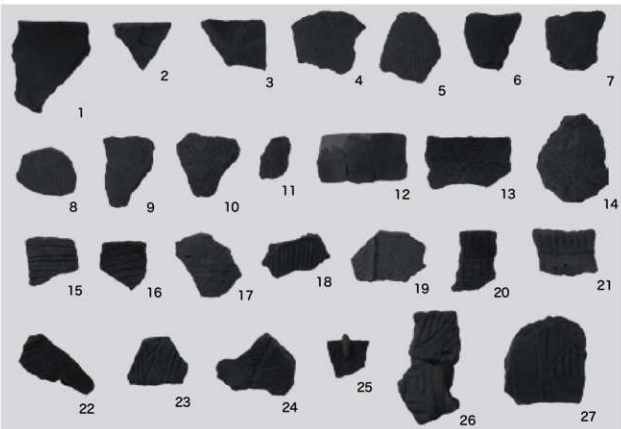

SK019
1
SK019
2
SK020
2
SK020
3
SK020
4
SK020
5
SK020
6

SK020
1

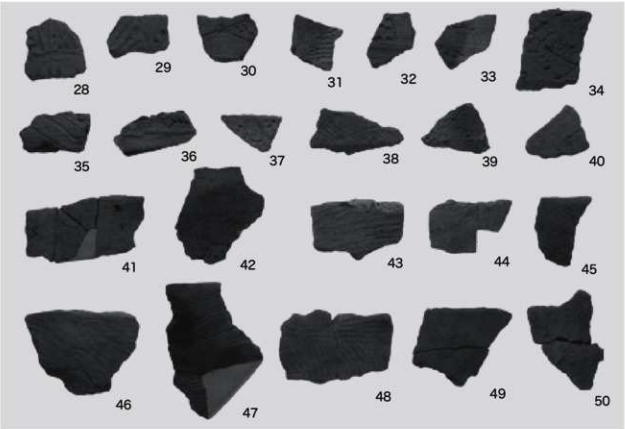
遺構出土縄文土器（2）

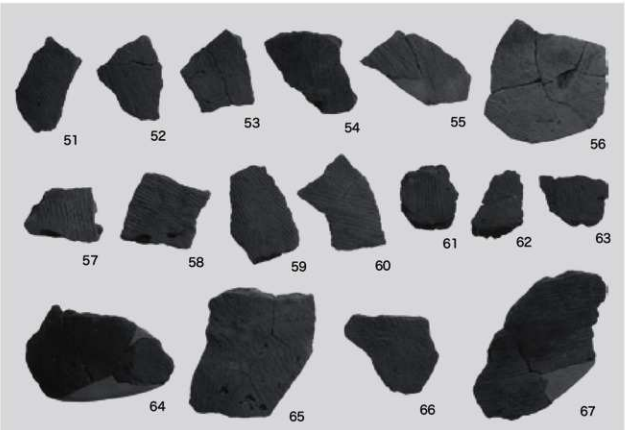


遺構出土縄文土器（3）

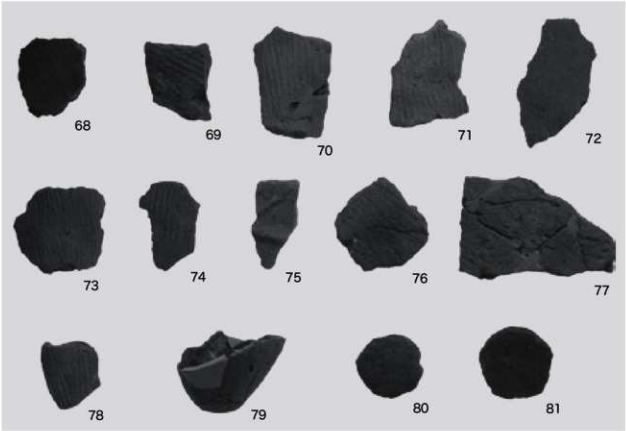


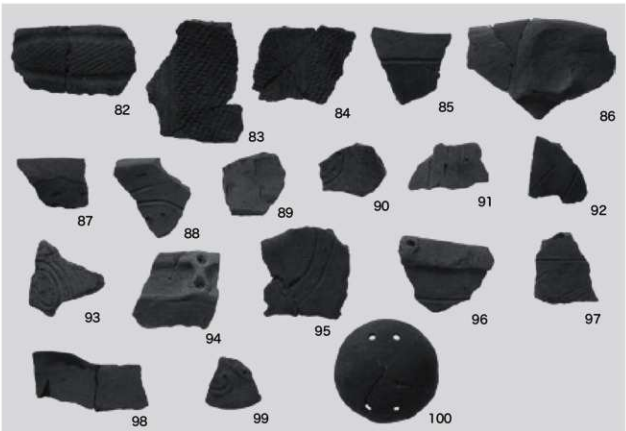
遺構外出土縄文土器（1）


28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

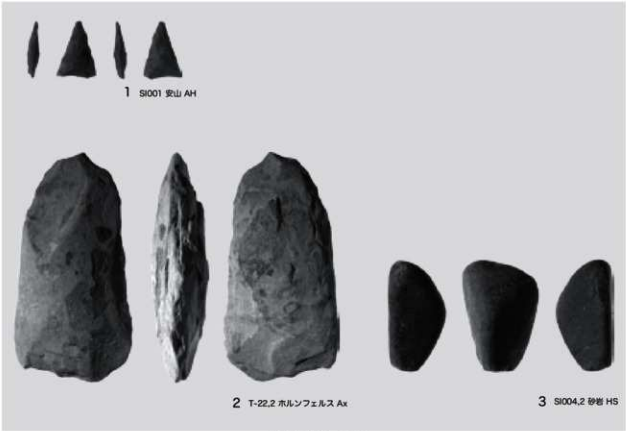

51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67

遺構外出土縄文土器（2）


68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81

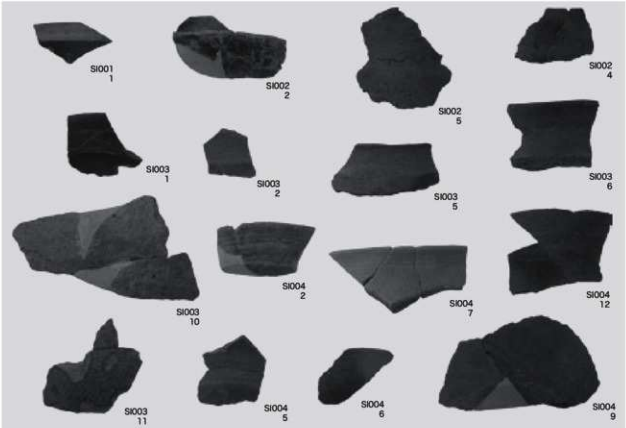

82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

遺構外出土縄文土器（3）

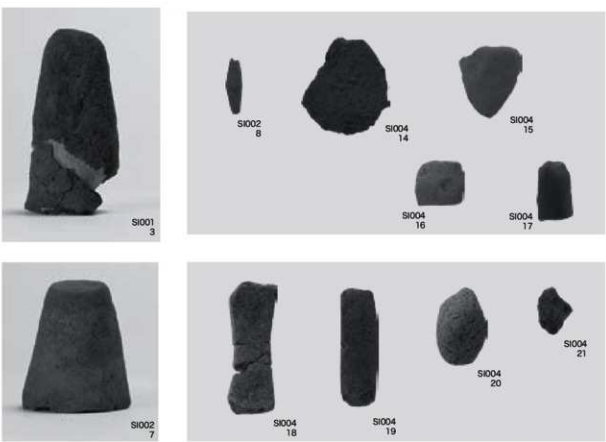


縄文時代石器

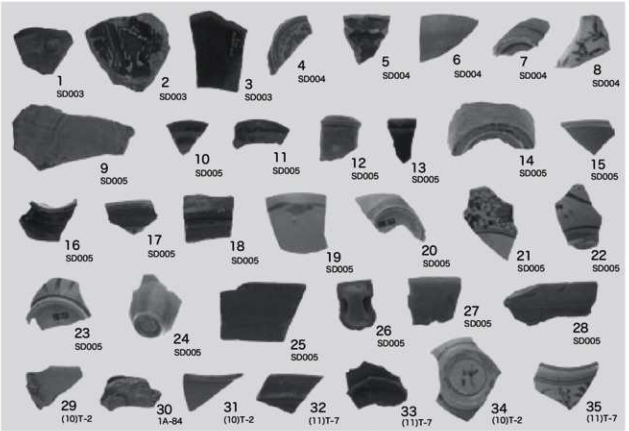
古墳時代住居跡出土土器（1）



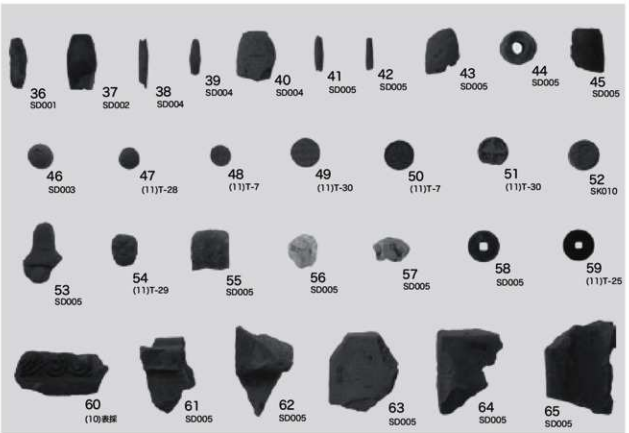
古墳時代住居跡出土土器（2）



古墳時代住居跡出土土製品・石製品



中・近世陶磁器・土器（S=1/3）



中・近世土製品・石製品・銭貨・瓦（S=1/3）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ふなばししとびのだいかいづか
書　　名	船橋市飛ノ台貝塚
副　書　名	海神県営住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第656集
編 著 者 名	西川博孝・落合章雄・木原高弘
編 集 機 関	財団法人千葉県教育振興財団　文化財センター
所　在　地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の２　　043-424-4848
発 行 年 月 日	西暦2011年３月18日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
飛ノ台貝塚（とびのだいかいづか）（7）・（10）・（11）	千葉県船橋市（ちばけんふなばしし）海神（かいじん）３丁目1210-３ほか	204	014	35度42分24秒	139度58分37秒	20030501～20030815 20060918～20061228 20100201～20100325	9,704 ㎡	海神県営住宅建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飛ノ台貝塚（7）・（10）・（11）	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 中・近世	遺物集中地点４か所 土坑３基 炉穴22群45基 竪穴住居跡４軒 溝状遺構５条 土坑１基	石器（ナイフ形石器・石核ほか） 縄文土器 石器 土師器 須恵器 砥石 土錘 陶磁器 瓦 土製品	

要　　約	旧石器時代の遺物集中地点はⅩa層１ブロック、Ⅲ層３ブロックである。縄文時代の炉穴・土坑のうち６群１基から野島式が、１群から鵜ガ島台式が出土した。古墳時代竪穴住居跡は鬼高式期のものである。

千葉県教育振興財団調査報告第656集

船橋市飛ノ台貝塚

—海神県営住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

平成23年3月18日発行

編　集	財団法人　千葉県教育振興財団 文化財センター
発　行	千葉県県土整備部 千葉市中央区市場町1-1
	財団法人　千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809-2
印　刷	株式会社エリート情報社［印刷出版局］ 成田市東和田415-10